

館藏書目號

CZ
4
020

官令全報

第十二號



東京新聞

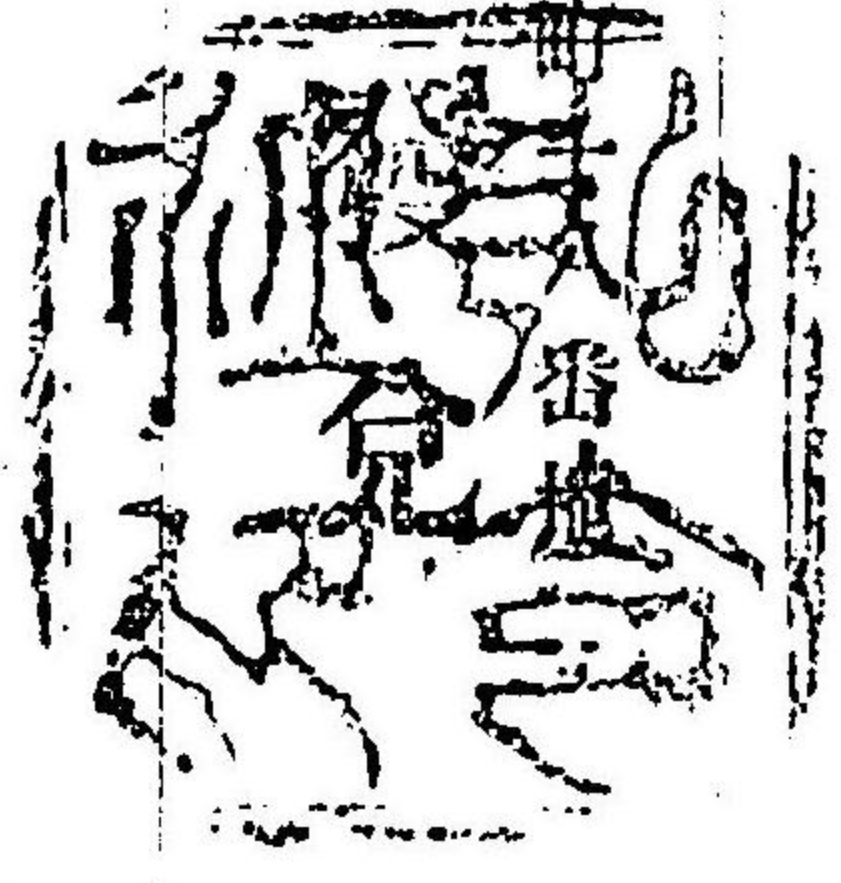
明治十年七月三十一日刊行

全報

第十二號

東京神田區神田五軒

弘令社



CZ
4
020

官令全報第十二號目錄

明治十年
七月

弘令社發兌

〔太政官〕 御布告

- 第四十五號 萬國郵便聯合條約連盟ノ件 一
- 第四十七號 郵便切手并郵便封皮代價改正 十五
- 第四十八號 民事刑事ノ上告ニヨリ檢事ヲシテ再審ヲ求メシムルノ件 十八
- 第五十號 諸証書ノ姓名ハ必ス本人自書タルヘキ心得 十八
- 第五十一號 硝石輸出ノ義當分ノ内禁止 十九
- 第五十二號 日本形商船外國へ渡海ノ節國旗掲揚ノ件 二十一
- 第五十三號 各種ノ地租徵收期限改定 四十七
- 第五十四號 本年製造ノ蠶種免許印紙相定メラル 五十六

〔太政官〕 御達

- 第四十六號 廢官再任並年俸月俸ヲ定メラル 五十二
- 第四十七號 大審院諸裁判所大中小屬被廢更ニ官等給定メラル 五十三
- 第四十九號 脫走ノ軍人軍屬等護送取計方 五十三
- 第五十號 (全報第二十四号ニ載ス) 五十三
- 第五十一號 各廳ニ於金錢爲替出納等爲取計候者ト條約取結方廢セラル 五十三
- 第五十二號 明治八年第五十四号達官役人夫傷手當規則第三條中改正 五十四
- 第五十三號 親王署名ハ御稱號ヲ省キ官品親王ト被定 五十四

丙〔內務省〕

御布達

- 甲第十三號 府縣社以下神社什物取扱ノ順次 十七
- 甲第十四號 佛國巴里府大博覽會諸規則 二十五
- 甲第十五號 反別組替地所交換ノ件 二十四
- 乙第五十八號 賣藥鑑札等下渡方遠隔ノ地ハ該地方廳ニ於テ取扱ノ件 十一
- 乙第五十九號 郵便脚夫足痛等ノ節町村戸長心得方 十六
- 乙第六十號 萬國博覽會事務自今內國博覽會事務局へ可申出件 十六
- 乙第六十一號 警察上賞與等届出ノ義取消サル 十七
- 乙第六十二號 獄事計表調製ノ義ニ付心得方 十七
- 乙第六十三號 地方民費當分節減ノ件 二十一
- 乙第六十四號 棄兒養育ノ者賞與方心得 二十四
- 乙第六十五號 賣藥規則改正追加 二十四
- 乙第六十六號 明治七年一月一日調全國戶籍表編制 五十五
- 乙第六十七號 丁第拾號ヲ以神宮并官國幣社へ達セラレシ件 五十五
- 丁第拾號 各社神官旅費ノ儀ハ許可ヲ得テ往返スル外支給不相成件 五十六
- 圖書局錄事 圖書納方成規 五十一

陸〔陸軍省〕

御布達

- 達甲第二十號 先般臨時召募ノ諸兵下士現今服役中賞與米被下方 四十八
- 達乙第卅八號 玄關番以下給與ノ被服類并帽渡方改定 十七

海〔海軍省〕

御布達

甲第四號 造船所定雇職工規則書式 十三

大〔大藏省〕

御布達

- 甲第十八號 愛知縣下秩祿公債証書紛失之分發顯届出ルノ件 二十三
- 甲第十九號 愛知縣下へ第十一國立銀行設立紙幣發行 五十
- 番 外 銀行大意書籍壹部ツ、下付ノ件 十二
- 乙第二十三號 爲替方條約ヲ廢シ更ニ命令書下付ノ義ニ付心得方 五十一

文〔文部省〕

御布達

報告第十六號 大坂師範學校於テ生徒入學差許サル 十

工〔工部省〕

御布達

- 第八號 神戸港ニ於テ一個ノ竿燈設置 四十八
- 第九號 長崎縣下平戸港伏瀬礁標不慮ノ災難ニ罹リ破壊ノ件 五十六

宮〔宮內省〕

錄事

○ 皇太后宮 皇后宮行啓ノ節自今旌章掲ケ方ノ件 四十九

開〔開拓使〕

御布達

甲第三號 根室國根室郡ニ新ニ街衢並町名ヲ定メル 十

地〔地租改正事務局〕

御布達

甲第一號 海岸其他宅地等他ノ比較無之地價改租ノ件 五十五

乙第七號 券狀紙價納付ノ節納証書記載方伺

五十四

〔警視局〕 御布達

甲第十六號 旅人宿其他營業ノ者廢業ノ節鑑札添届出方

十五

甲第十七號 鉛賣買ノ儀漁網必用品ニ付實際入用ノ分買求方出願ノ件

十五

丙第三號 娼妓入院中其父母疾病ニヨリ廢業願手續

十六

番 外 出頭退廳刻限改正

二十一

〔內國勸業博覽會事務局〕 錄事

東本館七月六日落成

二十二

西本館七月二日落成

二十三

博覽會東西本館落成ニ付物品陳列方ノ件

四十九

〔勸農局〕 錄事

鳥獸職獵鑑札壹枚遺失届

五十

〔東京府〕 御布達

甲第七十三號 臨時召募ノ遊撃隊其他軍役滿期ノ者服役延期ノ件

十一

甲第七十四號 郵便切手改正見本ハ區長へ下付ノ件

二十二

甲第七十五號 七月十一日ヨリ出頭退散刻限改定

二十一

甲第七十六號 東京裁判所及各區裁判所共出頭退散刻限改定

二十三

乙第七十九號 自費架橋ノ儀ニ付心得方

二十三

乙第六十號 內國勸業博覽會出品人ノ内物品交換等出願期限ノ件

十一

乙第六十一號 後備諸兵召集ノ節病氣并逃亡等ノ者届方

十四

乙第六十二號 天然痘感染豫防ノ爲メ施種注意方

十四

乙第六十三號 生糸改會社今般願ニ依リ廢社

二十二

乙第六十四號 上野凌雲院ヲ内國勸業博覽會掛假出張所ニ定メラル

四十九

乙第六十五號 佐渡國臺ヶ鼻へ燈臺建築點燈ノ件

五十

丙第百五十六號 市街地租即今地位等級審議中ニ付假納ノ件

十二

丙第百六十一號 區内人民ヨリ小學校資金寄附ノ節費用方

十九

丙第百六十四號 神田玉川兩上水引取井戸廢存ノ爲メ鑑札付與ノ件

二十

丙第百六十六號 月表差出方遷延ニ付爾來注意ノ件

四十七

勸業課報告第五號 商法講習所生徒入學差許サル

十二

勸業課報告第六號 明治十一年佛國博覽會ニ係ル通報及見本品等可差出件

二十二

勸業課報告第八號 商法講習所生徒并英語ニ通スルモノ入學差許サル

五十二

學務課報告第四號 今般西南戰地ニ於テ父兄等戰死ノ者入學處置ノ件

十三

學務課報告第五號 公立小學教員中習字帖ニ安ンセサル様注意方

十三

學事報告第七號 女子小學教員志願ノ者并ニ公費生入學差許サル

十九

番 外 猥リニ游泳致シ溺死ノ者無之様人民へ懇諭ノ件

十九

全 小學習字帖下等七八級ノ分刻成ニ付望ノ向へ拂下ノ件

二十

全 甲第六十六號魚鳥市場例規正誤

二十三

丙 (内務省日誌明治十年第十號)

目次

- 石川縣 伺 鳥獸獵規則改正并鑑札等ノ件 二
- 福島縣 伺 岩城國八幡社無用ニ付無代價下ケ渡ノ件 二
- 滋賀縣 伺 縣社例祭官吏參向ノ義ニ付心得方 二
- 兵庫縣 伺 後見人其他年齡等ノ件 三
- 滋賀縣 伺 警察本署分署急報ノ爲メ乘馬備方ノ件 三
- 兵庫縣 伺 賣藥鑑札下渡方并毀損ノ節心得方 四
- 愛知縣 伺 警察其他屯所等備付品ノ内破損之分取計方 四

丙 (内務省日誌明治十年第十一號)

目次

- 神奈川縣 伺 金祿公債証書交付處分方 四
- 神奈川縣 伺 廢官再任ノ節官記日付月俸支給方 四
- 千葉縣 伺 發賣ヲ要セサル印刷ハ縣廳限リ聽置ノ件 四
- 長野縣 伺 舊筑摩縣廳新築廢止ニ付献金下ケ戻ノ件 五
- 福島縣 伺 戸籍調査并取扱ノ件 六
- 和歌山縣 伺 疫馬撲殺埋没方ノ件 六
- 堺縣 伺 他人ノ著譯書等節略出版スル節處分方 七
- 島根縣 伺 難破船及漂流物見當主警察官吏クルトキノ心得方 八
- 東京府 伺 金穀借用証書々替方ノ件 八
- 山梨縣 伺 賣藥營業者及請賣者トモ免許看板ノ件 八

丙 (内務省日誌明治十年第十二號)

目次

- 三重縣 伺 家督相續伺出ノ内幼主ニテ相續人ヲ迎ヘ候節心得方 九
- 滋賀縣 伺 口主死亡一時絶家ニ属スル土地遺財等處分方 九
- 長崎縣 伺 眞宗甲派ノ寺院住職本山ヨリ擯斥ニ付處分方 十
- 山梨縣 伺 宗旨不歸依ニ付改宗スルヲ該寺住職不承認ノ件 十一
- 埼玉縣 伺 役場狹隘ニ付建増摸樣換其外使役方等數件 十二

丙 (司法省指令錄民事部第十八號)

目次

- 三重縣 伺 裁判所關係事件ニ付指令ノ儀 伺 二
- 東京裁判所 伺 人民ヨリ區戸長ヘ掛ル訴訟ノ儀ニ付伺 二
- 愛媛縣 伺 訴狀引繼方ノ儀ニ付伺 三
- 静岡裁判所 伺 民事審判中吟味願ヲ爲スモノノ儀ニ付再伺 七
- 名古屋裁判所 伺 訟獄審理表調製ノ儀ニ付伺 九
- 長崎裁判所 伺 民事身代限之節差押ヲ可カラサル物品處分之儀ニ付伺 十
- 三重縣 伺 諸證書等本版或ハ活字版ヲ用フル儀ニ付伺 十一
- 松本裁判所 伺 審理表調製方ノ儀 伺 十二
- 箱館裁判所 伺 請人ニ係ル出訴期限其他數件 伺 十三
- 金澤裁判所 伺 訟獄審理表調査ノ儀ニ付伺 十五
- 大坂裁判所 伺 同上 伺 十五
- 名古屋裁判所 伺 訴訟入費規則ノ儀ニ付伺 十六
- 千葉縣 伺 証書檢査之儀ニ付伺 十六

横濱裁判所ヨリ出訴期限規則中期ノ儀ニ付伺

十七

司 司法省指令錄民事部第十九號 目次

宮城上等裁判所ヨリ訴答文例第二十條末項曲庇壓制控訴ノ儀ニ付伺	二十
福島裁判所ヨリ同上伺	二十二
水戸裁判所ヨリ裁判手續ノ儀ニ付伺	二十四
東京裁判所ヨリ原裁判執行ノ儀ニ付伺	二十七
静岡裁判所ヨリ本年丁第廿三號達訟獄審理表追加ノ儀ニ付伺	二十八
大審院ヨリ外國人ヨリ上告預金ノ儀ニ付伺	二十九
青森ヨリ裁判所ヨリ人民呼出御用狀賃錢仕拂方ノ儀伺	三十
和歌山ヨリ律法上說辨ノ儀ニ付伺	三十一
金澤裁判所ヨリ出訴期限之儀ニ付伺	三十四
東京府ヨリ代理委任方ノ儀ニ付伺	三十四
静岡裁判所ヨリ民事訴訟審理中ノ主件ヲ警察官ニ吟呼願ヲ爲ス儀ニ付伺	三十五
福島裁判所ヨリ建物書入質ノ儀ニ付伺	三十六
長野縣ヨリ老幼者代差出方ノ儀伺	三十七
熊谷裁判所ヨリ出訴期限被答辨ヲ俟テ受理不受理ヲ裁決スル儀伺	三十八
山梨縣ヨリ控訴ノ儀ニ付伺	三十九

目次終

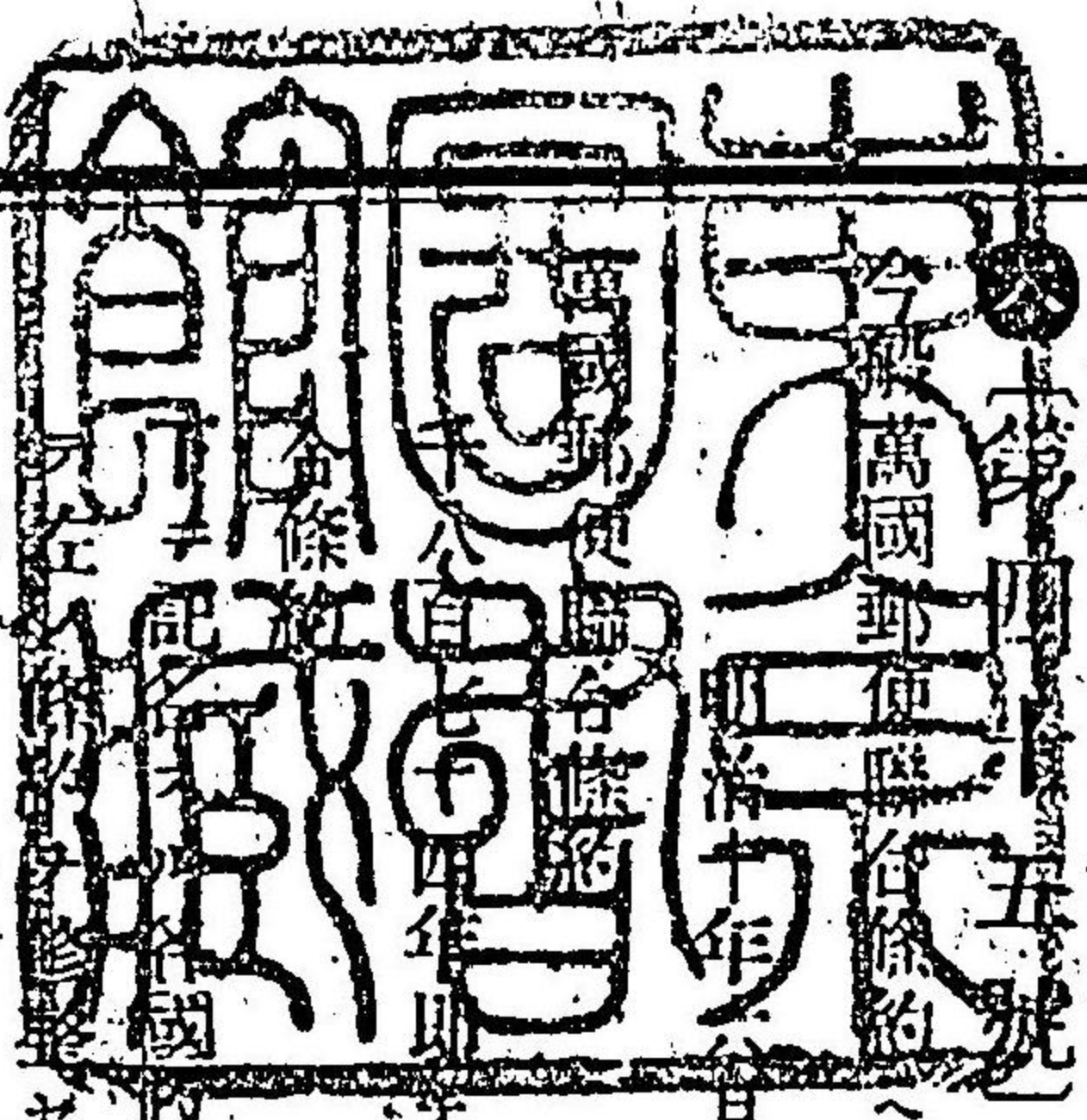
官 令 全 報 第 十 二 號 明 治 十 年 弘 令 社 發 兌

十二年三月廿七日以第拾壹號御布告改正



今般萬國郵便聯合條約ニ連盟相成候ニ付別冊相添此旨布告候事

右大臣岩倉具視



明治七年十月九日瑞西國ヘルン府ニ於テ締結セル萬國郵便聯合條約ニ於テ各々其郵便局ノ間ニ郵便物ヲ交換セシメ爲メ萬國郵便聯合ノ名義ヲ以テ單一ヲ郵遞邦疆ヲ畫スヘシ

第一條 締盟ノ諸國ハ各々其郵便局ノ間ニ郵便物ヲ交換セシメ爲メ萬國郵便聯合ノ名義ヲ以テ單一ヲ郵遞邦疆ヲ畫スヘシ

第二條 此條約ニ遵テ交換スヘキモノハ聯合ノ諸國ヨリ發シ聯合ノ諸國ニ遞送スヘキ信書端書書籍新聞紙諸般ノ印刷物其他商品ノ見本公用及ヒ商用上ノ書類トス

又聯合ノ諸國ト聯合外ノ諸國ノ間ニ前節記載ノ郵便物ヲ交換スルコトアルヘシ但シ此交換ハ少ナクモ二個以上聯合ノ州郡ヲ要スルキニ限ルヘシ

第三條 聯合疆内ニ於テ拂ハシムヘキ郵便稅ハ前拂ニテ信書一通廿五セントム(一七)

ンナムハ我カ凡ソ一厘九毛ニ當ルトニ定ム可シ然レモ通貨其他計算上ノ異同ヲ調理セシメ爲メ右定稅ヲ多少増減スルハ各國其自由ニ任スヘシ尤モ此増減ハ三十五センチナムヨリ過超セサルヘク廿センチナムヨリ減少セサルヘシ
重量十五グラムニ過キサル信書ハ一通トナスヘシ故ニ此重量ニ超ル信書ハ每十五グラム若シクハ其分數毎ニ一通ツ、ノ定稅ヲ拂ハシムヘシ
前拂セザル信書ハ其届先ノ國ニ於テ二倍稅ヲ拂ハシムヘシ郵便端書ハ前拂スルヲ以テ定則トス尤モ其額稅ハ前拂信書定稅ノ半減タルヘシ若シ其稅額ニ分數ヲ生スルカ如キハ之ヲ全數ニ充テヘシ

聯合ノ疆内ニ於テ海運ノ路程三百海里以上ニ及フモノハ通常稅ノ外更ニ增稅ヲ拂ハシム此增稅ハ聯合疆内ニ於テ前拂信書定稅ノ半額ニ超ユヘカラス

第四條 公券及ヒ商用上ノ書類商品ノ見本新聞紙假綴本綴ノ書籍、雜誌、藥譜、名刺書、名錄、大意報告書、又ハ廣告書類ハ活版木板ニ拘ハラヌ石版筆書寫具ヲ問ハス聯合全國ヲ通シテ一箇七センチナムツ、ノ定稅ヲ拂ハシムヘシ然レトモ通貨其他計算上ノ差同ヲ調理セシメ爲メ右定稅ヲ多少増減スルハ各國其自由ニ任スヘシ尤モ此増減ハ十一センチナムヨリ過超セサルヘク五センチナムヨリ低減セザル可シ
重量五十グラムニ過キサルモノヲ以テ一箇トナスヘシ故ニ此重量ニ超ルモノハ五十グラム毎ニ若シクハ其分數毎ニ一箇ノ定稅ヲ拂ハシムヘシ
聯合疆内ニ於テ海運ノ路程三百海里以上ニ及フモノハ通常稅ノ外更ニ增稅ヲ拂ハシ

ムヘシ

但シ此增稅ハ聯合疆内ニ於テ此種ノ郵便物ヨリ拂ハシムヘキ定稅ノ半額ニ過クヘカラス

此種ノ郵便物ノ最大重量ハ商品見本類ヲ二百五十グラム其他ノ郵便物ハ總テ一千グラムト制限スヘシ

聯合ノ各國政府ハ其國ノ政令法度ニ矛盾シテ發行セル此種ノ郵便物ヲ其國境ヲ通シテ遞送配達セサルノ權利ヲ有スヘシ

第五條 第二條ニ記載シタル郵便物ハ書留ヲ以テ遞送スルヲ得ヘシ

各書留ノ郵便物ハ前拂セサルヘカラス

前拂ハ書留郵便物又ハ書留ニアラサル郵便物モ同様タルヘシ

書留手数料及ヒ書留ヲ領受シタル報知ノ手数料ハ之ヲ發出スル國ノ内地郵便成規ニ遵テ取立可キ金額ニ過クヘカラス

非常變災ヲ除クノ外其他ノ原因ニヨリ書留郵便物ヲ毀失スルキハ毀失ヲ釀シタル地ノ郵便局又ハ其海運ヲ取扱タル局ヨリ五十フランク（一フランクハ我凡ソ十九錢ニ當ル）ノ償金ヲ其差出人又ハ差出人ノ望ミニヨリ受取人へ拂フヘシ尤モ國法ニヨリ書留郵便物ノ危難辨償ヲ擔保セサル郵便局ハ此限ニアラス

此償金ハ成丈ケ遲滞ナク拂フヘシ若シ遲滞スルモ其請求ヲ促シタル日ヨリ一ケ年ヲ過クヘカラス

請求ヲ促カスノ時限ハ最初其書留ナ差出シタル時ヨリ一ケ年ノ中ニ促カスヘシ此期限ヲ過クレハ其請求ヲ許ルサス

第六條 各種郵便物ノ前拂ハ之ヲ發出スル國ニ於テ發行セル郵便切手又ハ郵便封皮ヲ以テスヘシ

前拂セサルカ又ハ不充分ニ前拂シタル新聞紙又ハ其他ノ出版物ハ之ヲ遞送スヘカラス尤モ其他ノ郵便物ハ前拂セサルモ不充分ニ前拂セルモ續テ前拂セサル信書ト見做シテ之ヲ遞送シ信書定税ノ二倍ヲ取立ヘシ但シ郵便封皮或ハ切手ヲ以テ多少ノ税ヲ拂ヘルモノハ之ヲ引去リ右倍税ニ算入スヘシ

第七條 聯合疆内ニ於テハ郵便物ヲ再達ノ爲メ何等ノ増税ヲモ取立ヘカラス然レトモ聯合ノ一國內ニ發シタル其内地遞送ノ郵便物ヲ再達ノ爲メ聯合ノ他國ヘ其内地遞送トシテ差立ルキハ其届先ノ郵便局ニ於テ其内地遞送税ヲ増加スヘシ

第八條 郵便事務ニ關シタル公用信書ハ都テ無税ニテ遞送スヘシ尤モ右公用信書ノ外ハ無税又ハ減税遞送ヲ許ルサス

第九條 既ニ記載シタル第三第四第五第六第七條ニ依憑シテ領受セル金額ハ各局ノ所得トシテ之ヲ収ム可シ故ニ聯合ノ各郵便局ハ互ニ計算ヲ保ツニ及ハス

信書其他ノ郵便物ハ前數條ニ記載スル如ク當然拂ハシムヘキ税額ノ外發出地又ハ到着地ヲ問ハス差出人或ハ請取人ヨリ何等ノ税ヲモ取立ヘカラス

第十條 聯合ノ疆内ヲ通シテ繼續郵便ヲ往復スルハ正ニ其自由ヲ保證スヘシ故ニ聯

合ノ各郵便局ハ其時ノ都合ト事務ノ緩急ニ依リ閉塞又ハ開塞ヲ以テ其媒介國ヲ通シ互ニ繼續物ヲ遞送交換スルハ全ク其自由ニ任スヘシ

閉塞又ハ開塞ハ其郵便局ノ任意ヲ以テ最モ速達スヘキ線路ヘ向ケ之ヲ遞送スヘシ若シ數條ノ線路均シク速達シ得ヘキカ如キハ其差立局於テ其最モ速達シ得ヘキ線路ヲ選定スルノ權理ヲ有セリ

信書其他ノ郵便物ハ數夥多ニシテ繼續局ノ手數ヲ煩ハスニ足ルモノ、如キハ閉塞ニ仕立ルチ以テ通例トス但シ差立ノ郵便局ハ其因故ヲ告知スヘシ

差立局ハ其繼續局ニ對シテ閉塞又ハ開塞ニ拘ハラズ信書ハ正量キログラムニ付二フヲシテ第四條ニ掲載セル郵便物ハ正量キログラムニ付二十五センチムツ、手數料トシテ拂フヘシ

一ノ媒介局ヲ通シテ繼續スヘキ郵便物ノ重量七百五十キログラム以上ニ至ルキハ此手數料ヲ増加シテ信書ハ四フヲシテ第四條ノ郵便物ハ五十センチムトナスヘシ

然レ繼續郵便ノ爲メ是迄現ニ手數料ヲ取立サルカ或ハ下低ノ課金ヲ收入シ來タル場合ニ於テハ從前ノ振合ニ遵ノ可ハ勿論ノフトス聯合ノ疆内ニ於テ路程三百海里以上ヲ通シ繼續物ヲ海運スルキハ其海運ノ取扱ヲナセル若シクハ其事業ヲ維持スル郵便局ヘ其海運ニ屬スル費用ヲ領受スルノ權理ヲ有スヘシ

聯合ノ各局ハ此海運ニ屬スル費用ノ成丈ケ減少セシテ勤ムヘシ
海運ノ事業ヲ維持スル郵便局ハ信書ハ正量キログラムニ付六フヲシテ五十センチム

第四條ノ郵便物ハ正量マログラムニ付五十セントナムヲ過キサル金額ヲ其差立局ヨリ要請スルヲ得ヘシ

此海運ノ費用ハ前節記載ノ金額ヨリ決シテ多カラサルヘシ故ニ現費ヨリ多キ金額ヲ海路運送ノ費用トシテ拂フヘカラス

閉塞又ハ開塞ニ拘ハラズ繼越郵便物ノ重量ヲ整調シテ爲メ雙方ノ協議ヲ以其勘定期限ヲ約シ曾テ二週間遞送セシモノ、計算ヲナスヘシ此計算ハ他日精算仕上ケヲ爲ス迄雙方ノ郵便局ニ於計算ノ根基トナスヘシ各局夫々精算仕上ケヲ督促スルヲ得ヘシ

第一 繼越物ノ遞送方法ニ於テ必要ナル變更ヲナセシ場合ニ於テ

第二 最前計算ヲ爲シタル日ヨリ一ケ年ノ期限ノ過キ去ルキニ於テ

本條ノ諸節目ハ印度郵便又ハ紐約桑港間ノ鐵道ニ依リ合衆國ヲ橫截シテ到着セルモノニ其効力ヲ及ホサ、ルモノトス斯ノ如キ郵便事務ハ其相關涉セル郵便局ノ間ニ取極メタル一種ノ約條トシテ其取扱ヲ續クヘシ

第十一條 聯合ノ諸國ト聯合外ノ諸國ノ間ノ約束ハ即今存在スル又ハ將來締結スヘキ一種ノ約條ニ依テ之ヲ整理スヘシ

聯合國外ニ遞送スヘキ郵稅ハ前節一種ノ約條ニ依テ之ヲ定ム可シ此場合ニ於テハ聯合内ノ定稅ニ右ノ稅額ヲ加フヘシ

第九條ノ節目ニ從テ聯合内ノ定稅ヲ左ノ如ク割合フヘシ

第一 聯合ノ差立局ハ他ノ外國ニ差立タル前拂郵便物ヨリ其聯合内定稅ノ全額ヲ

收領シ得ヘシ

第二 他ノ外國ヨリ發セシ前拂セサル郵便物ヲ受取タル局ハ其聯合内定稅ノ全額ヲ收領シ得ヘシ

第三 他ノ外國ト閉塞ヲ交換スル聯合内ノ郵便局ハ其外國ヨリ到着セズ前拂ノ郵便物及其外國ニ差立タル前拂セサル郵便物ヨリ其聯合内定稅全額ヲ收領シ得ヘシ

第一第二第三項ニ記載セル場合ニ於テ外國ト郵便物ヲ交換スル局ハ繼越ノ爲メ何等ノ勘定ヲ要求スルヲ得ス然レトモ其他ノ場合ニ於テハ總テ第十條ノ箇條ニ遵テ繼越ノ爲勘定ヲ求ムルヲ得ヘシ

第十二條 價額公記ノ書狀及ヒ郵便爲替証書ノ交換ハ聯合ノ數國若シクハ其群國ノ間ニ特別ノ約條ヲ以テ之ヲ定ム可シ

第十三條 聯合各國ノ郵便局ハ此條約ヲ實施セン爲メ協同合議ヲ以テ必要ナル細目及ヒ順序ヲ規畫シ以テ細目規則ヲ定ム可シ

此細目規則ノ條款ハ協同合議ヲ以テ尙ホ之ヲ變更シ得ヘキハ勿論タルヘシ
總テ聯合ニ干涉セサル事件例ヘハ分界地ノ交換方法近國ヲ通シテ低稅遞送ノ區域ヲ定メ郵便爲替証書及ヒ價額公記書狀等ノ交換方法ヲ定ムルカ如キハ各局ニ於テ夫々適切ノ處分ヲナスヘシ

第十四條 此條約ノ諸條款ハ各國內地ノ郵便成規ヲ變更スルノ効力ナキモノトス且郵便事務ヲシテ一層簡便ナラシムルノ目的ヲ以テ數國相聯絡シ或ハ締盟スルノ自由ヲ

東縛スルコトナシ

第十五條 萬國郵便聯合總理局ノ名義ヲ以テ一ノ中央局ヲ置キ會同ヲ以テ撰舉シタル一ノ郵便全權ヲノ之ヲ擔當監檢セシム可シ其諸費ノ如キハ聯合各國ヨリ之ヲ給ス可シ此總理局ノ主務ハ萬國郵便事務ニ關涉セル各般ノ報知ヲ拾收シ之カ上本シ之ヲ頒布スヘシ且若シ聯合ノ兩國異議ヲ生スルカ如キハ其告發ヲ得テ之ヲ說明ヲ附スヘク、細目規則ヲ變更スルニ臨ンテ先ツ其問題ヲ觸知スヘク、一般ニ係ル計算ヲ簡易ナラシム可ク殊ニ第十條ノ出納ヲ詳明ナラシム可シ總テ聯合全國ニ關スル利害ヲ攻察シ宜ニ隨テ之ヲ裁理スヘシ

第十六條 此條約ノ意味ヲ說解スルニ係リ聯合内ノ二局以上異論ヲ構ヒルキハ中裁判ニ依テ之ヲ斷決スヘシ故ニ異論ヲ生シタル各局ハ此事ニ關係ナキ聯合内ノ他局ヲ推シテ之ニ當ラシム可シ

此斷決ハ中裁判員ノ多數ヲ以テ定ム可シ若シ同數兩分スルカ如キハ此中裁判員タル者齊シク此事ニ關係ナキ他局ヲ推シテ更ニ其斷決ヲナサシム可シ

第十七條 海外ノ諸國新タニ此聯合ニ加入セント要セハ左ノ順序ニ照準スヘシ

- 第一 聯合ニ加入セント欲スルノ國ハ萬國郵便聯合總理局ノ事務ヲ主理スル全權ニ之ヲ請願スヘシ
- 第二 聯合ニ加入セント要セハ聯合條約ノ諸節目ヲ履行セサルヘカラス尤モ海路遞送ノ經費ノ如キハ別種ノ協議ニ遵フヘシ

第三 聯合ニ加入セントセハ先ツ郵便交換條約既整國ノ全權即チ直接ノ關係ヲ有スル國ノ全權ノ間ニ於テ協議ヲ得ンコトヲ要ス

第四 此協議遂ンガ爲メ萬國郵便聯合總理局ヲ主理セル全權ハ若シ機會ヲ得ハ紹介スル全權ト加入ヲ希望スル全權ノ會議ヲ命スヘシ

第五 此協議整頓スルルキハ萬國郵便聯合總理局ヲ主理セル全權ヨリ之ニ聯合ノ諸國ニ報知スヘシ

第六 之ヲ報知スルノ日ヨリ算ノ六週間ノ中ニ故障ヲ發スルモノナキキハ其加入ヲ許可セシモノト看做シ主理ノ全權ヨリ加入ノ全權ニ其事ヲ報知スヘシ然后其主理スル全權ノ政府ト其加入セル全權ノ政府ト特命ヲ以其加入ヲ確實ナラシム可シ第十八條 此條約ニ加ハル各國全權公使ハ少ナクモ每三ケ年ニ於テ會同合議シ以テ聯合ノ方法ヲ完全ニシ以テ緊要ノ釐正ヲ加ヘ以テ一般ノ得失ヲ論定スヘシ

發聲ノ權理ハ各國各々一トス
各國一員若シタハ數員ヲ出シテ代理セシムルモ或ハ他國ノ委員ヲシテ其代理ヲ兼ベシムルモ妨ケアルコトナシ

然レモ一國ノ委員ハ其自國ヲ併セテ二ケ國ヲ限リ代理スルヲ得ヘキハ勿論タルヘシ次後ノ會同ハ千八百七十七年佛國巴黎府ニ於テ之ヲ開クヘシ然レトモ少ナクモ聯合國ノ三分一ノモノヨリ其期ヲ急促スルキハ之ヲ縮スヘシ

第十九條 此條約ハ千八百七十五年即チ明治八年七月一日ヨリ施行スヘシ但シ施行

ノ期限ハ常日ヨリ三ヶ年ト定ム可シ
 滿三ヶ年後ニ至ルモ尙ホ此期ヲ伸長スルヲ得ヘシ然レトモ聯合ヲ脱セントスルノ各
 國ハ一ヶ年前ノ報ヲ以テ退去スルノ自由ヲ有ス可シ
 第二十條 此條約實施ノ日ヨリ是迄各國及ヒ各局ノ間ニ取結タル別種ノ條約中此條約
 ノ箇條ニ抵觸スルモノ及ヒ第十四條ノ節目ヲ妨害セサルモノハ總テ廢止スヘシ
 此條約ハ成丈ケ速カニ批准ヲ要スヘシ其最モ遲延ニ至ルモ實施前三ヶ年ヲ出ヘカラ
 ス但シ批准ノ交換ハベルン府ニ於テ執行フヘシ下ニ掲ケタル各國政府ノ全權公使ハ
 此條約ヲ證セン爲メ千八百七十四年即チ明治七年第十月九日ベルン府ニ於テ手書記
 名スルモノ也
 各國政府ノ全權公使手記記名ハ略之

〔文部省報告第十六號〕

明治十年六月十八日發行

文部省所轄大坂師範學校ニ於テ小學師範學科生徒三十名ヲ限リ入學ヲ許ス志願ノ者ハ
 明治八年文部省第五號第七號及明治九年第六號布達ニ照準シ來ル九月一日迄ニ同校へ
 申出ヘシ

〔甲第三號〕

當使管下第二十五大區二小區根室國根室郡根室ニ於テ從前ノ市街ニ接シ新ニ街衢ヲ設
 ケ彌生町ト唱ヘ候條此旨布達候事
 明治十年六月十六日 開拓使長官黒田清隆

〔甲第七十三號〕

先般臨時召募之遊撃隊其他本年五月三十一日限リ軍役年限滿期之者ハ徵兵令中徵兵編
 成并概則其二末項ニ揭示之趣ニ準シ平定迄之間服役延期候旨陸軍省ヨリ達有之候條此
 旨布達候事
 明治十年六月十九日 東京府知事楠本正隆
 正誤 甲第六十八號
 布達管内各區へノ下ニ(別紙區別之通リ受持區)九字ヲ脱ス

〔乙第五十九號〕

自費架橋ノ義ニ付明治七年(五月)第十九號達ノ旨モ有之處其場所柄ニヨリ道巾等ニ不
 關三間以下適宜ノ處分ヲ以許可候義モ可有之候條爲心得此旨相達候事
 明治十年六月廿日 東京府知事楠本正隆

〔乙第六十號〕

區 戶 長
 內國勸業博覽會出品人ノ内物品交換或ハ増減等出願ノ者往々有之處既ニ出品解説書及
 目錄共整頓ノ期ニ臨ニ調理上差支不少ニ付自然交換増減等致度者ハ本月三十日限可申
 出右期限經過ノ上ハ一切採用不致條他日遺憾無之様懇篤可及諭示此旨相達候事
 明治十年六月廿二日 東京府知事楠本正隆

〔乙第五十八號〕

府 縣
 賣藥鑑札並ニ請賣鑑札面月日之儀ハ從前當省ニ於テ記載下渡來候處遠隔之地方營業人

ニ交付スルニ至ルマテ多少ノ日數ヲ經過免許年限ニ關シ差支モ可有之候條自今有月日ヲ藏セテ可送達間各地方廳ニ於テ記入直チニ營業人ニ交付シ鑑札領収證一同記入之日届出候様可致此旨相達候事

明治十年六月二十日

内務卿大久保利通代理

内務少輔前島 密

〔番外〕

府 縣

今般當省ニ於テ刊行政シ候別冊銀行大意ノ儀ハ銀行一般ノ事業ヲ略説セシ者ニシテ國立銀行設立ノ爲參考可相成書籍ニ付壹部ツ、下付候條此旨相達候事

但有書籍ハ東京川瀬石町村上勘兵衛方ニテ爲賣捌候條爲心得相達候事

明治十年六月二十一日

大藏卿大隈重信

〔丙〕第百六十五號

朱引内區戸長

市街地租當半年分(則一月ヨリ六月マテ)可徵收處即今地位等級專ラ審議中ニテ未ク地價整理ニ不至ニ付猶本年甲第十四號布達ニ倣ヒ七月三十一日限假納方可取計此旨相達候事

明治十年六月二十三日

東京府知事楠本正隆

〔東京府勸業課報告第五號〕

當府商法講習所ニ於テ入學増員之儀者本年四月甲第五拾號ヲ以布達相成候處今度多少英語ニ通スル者ヲ撰ヒ生徒二十五名ヲ限リ試験ノ上更ニ入學ヲ許スベシ志願之者ハ七月十五日マテ同所(第一大區二小區木挽町十丁目)へ申出ヘク此旨廣告候也

但教授法并入學手續等ハ同所へ出頭承合スヘシ

明治十年五月二十五日

〔海〕〔甲〕第四號

府 縣

昨明治九年四月甲第二號ヲ以テ及布達候當省所轄造船所定雇職工規則中第十四條ニ左之通り但書并第四號第五號書式雛形追加候條此旨更ニ布達候事

明治十年六月二十三日

海軍大輔川村純義代理

海軍少將中牟田倉之助

但願書并受書差出方ハ第四號第五號書式之通り(別紙畧ス)

〔東京府學務課報告四號〕

就學生徒ノ内今般西南戰地ニ於テ父兄等戰死致候ヨリ一時學資欠乏月謝等ニ差支退學可致者モ可有之候得共一体右等ノ人々ハ無謝學校ニ出ツヘキ等ニシテ未其設無之ニ付テハ各公立小學校へ入學可申出各公立小學校ニ於テ事情取調ノ上當課ニ届出月謝ハ勿論事情ニヨリ學資ノ幾分ヲ補助可相成等ニ候條此旨報告候事

明治十年六月廿七日

學 務 課

〔東京府學務課報告五號〕

公立小學校教員

從來公立小學校教員ニシテ一科或ハ二科ニ偏スル者多ヨリ生徒ニ三科教授候キハ意外多

數ノ教員ヲ要セサルヲ得ス是ガ爲メ學資モ増加スルノ憂有之ヨリ無癖ノ書家相選小學
用習字帖調製相成候處動モスレハ教員中此習字帖ニ安シ自然習字科ニ疏ク相成候テハ
不都合ノ義ニ候條小學教員タル者ハ一科或ハ二科ニ偏シサル様注意肝要ノ事ニ候此旨
報告候事

明治十年六月廿七日

學務課

○正誤 第三號報告學務掛ハ學務課ノ誤

東(乙)第六十一號

區戶長

後備諸兵召集之節病氣并逃亡等之者取扱方自今病氣之者ハ容休書相添三週間毎ニ逃亡
之者ハ三十日毎ニ區戶長證明印之上可届出旨駐在官ヨリ照會之趣モ有之候條爲心得此旨
相達候事

但容休書之儀ハ徵兵令參考追加第四十八條第一式ニ照準可致且本文兩條共届書ハ正
副三通ツ、可差出候事

明治十年六月二十八日

東京府知事楠本正隆

東(乙)第二十六號

區戶長

方今天然痘感染ノ者往々有之候ニ付爲豫防再種再三種ヲ論セテ接種候様注意可致最モ
貧困ノ者ハ當府病院本分局并區醫ヲ各區内之都合ヲ計リ施種爲致候條心得違之者無
之様可相諭此旨相達候事

明治十年六月廿九日

東京府知事楠本正隆

東(甲)第十六號

旅人宿其他左ニ掲クル營業ノ者廢業ノ節ハ自今鑑札相添該區警視分署へ可届出此旨布
達候事 但新規開業及鑑札書換ハ従前ノ通り警視本署へ可願出候事

明治十年六月廿七日

大警視川路利良代理

一旅人宿(寄席)○櫻弓店(但大半弓弩弓)○投扇競○待合茶屋○劇場茶屋○室内射擊銃
○藝妓

大(第)四十七號

郵便切手六錢拾錢拾貳錢拾五錢并郵便封皮貳錢(長角)形ハ左ノ見本ノ通改正候條此旨
布告候事 但當分従前ノ切手封皮取交相用不苦事 (見本略ス)

明治十年六月二十九日

右大臣岩倉具視

警(甲)第十七號

銃炮彈藥賣買ノ義嚴重取締可致旨兼テ公達ノ趣モ有之候處鉛ノ義ハ漁網必用ノ品ニテ
營業上差支モ不少哉ノ趣就テハ漁獵ノ鉛賣買致候者ハ實際入用ノ分量等詳記シ戶長加
印ヲ以テ警視本署へ可願出此旨布達候事

明治十年六月廿九日

大警視川路利良代理

警(丙)第三號

貸座敷有之地區長戶長

娼妓入院中其父母疾病ニヨリ廢業願ノ義ハ本人并親戚貸座敷主元締等連印ノ書面ニ現住ノ區ノ戸長ノ與印ヲ受ク出願爲致候儀ト可相心得此旨豫テ其筋ノ者へ可相達事

大警視川路利良代理

中警視安藤則命

丙〔乙第五十九號〕

明治七年九月御發行飛信送規則第九項ニ途中脚夫足痛等ノ事ニ付テハ豫テ沿途ノ町村戸長へ郵便取扱役ヨリ及協議候次第モ可有之等然ルニ同規則ノ儀ハ一般へ公布相成候儀モ無之故ニ町村戸長等ニ於テモ一般熟知不致ヨリ自然郵便取扱役ノ協議ニ疑惑ヲ生シ時機ニ際シ差支候條能戸長等ヲシテ同規則第六項及九項ノ旨趣ヲ熟セシメ不都合無之様可取計爲念此旨相達候事

內務卿大久保利通代理

內務少輔前島 密

明治十年六月廿八日

丙〔乙第六十號〕

米國博覽會事務是迄該局へ差出來候處本月限リ總裁以下被廢候ニ付自今右ニ關スル事務ハ內國勸業博覽會事務局へ可申出此旨相達候事

內務卿大久保利通代理

內務少輔前島 密

明治十年六月廿六日

丙〔乙第六十一號〕

府 縣 東京府
ヲ除ク

本年二月乙第廿號ヲ以警察上賞與等届出方之儀相達置候處詮議之次第有之取消候條自今都テ昨九年乙第廿八號達之通可相心得此旨更ニ相達候事

內務卿大久保利通代理

內務少輔前島 密

明治十年七月五日

丙〔乙第六十二號〕

獄事計表調製ノ儀ニ付テハ已決監表中入監ノ外決放ノ部收購贖罪除族三項ニ於テハ未決監入不致者ハ記入スルニ不及儀ト可相心得此旨相達候事

內務卿大久保利通代理

內務少輔前島 密

明治十年七月五日

丙〔甲第十三號〕

府縣社以下神社什物之儀自今左之通相心得取締可致此旨布達候事

內務卿大久保利通代理

內務少輔前島 密

明治十年七月五日

一什物ハ各部類ヲ分チ其品柄員數等詳細牒簿ニ記載シ尙他ノ寄附ニ係ルモノハ其年月姓名等ヲモ記入スヘシ

丙〔達乙第三十八號〕

昨九年十一月達第百九十二號ヲ以テ給與概則第四十二表立關番以下給與之被服類本年一月ヨリ改定之通施行可致旨相達置候處帽ハ一歲一個宛一月渡ニ改定候條此旨更ニ相

達候事

明治十年六月三十日

陸軍一般

陸軍卿山縣有明代理

陸軍少將井田 讓

〔第四十八號〕

西洋形船船長運轉手機關手ノ免狀ヲ所持スル者及ヒ官立公立學校ニ於テ海技卒業免狀ヲ所有スル者其他水火夫ノ三年以上其職ニ從事シ賞歴明確ノ者ハ自今陸軍徵兵免除候條此旨布告候事 但海兵編入ノ儀ハ成規ノ通タルヘキ事

明治十年七月四日

右大臣岩倉具視

〔第四十九號〕

民事刑事ノ上告シテ已ニ裁判ヲ經ツル者司法卿其裁判ヲ允當ナラスト思量スル者アル時ハ檢事ヲシテ再審ヲ求メシムルコト得ヘシ右布告候事

明治十年七月六日

右大臣岩倉具視

〔第五十號〕

諸證書ノ姓名ハ必ス本人自ラ書シテ實印ヲ押スヘシ若シ自書スルコト能ハサル者ハ他人ヲシテ代書セシムルヲ得ルト雖モ必ス其實印ヲ押スヘシ其代書セシ者ハ本人姓名ノ傍ニ其代書セシ事由ト己レノ姓名トヲ記シテ實印ヲ押スヘシ右布告候事

明治十年七月七日

右大臣岩倉具視

〔第五十一號〕

硝石輸出差許候旨明治六年二月第四拾七號ヲ以テ相達候處來ル八月十日ヨリ當分ノ内輸出禁止候條此旨布告候事

明治十年七月七日

右大臣岩倉具視

〔番外〕

區 戸 長

游泳之爲溺死候者有之元來許可ヲ得サル場所ヲ除ク之外猥ニ游泳不相成筈ニ候得共自然心得違之者有之ヨリ終ニ性命ヲ失フニ至甚以不安次第ニ候以後右様心得違之者無之様區内人民へ懇諭可致尤警視本署へモ取締方注意可相成旨及通知置候此旨相達候事

明治十年七月五日

東京府知事楠木正隆

〔學事報告第七號〕

女子ニシテ府下小學教員志願ノ者ハ試験ノ上採用可相成ニ付來ル十五日迄ニ申出ツヘシ
東京府師範學校ニ於テ女子公費生募集ノ儀報告候付テハ各公立小學校女生徒上等小學科修業ノ者試験ノ上入學可差許ニ付志願ノ者ハ來ル十日迄ハ當師範學校へ申出ツヘシ

〔丙第百六十一號〕

學區取締

區内人民ヨリ公立小學校資金トシテ金員寄附候節一時ニ費用候様ニテハ寄附者之本意ニモ無之候條右金員蓄積又ハ費用之方法取調其都度可届出此旨相達候事

明治十年七月六日

東京府知事楠本正隆

〔丙〕第百六十四號

神田玉川兩上水樋筋各區々戶長

神田玉川兩上水引取井戶廢存明了ナラサル處ヨリ賦金脫漏ノ恐有之候間自今檢査取締ノ爲メ別紙雛形ノ通木製ノ鑑札井戶所有者へ付與候條井戶郭輪ニ打付置候様通達可致此旨相達候事

但鑑札料ハ上納ニ不及且右調査ノ爲メ當府主務ノモノ派出取調候間豫テ井戶所有者へ通知致置可申候事

明治十年七月六日

東京府知事楠本正隆

雛形

表

燒印
東京府
土木掛

神田
玉川
上水井

第何千何百何拾何號

裏

何年何月何日免許

第何大區何小區

何町何丁目何番地

何之請

〔番外〕

學區取締公立小學教員

先般被相達候小學授業法ニ掲載有之候小學習字帖（茨城縣士族關雪江書ス）下等八級ヨリ上等三級迄ノ分追々調製相成候處既ニ下等八七級ノ分刻成ニ付望ノ向ヘハ拂下相成候條此段及通知候事

明治十年七月六日

東京府學務課

〔第五十二號〕

自今外國ノ渡航ノ日本形商船ハ大小ノ別ナク國旗ヲ掲揚可致此旨仰告候事但國旗ノ寸法ハ明治三年正月布告商船規則中三種ノ内小形ノ分テ可用事

明治十年七月九日

右大臣岩倉具視

庶

〔乙〕第六十三號

府 縣

地方民費之儀本年第二號第二十三號御布告之趣有之候處右ハ地ニ賦課スルノ制限ニ付其他之賦課ニ付テハ追テ規則御布告可相成候得共當分之處ハ專ラ節減之御主意ヲ體認シテ各地適宜之方法假リニ相定メ施行致シ置可申此旨相達候事

內務卿大久保利通代理

明治十年七月七日

內務少輔前島 密

〔甲〕第七十五號

當廳本月十一日ヨリ來ル九月十日迄午前八時出頭正午十二時退散ト相定メ候條諸願伺

十二

屆等ハ右時間ニ可差出此旨相達候事

明治十年七月十日

東京府知事楠本正隆

警 明十一日ヨリ來ル九月十日迄午前第八時出頭正午十二時退廳候條諸願伺共右時限
内差出此旨相達候事

大警視川路利良代理
中警視安藤則命

明治十年七月十日

勸 博覽會建築ノコ

東本館ハ本日落成セリ(請負人田中市五郎)因テ館内ヲ區分シテ列品場ノ位置ヲ定ム
明治十年七月六日 内國勸業博覽會事務局

禁 (乙第六十四號)

太政官第四十七號公布郵便切手改正見本ハ區長へ下ケ渡置候條此旨相達候事

明治十年七月七日

東京府知事楠本正隆

禁 (乙第六十三號)

區 戶 長

明治六年(六月)坤第九十號ノ達生系改會社ノ儀今般願ニ依リ廢社聞屆候條此旨爲心得
相達候事

明治十年七月九日

東京府知事楠本正隆

禁 (東京府勸業課報告第六號)

來明治十一年佛國博覽會ニ係ル通報及ヒ見本品雛形等之遞送ハ本年郵便規則第四條第
三十二節ヨリ第三十七節迄ニ照準遞送相成候旨驛遞局ヨリ通知有之候ニ付此旨報告ス
明治十年七月七日

禁 (甲第七十六號)

東京裁判所及各區裁判所共本日ヨリ來ル九月十日迄午前第八時出頭正午十二時退出候
旨同所ヨリ通知有之候條此旨相達候事

明治十年七月十一日

東京知事楠本正隆

勸 博覽會建築ノコ

西本館ハ本日落成セリ(請負人佐藤岩松)農業館モ亦落成近キコアリ
明治十年七月十一日 内國勸業博覽會事務局

禁 (甲第十八號)

愛知縣下秩祿公債証書紛失ノ旨本年四月十二日甲第拾五号ヲ以相達置候處同縣下ニ於
テ發顯候段届出候條此旨相達候事

明治十年七月十四日

大藏省大隈重信

禁 (甲第六十六號) 魚鳥市場例規正誤

第一條 (近國)ハ遠近ノ誤リ
第八條 (或ハ盤臺以下七字)衍文ナリ

丙〔甲第十五號〕

靜岡縣管下伊豆國君澤郡大場村反別三町壹反七畝貳步、同國田方郡上澤村、同村反別三町壹步、右大場村へ組替地所交換郡界更正候條此旨布達候事

明治十年七月十一日

內務卿大久保利通代理
內務少輔前島 密

丙〔乙第六十四號〕

乘兒養育之者賞與ノ義ニ付本年乙第四十三號ヲ以相達候處明治四年辛未年六月以前願出現今自費養育ノ者モ同月以後十三年ニ至シキハ賞與取計候儀ト可相心得此旨相達候事

明治十年七月九日

內務卿大久保利通代理
內務少輔前島 密

丙〔乙第六十五號〕

本年三月內務省乙第三拾貳號ヲ以テ相達候賣藥規則取扱手續書中左之通改正追加候條此旨可相心得且收稅上ニ關スル事件ハ自今總テ大藏省へ可伺出此旨相達候事

明治十年七月十三日

內務卿大久保利通代理
內務少輔前島 密
大藏卿 大隈重信

第四項改正

一 明治八年七月以降本年一月規則發行前ノ鑑札所持ノ者本年六月マテニ廢業届出候分ハ特別ノ詮議ヲ以本年ニ限リ前半期ノ税金ハ免除スヘシ

第六項改正

一 税金并ニ諸鑑札料納附ノ節ハ上納証ヲ添ユルノミニシテ勘定帳ハ一ケ年取束ネ毎年八月三十一日限リ該地差立大藏省租稅局へ進達スヘシ

但會計年度ノ都合モ有之本年一月ヨリ六月マテノ分ハ別牒ニ製シ八月三十一日限リ該地差立同局へ進達スヘシ

第十項改正

一 賣藥營業稅并諸鑑札料上納勘定帳雛形
明治何年七月ヨリ同何年六月マテ賣藥營業稅并諸鑑札料仕上勘定帳

第二項ノ次ニ追加
一 營業鑑札請賣鑑札ハ所持人ノ居家ニ限リ營業ノ權アルモノニ付別戶支店等ニ於テハ別ニ其居住人ニ於テ鑑札ヲ所持スルコト非サレハ營業スルヲ得ヘカラス

丙〔甲第十四號〕

明治十一年佛國巴里府萬國大博覽會諸規則別冊之通相定候條此旨布達候事

明治十年七月五日
佛國巴里府博覽會出品概則

來明治十一年五月一日ヨリ十月三十一日迄佛國巴里府ニ於テ萬國博覽會開設ニ付茲ニ出品ノ概則ヲ示ス左ノ如シ

一 出品ヲ望ム者ハ本貫又ハ寄留地方廳ノ添簡ヲ以テ來ル七月三十一日迄ニ略目錄

職業族籍ヲ明記シ本局へ申出ベシ

但航海志願ノ者ハ略目錄ヲ以テ出品申出ノ節同時七月三十一日ニ出願スベシ
天産人造ニ限ラズ説アルモノハ其著説ヲ附スヘシ其例

一 天産物ハ見出シ人名年歴産地物質用法及産出高等

一 人造物ハ新古發明人名工名年歴沿革物質製法(但製造ヲ秘スルモノハ記載ニ不及)用法原價製出高外國輸出高等

三 略目錄ハ物品ノ凡積原價及ヒ荷嵩等ヲ記シテ差出スヘシ

但外法三尺四寸二分立方(即一噸)ノ箱詰ニシテ凡幾箱トナルヘキヤノ見込及ヒ會場へ陳列ノ節凡何坪程ノ場所ヲ要ス可キヤノ見込ヲモ併セテ差出スヘシ

四 出品者ハ出願ノ順序ニ從テABCノ符號ヲ配與スルニ付物品并箱共ニ必ス其符號ヲ記スヘシ尙ホ委細ハ附録及出品者心得等ヲ參考スヘシ

五 物品ニハ一ヨリシテ逐次ニ番號ヲ目錄ニ照シテ貼付スヘシ尤同種ニテモ價ヲ異ニスル品ニハ同號ヲ附スヘカラス而シテ何レモ目錄ト齟齬セサル様注意スヘシ

六 外箱ノ寸法ハ典尺三尺四寸三分立方歟或ハ其節半歟四半折ニ仕立物品ヲ詰合スヘシ尤重大ノ品或ハ損シ易シテ他物ト詰合セ難キ品ハ此限ニアラス

七 出品本目錄ハ本年九月中迄ニ各三通ツ、チ差出スヘシ其用紙ハ當局ヨリ下ケ渡スニ付物品調製次第請取方申出ヘシ

但物品落成ニ至ラス原價未定ノ物ハ追テ落成ノ上記入致シ苦カラス

八 出品ハ明治十一年一月一日ヨリ三月三十日迄ニ會場へ輸入スヘキ規則ナルニヨ

リ本年十一月中ニ取纏メ横濱へ差出スヘシ尤場所等詳細ノ儀ハ追テ當局ヨリ通報スベシ

九 但十分精良ヲ盡シ度ヨリ右期限ニ後レベキ見込ノ品ハ其旨速ニ申出スベシ物品ハ其出品主持參渡航スルハ勿論ナレモ若シ事故アツテ他人ニ委託スル時ハ

委任狀ヲ渡スベシ而シテ本人并委託ヲ受シ者連印ニテ出品本目錄ヲ差出スヘシ特ニ展觀ニ供スルノ品ハ目錄ニ其趣ヲ記載スヘシ尤賣却ヲ欲セサル品ト雖

モ海上保險等ノ都合アレハ原價ハ必精細ニ記載スヘシ

十一 物品ハ其出品主又ハ代人持渡ルモ或ハ他人ニ委託スルモ一應本局ノ検査ヲ受クヘシ 但同品多數アルモノハ其内一個ヲ以テ検査ヲ受クヘシ

十二 出品ハ其所在地ヨリ横濱藏入迄ノ運賃ハ自費タルヘシ横濱藏敷并同所ヨリ佛國(巴里府迄)ノ海陸運賃及ヒ保險料ハ一切官ヨリ給與スヘシト雖其船積高ハ費額ノ都合ニヨリ適宜之ヲ減省スヘシ

十三 但持歸品ノ運賃及ヒ本文ニ掲グル諸費其他ノ雜費共總テ自費タルヘシ 出品ハ横濱藏入中及佛國へ着荷ヨリ會場陳列中トモ官ニ於テ保護ノ豫防ハ爲スヘシト雖モ非常災害及毀傷等ノ責ヲ有スルコト無シ

十四 爆發氣及ヒ瀾態汚穢惡臭アル物ハ出品ヲ禁ス

十五 御國輸出税ハ免除佛國輸入税等ハ追テ達スヘシ 但輸入税ハ賣捌ケシ物品ノ原

- 價ニ應シ税關ニテ徴収スルモノナレハ原價ハ必確實ニズヘシ
- 十六 物品陳列ニ付テノ飾箱飾臺敷布等ハ一ト通り官ヨリ給與スヘシト雖モ自己ノ好ミヲ以テ製作スルハ自費タルヘシ
- 十七 出品主並代人委託ヲ受シ者等往返旅費ハ官ヨリ給與スルト雖モ費額ノ都合ニヨリ其人員ハ適宜之ヲ減少スヘシ尤彼地滞在宿料食料其他旅中ノ雜費ハ一切自費タルヘシ 但御國內及ヒ東京橫濱往返旅費ハ一切自費タルヘシ
- 十八 出品中貴重ノ物ハ火難請負ヲ託スコト各國大抵皆然リ其入費ハ概シテ原價百分ノ三位ノ割合ナレハ託スヘキ見込アル者ハ其金額ヲ用意シテ渡航スヘシ
- 十九 渡航人ハ可成佛語ヲ解ス手代ヲ召連ベシ若シ不得止ハ通辨人ヲ雇ヒ使用スルモ妨ケナシ其通辨人ハ手代ノ内ト見做スヘシ 但召連ヘキ人員ハ本貫姓名ヲ詳細當局ヘ届ヘシ又通辨ノ試験ヲ乞ハ、其可否ヲ審査シ與フヘシ
- 二十 本年內國勸業博覽會へ出品ノ内ヨリ該會へ出品セント欲スル者ハ其旨最初出願ノ節申出ヘシ
- 廿一 該會本館ノ陳列品ハ新製ノ物ニ止ルカ故ニ古器物ノ出品ヲ許サス 但製造ノ年歴及ヒ人名判然ニシテ精巧ヲ極メ本邦美術ノ沿革ヲ徵スルニ足ル物品ニ至リテハ當局ニ於テ檢査ノ上特別ニ免許スヘシ
- 廿二 出品本目錄入記目錄認方并荷造心得方ハ附録ノ通心得ヘシ

出品概則附録

第一出品本目錄之事

凡例

- 一區 此區へハ預テ頒布セシ區分目錄ニ照準シ第何大區何小區ト記載スベシ 但シ區ノ違フ品ハ別紙ヲ用フヘシ
- 一出品主 此區へハ本人ノ姓名ヲ記シ實印ヲ捺スベシ若シ甲乙申合セ總代ヲ以テ從事セムルカ他人へ委託スルカノ節ハ連印ニテ差出スベシ且符號ヲ認メ入レベシ
- 但シ結社又ハ組合ヲ設ケ或ハ結社又ハ組合ノ名義ナクトモ數人申合セ出品スル等ノモノハ社名又ハ組合名或ハ連名ヲ記載シ社印又ハ組合或ハ連印ヲ捺スベシ最モ多數ニテ區内へ記入シカタキ時ハ便宜ニ寄リ誰外幾名ト記スルモ妨ケナシ
- 本人書式

- 使 府 何國何郡何村住 但寄留人ハ本籍并寄留地ヲモ記ス
- 縣 何國何郡何町住 但書前ニ同シ
- 藩 何國何郡何村住 但書前ニ同シ
- 苗字名實印
- 委託書式
- 何國何郡何村住 但書前ニ同シ
- 族籍又職業名
- 何國何郡何村住 但書前ニ同シ
- 族籍又職業名

藩

本人

苗字名實印

肩書前ニ同シ

前ニ同シ

引受人

苗字名實印

一番號

此區へハ順次物品ノ番號ヲ記載スヘシ

但シ區類替ルト雖トモ番號ハ順テ逐テ記スヘシ譬ハ十品ノ内第一大區十

小區ニ五品アレハ(一ヨリ五ニ至リ)第二大區十五小區ニ五品アレハ(六

ヨリ十ニ至ル)ノ類ナリ

一物名

此區へハ譬ハ米○麥○蠟○砥石○緞子○縮緬○綿布○麻布○花瓶○香爐○

手箱○梳○紙○扇子等各出品ノ物名ヲ記載スヘシ

一質

此區へハ譬ハ米(畑稻旱稻晚稻)○蠟(金銀)○砥石ハ青砥荒砥○織物ハ

絹(木綿)棉麻何々交織芭蕉皮○花瓶香爐等土燒ハ陶○同シク石燒ハ磁○梳

ハ何木○紙ハ楮○扇子ハ(紙張竹骨)等ノ如ク委敷其原質ヲ示スヘシ

一製

此區へハ米ハ玄米白米○織物ハ何色堅縞何色ニ何ノ模様○(陶器磁器)花瓶

ハ白地ニ藍何模様錦様何ノ圖○梳ハ溜塗無地朱地ニ金ノ何模様○扇子ハ白

地ニ墨繪等ノ模様及ヒ形狀アルモノハ其形狀ヲ記載スヘシ

一數

此區へハ一對一個一反一斤一組等ト記載シ組合セタルモノハ但シ一組何枚

一組何個ト傍記スヘシ

一尺量

此區へハ譬ハ花瓶○織物等各物品ニヨリ縱横又ハ恰好ヲ要スルモノ

ハ曲尺何尺何寸ト記シ且斤量ヲ稱スルモノハ斤數ヲ記載スヘシ

但何品ニ限ラス一斤ハ百二十目斤ト心得ヘシ

一產地

此區へハ物品產出ノ地名記載スヘシ

一製造人

此區へハ製造人ノ住所姓名ヲ記載スヘシ

但シ數人協力分業シテ製成スルモノ譬ハ漆器(木工誰地塗誰蒔書誰)ノ如

キハ各名ヲ記載スヘシ

一原價

此區へハ製作等仕揚ケ迄ノ費用ヲ記載スヘシ

一雜費

此區へハ產地ニ於テ荷造リ迄ノ入費ヲ其時々取調ヘ置本人又ハ代理人必持

參シ彼地ニ於テ輸入税海陸運賃等ノ諸費取調ヘ合計ノ上記入スル事ト心得

ヘシ

一賣價

此區へハ原價并雜費及ヒ利益ノ見込ヲ合計シ賣價ヲ記載スル事ト心得ヘシ

書式

第

大區

出

第

小區

主

品符號

番	物	號	名	製	質	數	尺	量	地	產	原	價	雜	價	賣	價

第二入記目錄之事
 一入記目錄ハ海關ニテ輸出入ノ檢査ヲ受ケ稅ヲ拂フ時ノ証トナル必用ノ物ナレハ箱中
 品物個數原價等ハ確實ニ認メ洩レサルヤウイマスヘキハ勿論ナカラ混雜ノ際アヤマ
 ツテ認落等ノナキヤウ最注意スヘシ且出品ニアラサル私用品并制禁ノ品物等ヲ決シ
 テ詰合スヘカラス依テ認方ハ左ノ書式ニ倣ヒ界半紙ヘ認メ一通ハ其箱ニ入二通ハ荷

物詰合濟至急差出スヘシ本局ニ於テハ之ヲ佛國文ニ翻譯ヲナスヘシ
 但シ外箱ハ區分目錄ノ大區毎ニ別ニ製スヘシ

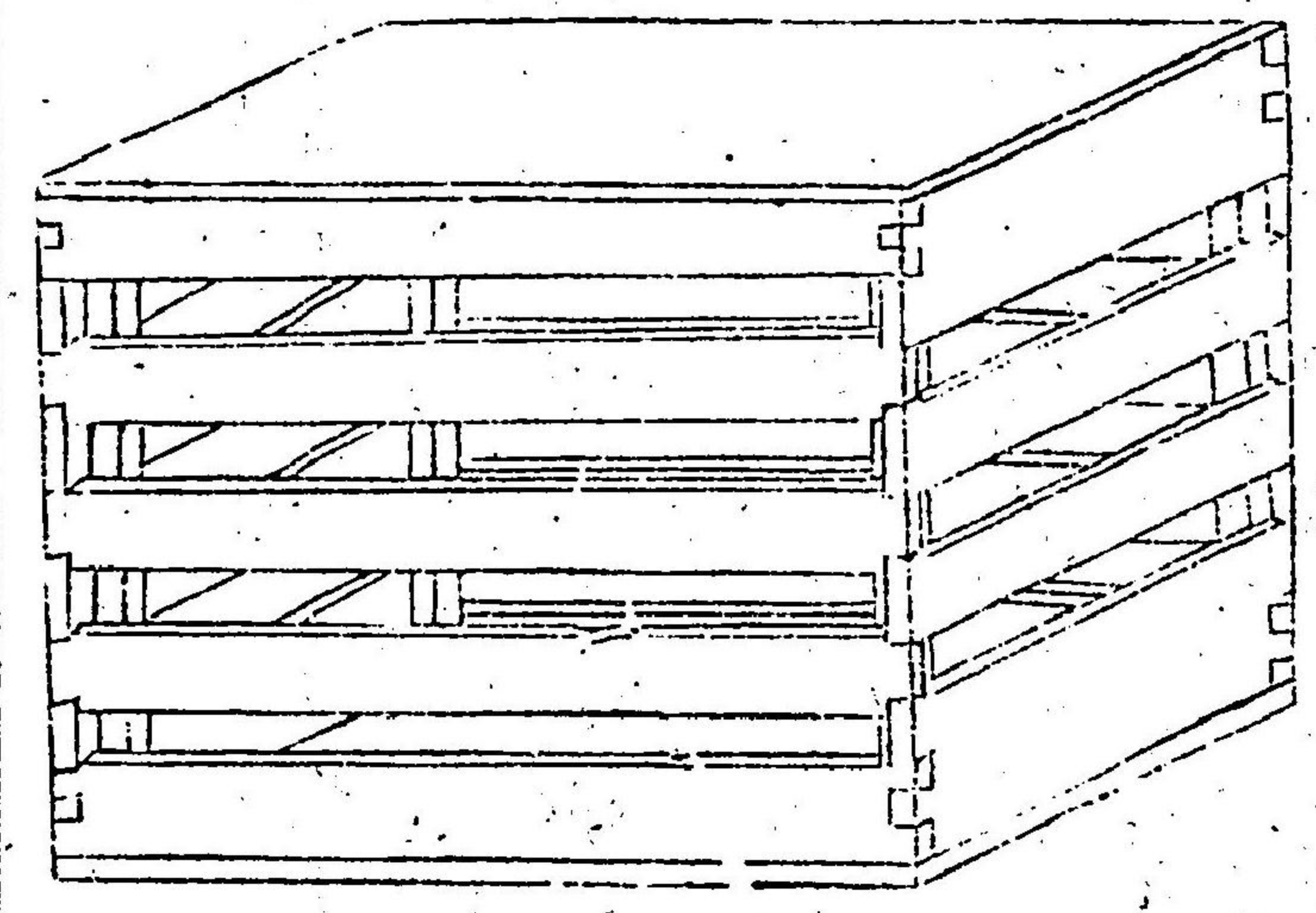
書式

A	第一	何	號													
	第何	大區	何	小區												
符			號	物	名	數	原									
A			壹	鋼	何	何	對	金	何	何	百	圓				
A			拾	鐵	何	何	個	金	何	圓	何	錢				
			第何	大區	何	小區										
A			四	磁	器	何	個	金	何	錢	何	厘				
A			百	陶	器	何	枚	金	何	拾	圓					

原價計金何百何拾何圓何錢何厘
 第三物品荷造之事

一物品ノ荷造リハ大切ノ事ニテ若シ運送中破損スル時ハ數月丹精ヲコラシタル品モ開
 場ニ陳列シテ名譽ヲ得ル事アタワス且多少ノ資本金モ損失トナルユヘ荷造ハ費用ヲ
 イトワス手厚クスルハ銘々ノ心得ニモアルヘキ事ナカラ未タ遠方ヘ荷物ヲ送りシ事
 ノナキ者スクナカラス依テ凡ノ心得ヲ示スユエ是ニ洩タル物ハ各種ノ荷造ヲ見合セ
 其宜シキニ倣フヘシ
 一外箱ハ符號番號并出品主人名共木札ニ認メ假ニ打付置ヘシイヨク彼國ヘ輸送ノ時

ハ當局ニテ一体ニ揃フヤウ認ムヘキコツキ決シテ箱へ直ニ認ムヘカラス
 一 壹噸内外位マテノ外箱ハ木目ノ通ラヌ松荒木壹寸板ヲ用ヒ格別大ナル品カ重キ物ハ
 壹寸五分板カ貳寸板ヲ用ヒ或ハ壹寸板位ヒニテ箱ヲ造リ外面ニ格子ノ枠ヲ打付ルモ
 コシ尤各地ニ於テ右本品ヨリ丈夫ナル
 板アレハ何ニテモヨロシトイヘトモ杉
 杯ノ板ハ裂ケ易キユヘ用フヘカラス
 一 佛國ハ木材高價ナルヨシニ付楠等ノ如
 キ上等ノ材ニテ外箱ヲ造リ持越セハ其
 箱不用ニナリテ賣拂フ時コキ價ニナル
 事モアリト聞コヘ蘇材ニテ造リタル箱
 ナ不用ノ時捨ルト其損益ヲ篤ト考ヘ都
 合ヨキ方ニスヘシ
 一 平ラニテ大ナル品ヲ入ル、箱ハ運送中
 アケ落シノ時箱ノ撓ミテ損スル事アリ
 ソノ防キニハ外面ニ棧ヲ格子ニ打ヘシ
 一 箱ハ四角ニ限ラス品ニ應シタル形又ハ
 樽桶其他濡ルナイトハ又物ハ第一圖ノ
 如キ格子造リノ箱モヨシ



第一圖

一 外箱ノ角ハガナラス組合セ其上ヘ棧ヲ打ヘシ
 但シ外ヨリ打ハ常ノ仕方ナレトモ内ニ入ル、物ニ應シ内ヨリ打モヨロシ
 一 外箱ノ蓋ハ開閉便利ノ爲必チシ鋸ニテ留メヘシ決テ釘打ニナスヘカラス
 一 箱樽トモ重キ物ヲ入レタルハ帶鎖ヲ惣体ニ打ヘシ輕ルキ物ヲ入レタルハハナレ易キ
 所ノミヘ壹尺四五寸又ハ一尺位ツ、ニ打ヘシ
 一 一品ニテ大箱ヲ用ウル物ハ格別其他ハ小箱ニ造ルカタ損シ少ナシ
 但シ運賃ハ三尺四寸二分立方(一噸)ヲ以テ拂フ事ナレハ成ルヘクハ右ノ寸法ノ一
 倍又ハ半カ四分ノ一或ハ三分ノ一等ニ當ルヤウ造ル方便利ナリ
 一 外箱丈夫ナレハ二重箱ハ無益ナリ是非トモ内箱ヲ要スルモノハ荒木ニテヨシ桐其外
 上等ノ品ハ是又無益ナリ椴ノ箱ハ其板ヨリ發出スル脂氣ニテ内ヘ入タル器物一面ニ
 脂ヲ被フ患アリ甚ヨロシカラス
 一 内箱ニ結タルヲ外箱ニ入ルトキハ箱ト箱トノ間ハ少シモ透ノナキヤウニ詰モシ透ア
 ラハ棧ヲ以テ内箱ヲ堅ク押ヘ棧ノ兩端又ハ一端ヲ外面ヨリネシ鋸ニテ留置クヘシ
 但シフリツキノ中箱アル物ハ藁干草ノ類ニテカタク詰ヘシ
 一 陶器硝子器等ノ類ニテ破損シ易キ品ノ入タル箱詰ノ工合ヲ知ラスシテ開ク時ハ器ノ
 損スル事アル故其心付ヘキ藁干草ノ類ニテ藁干草ノ類ハ土砂ノ付タルカ濕氣ノアルヲ用ウレハ器
 ニ疵付ガ又錆ノ出ル事アリ心得テ用ウヘシ

但シ古綿ニテ金燭ノ物ヲ詰レハ錆ノ出ルユヘ必ラズ用ウベカラズ且粉売ノ類ハ運
 送中片寄テ器ノ損スル事アルユヘ鈎屑ヲ取交カタク詰メベシ
 一金銀球玉等ノ如キ貴重ノ品ヲ入ル箱ハ別シテ手堅ク造ルヘシ
 一濡并鼠喰ヲ厭フ品ハ鐵葉カ亞鉛板ニテ中箱ヲ造ルヘシ繼合セハ鹽酸ヲ引キ其上ニ白
 蠟ヲ以テ離レヌヤウニ着ケヘシ

但シ松脂ヲ用井白蠟ヲ以テ繼合セルハ常ノ仕方ナレトモ離レ易キモノナリ
 一器ヲ幾個ニモ取離シタル物ハ合口ノ損セヌヤウ致ヘキハ勿論留ネシ等ノ紛失セサ
 ルヤウ都合ヨク詰合スヘシ
 一上等ノ漆器ハ綿ニテ包ミ又ハ綿布ニテ卷ヘシ之ヲ箱詰ニスル時ハ綿カ和ラカキ鈎屑
 ナ用ウヘシ

但シ書棚、箆筒ノ類ハ四角ノ隅ヘ別シテ多ク綿ヲ置キ押ヘノ爲メ其上ヘ薄キ板ヲ
 宛テ其板ノ動カヌ様古布等ニテ縱横ニ堅ク卷立箱詰スヘシ
 一銅器ハ綿布ニテ幾重モ卷ヘシシカシ古布ナラハヨク洗フテ汚レノナキヲ用井之ヲ箱
 詰ニスルニハ打藁又ハ和ラカキ鈎屑ヲ用ウヘシ

一上等ノ陶器磁器硝子器類ハ紙ニテ兩三度氷ハリイタシヨク乾アケテ和ラカキ藁ヲ以
 テ苞ニ造ルヘシ又ソレヲ箱詰ニスルニハ上下四方ノ明キヲ同シ様ニシ前ニ記ス詰物
 ナ以テ動カヌヤウニスヘシ
 但シ素焼物又ハ艶消シ硝子ヲ反古ニテ水ハリスレバ其墨ウツリテ急ニ取レヌ事ア

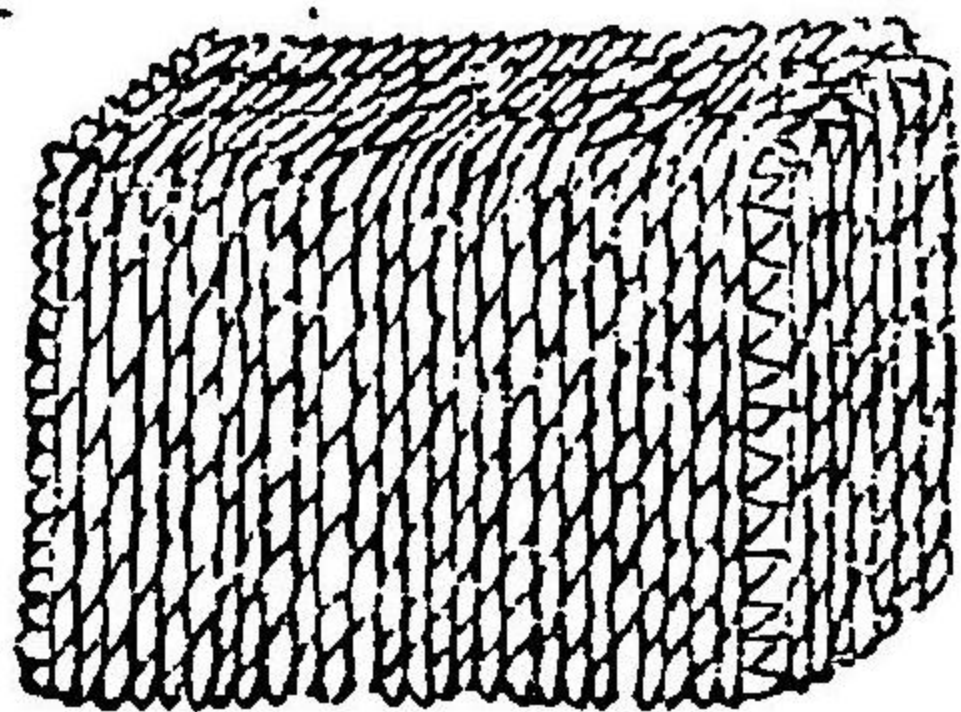
リ又藁ニ濕リアレハ箱ノ内ニテ蒸シ藁ジミヲ着ル患アリ能ク心付ヘシ

一同上蓋物ノ類ハ蓋ト身ノ間皿ノ如キハ皿ト皿ノ間ヘ藁ノ類ヲ以テヘタテニスヘシ又
 小器物ヲ一箱ニ詰合スモテナシ又器ノウツロヘハ前ノ詰物ノ類ヲ詰置ケハ外ヨリノ
 響ニテイタム患ヲフセギ又壹ツ損シタリトモ他ノ物ノ損シヌフセギニモナル事アリ
 一織物ハ紙ニテ包ミ四五反寄セテ板ニハサムカ棒ニ卷キテ油紙又ハ澁紙包ミニニスヘシ
 尤包ム前ニ能乾カサレハ箱詰ノ内ニ班ヲ生ズル患アリ能ク心付ヘシ

一上等ノ鉄器打物ハ丁子油ヲ引テ錆ノ出ルヲ防クヘシ下等ノ品ハ石炭油ヲ引テモヨロ
 シ
 一提燈ハ紙ニ包ミ棒ノ大キサ同シナルヲ合セ五張位奇セテ糸ニテ結ブモヨシ併シ可成
 ハ棒ヲハツシテ詰合ス方宜シ扇ハ壹本ツ、紙ニ包ミ長サヲ揃ヘ拾本位ツノ糸ニテ結
 ヒ内箱ヘ入小間物類ハ紙ニ包ミ内箱ヘ入何レモ動
 カヌヤウ詰込ヘシ

一鑽石土砂草木乾實類ハ一品毎ニ小箱ニ入ル、カ又
 ハ布ノ袋ニ入テ混亂セヌヤウ詰合スヘシ
 但シ箱詰前ニ能ク乾スヘシ
 一板石砥石ハ繩ニテ縱横ニ第二圖ノ如ク卷キ薦包ミ
 コナスヘシ破損ノ患アル物ハ包ミタルヲ箱ニ入レ
 ヘシ

第二圖



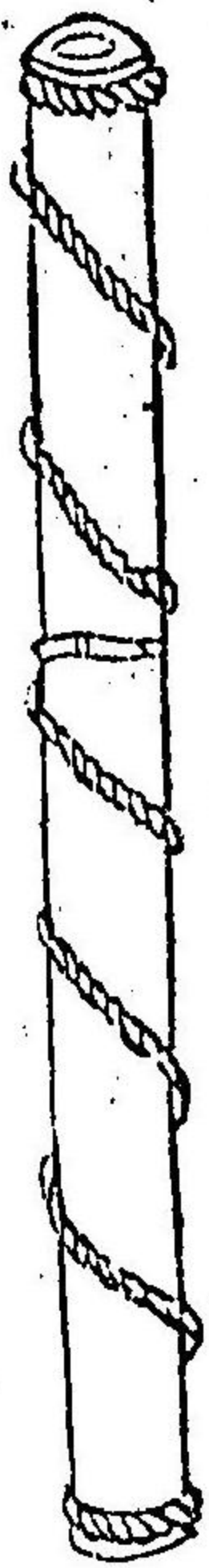
一 油水物類ハヨク蠟付シタル鎖葉ハ筒等ヘイレ其合セ目チマタヨク蠟付シ少シモ漏サ
 ルヤウニシテ葉ニツ、ミ箱詰スヘシ或ハ厚ク丈夫ナル蠟ニ入レ栓又ハ厚浮皮ノ上ヲ
 石膏粉（石膏ヲ粉ニナシテ煎リ水分ヲ去リシモノ）ニテ之チ水ニテ煉レハ容易ニカタ
 マル物ナリ）ニテ封シ又ハ鉛ノ板ニテ封シ夫ヲ葉ツトニシテ仕切ノアル箱ヘ詰ルモ
 ヨシ

一 燃質物ハ硝子燬又ハ鐵葉箱ニ入堅固ナル外箱ヘ詰メ他ノ品チ詰合スヘカラス
 但シ危難ノ恐レアル事ヲ木札ニ認メ外箱ニ打付ヘシ

一 木材類ハ板ト板トノ間ハ和ヲカキ鉋屑ニテ削タル所ノ摺レヌヤウヨシ繩ニテ幾所モ
 結ビ箱ニ詰ルカ薦ニテ卷ヘシ荒材ハ薦ニテ二重カ三重位ヒニ卷キ造ルヘシ

一 竹類ハ一本ツ、第三圖ノ如ク卷キ幾本モ寄セ繩ニテ四五ヶ所結ヒ箱詰ニスヘシ尤長
 大ナル物ハ外チ薦ニテ二重カ三重位ヒニ卷造ルヘシ細小ノ竹ハ紙ニテ卷キ箱ニ入ル
 、カ筵包ミニニスヘシ

第三圖



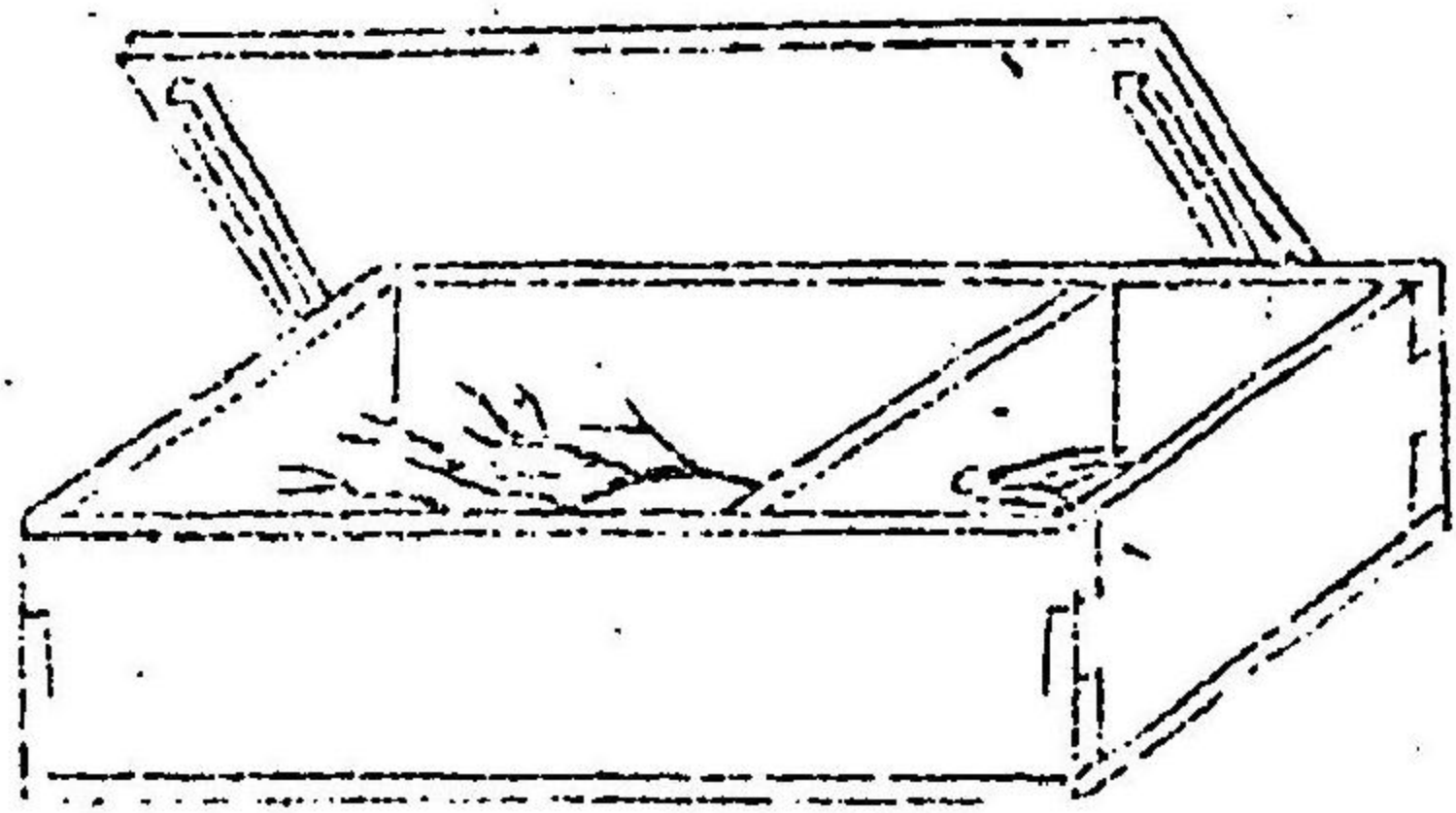
一 剥皮ノ製品ハ頭ノカタヨリ卷キ羽又毛皮ハ平ラニシテ箱ニ入レ割竹又ハ木ニテ押ヘ
 動カヌヤウニシ樟腦ヲ入置ヘシ決シテ葉等ニテ詰込ヘカラス

一 植物チ西洋ヘ送ルハ熱地ヲ通ル事ニ其心得ナケレハ乾キ又ハ蒸ル等ノ患アリ總テ
 苗木ハ凡拾本位又一束トナシ適宜ノ箱チ造リ一束ツ、次第ニ積入根ノ方チ潤ヒタル

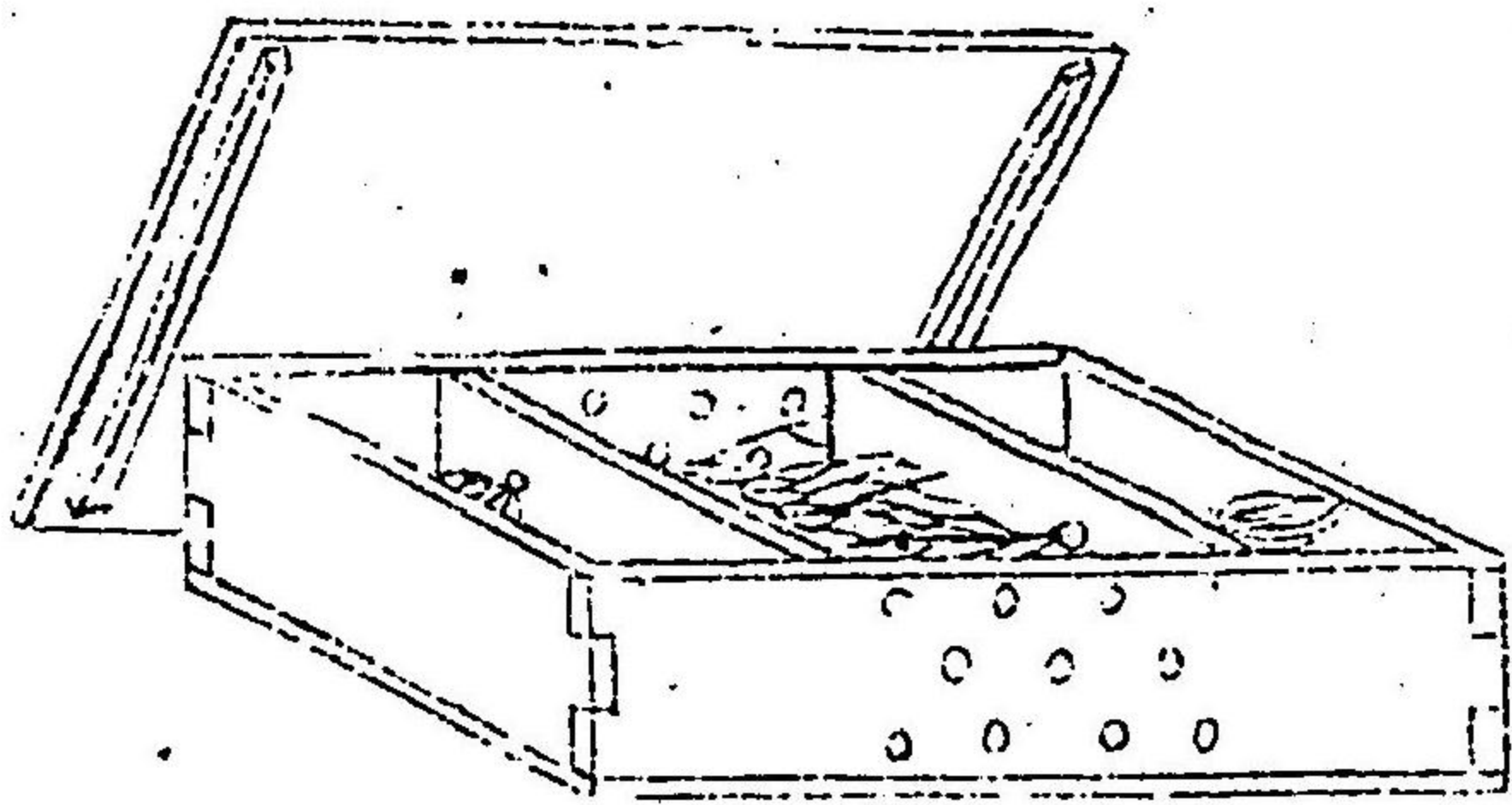
水苔又ハ土チ詰込ムヘシ此土チ留ルニハ板チ以テ第四圖第五圖ノ通りニ造リ且蒸ル
 患チ防グニハ幹ノアル所ノ箱ノ四面ニ小穴チアケ空氣ノ通ヒ易キヤウ第五圖ノ如ク
 ナスヘシ

一 鉢物ハ第六圖ノ如キ箱
 ニ入レ先其箱ノ底ニハ
 炭屑又ハ小土塊ヲ入レ
 其上ニ鉢物ヲ並ヘ入レ
 鉢ト鉢トノ間ヨリ其縁
 リマテ水苔チ詰ヘシ直
 ニ苗物チ右ノ箱ニ植ノ
 トナラハ先箱ノ底ニ炭
 屑及ヒ小土塊ヲ入レ上
 面ニ細カキ土ヲ入レ苗
 物チ植込ミ其上ニ水苔
 チ置ヘシ底ニ炭屑等ヲ
 入ル、ハ水氣ノ漏ル、
 ニ便ニシ腐レヲ生セシメサル爲ナリ且箱蓋ノ硝子板他物ニフレテ損スル患アリ之チ
 防クニ木竹又鉄線ヲ以テ適宜ニ蓋ノ面ヲオ、フヘシ

第四圖

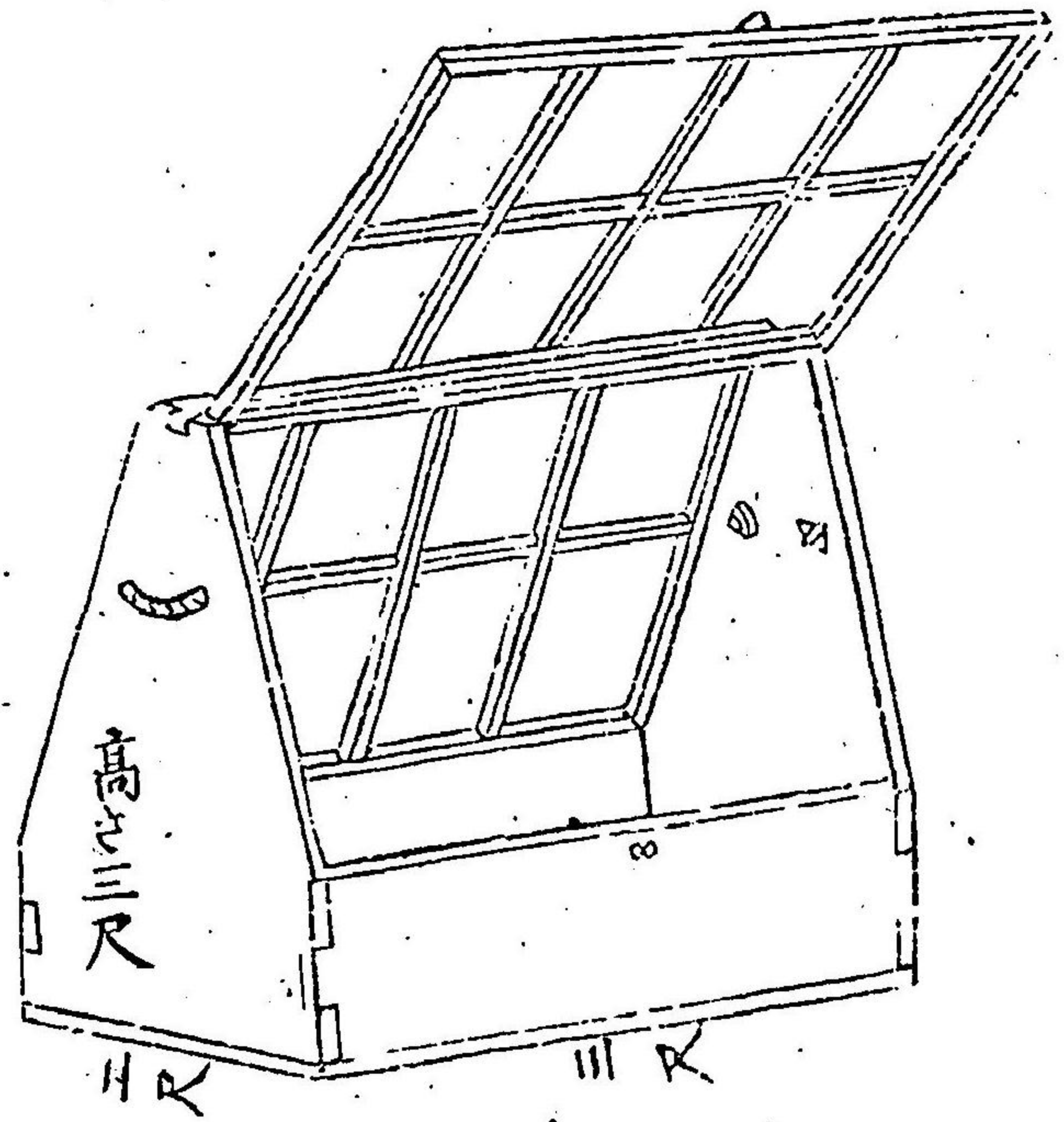


第五圖



一第六圖ニ出ス箱ノ寸
 尺ハ入ル、物ニヨリ
 テ異同アレハ適宜ニ
 スヘシトイヘトモ凡
 ソ圖面ニ記ス所ノ寸
 尺ニ倣フヘシ餘リ大
 キ過ルハ送ルニ便ナ
 ラス

第 六 圖



佛國博覽會出品者心得

一佛國博覽會へ出品スル者ハ先ヅ出品概則及ヒ區分目錄ヲ熟讀スヘキハ勿論ナレドモ
 尙心得トナルヘキ箇條ヲ此冊ニ説示スニ付キ能ク此趣意ヲ服膺シテ先年澳米其他ノ
 博覽會ニテ得タル處ノ名譽ヲ猶此會ニ增添ヘル様勉勵スヘシ

一各出品者ニ於テ物品ノ利害得失ヲ計ルハ銘々辨居ルコト、雖ドモ着意ノ始メ其目的
 ナ判然ニ途ニ分タサルヘカラス其一ハ勉メテ我精神ヲ凝シ其妙所ヲシテ人ヲ感動セ
 シメ精巧美良ヲ盡スニアリ其一ハ廣ク各國人民需用ノ便宜ヲ主トシ製造方ヲ親切ニ
 スルハ勿論ナレドモ第一價格ヲ廉ナラシムルヲ以テ主眼トスルニアリ如此ニ途ノ目
 的ニ着テ盡力シ審査ノ際賞牌ヲ得テ美名ヲ海外ニ輝カシ將來御國產ノ輸出ヲ増進
 スルノ目的最肝要ニ付キ假令下廉ノ物品トイヘドモ堅固ニ製スヘシ從前橫濱ニ於テ
 外人へ販賣セシ如キ一時一己ノ利ヲ得ントシテ毀損シ易キ品或ハ不深切ナル物品ハ
 決シテ製造スヘカラス必ス大ヒナル患害ヲ醸シ終ニハ御國產ノ聲價ヲ墜スヘシ因テ
 心得方ヲ詳ラカニ下條ニ示ス

一農業上ノ產物ヲ出品スル者ノ心得ハ穀物乾果或ハ生糸茶烟草等ノ類ニ至ル迄其善良
 ノ種ヲ撰フヘキハ勿論ナレト其心得方ニ二様アリ

第一ニハ商業上ノ見本ニテ後來輸出スヘキ目的ノ品ハ何ニ限ラス其詰箱ヲ同一ニ製
 シ譬ハ印ノ茶ハ壹箱十斤詰ニシテ印ノ茶ハ二十斤詰トイフガ如ク外箱ノ記號
 ナ一見シテ其品位斤量トモヨク分リ外人ノ信ヲ受ル様心掛クヘシ此箱へ記スル印并
 ニ其名前ノ印ハ商標トイヒテ外國人ノ最大切ニスル事ナレハ印ノ品ニハ印ノ品
 ナ交へ人ヲ欺ク等ノ事決シテアルヘカラス而シテ其價ハ時々ノ相場ニテ高低アルト
 モハ印ノ品ハ何時モハ印ノ品ニシテ決シテ其品位ヲ降サ、ルコト肝要ナリ
 第二ニハ蒐集ノ見本ナリコレハ總テノ種類ヲ集メ示スモノニシテ譬ハ米ナレハ諸國

産ノ粳米糯米早稻ニ至ル迄早中晩ノ種類等ヲ多ク集メ出品スルナリ其他雜穀烟草茶類モ同様ノ事ト心得ヘシ又生糸ハ御國産ノ第一ナレハ各種ヲ集メテ一二把ツ、差出スモヨロシ是等ノ蓄集品ハ農業上ニ於テ多クノ種類ヲ比較スルニ缺ヘカラザルノ品ナレハ其種類ヲ多ク集ムル程宜シキナリサレ共商法上ノ引合アルヘキニ付キ其節不都合ノ無キ様代價等ハ豫テ取調置ヘシ又譬ハ米ナレハ粳ヨリ白米ニスル迄ノ順序ヲ示シ糸ナレハ繭ヨリ織物ニ造ル迄ノ順序ヲ示ス等モヨロシ

一工藝製造ヲ業トナル者ハ妙技進歩功勞ノ三ツニ着意スヘシ抑工藝ハ各國固有ノ風致アリテ決シテ一樣ナラス譬ハ支那ハ其國風ニ自ラ妙處アリ西洋各國モ亦各其風ヲ異ニシテ各妙處アル如ク日本ハ又日本風ノ中ニ妙處アリテ他國人ノ決シテ摸擬スヘカラザル處アリ又人々其技術アリテ他人ノ摸擬シ難キモノアリ古物ヲ鑑定スルニ其作者ノ技術他人ノ及フヘカラサル處ヲ察シテ是ハ誰ノ作ト定ムルモ此理ニ外ナラス然レハ萬國ノ技術ヲ集莖スル該會ニ向テ我在來ノ風習ヲ打棄テ他國ノ風格ヲ摸擬シ佳評ヲ取り國譽ヲ揚ケント欲スルハ本ニ縁テ魚ヲ求ムルノ類ナリ宜シク志慮アルヘシ某カ去年米國ノ博覽會ヨリ歸朝シテノ話ニ魯西亞ヨリノ出品ハ歐洲各國ノ製品トハ更ニ異ナリテ聊カモ英佛等ノ品ニ類似セス全魯國固有ノ風ニシテ然モ大ニ譽ヲ得タリ仍テ其故ヲ問ヒシニ魯國美術家某氏ガ此會ニ先チテ說出ス一説アリソハ魯國ノ製造人ハ自國ノ風格ヲ廢シ兎角他國ノ風習ヲ摸擬スル事ニ而已傾キテ何ツモ博覽會ニ名譽ヲ得ス以テ米國費府ノ會ニハ自國固有ノ風格ヲ以テ諸品ヲ製造出品

セント頻ニ衆工ヲ勸奨セシニヨリ斯迄各國トハ異ナレリト答ヘント云々是誠ニ至當ノ高論ナルニヨリ茲ニ附載ス

一工藝者自己ノ技術ヲ示サント欲セハ一物ヲ製スルニモ先ツ其功用ノ如何セハ方今世上ニ適當スル哉否ヲ篤ト考ヘ定メ其形狀模樣畫彫刻塗等ノ手段ニ至テハ自己ノ見識ヲ定メ他ヲ顧ル事ナク一向ニ取掛リテ十分ニ技術ノ妙處ヲ顯スヘシ如何トナレハ斯クナサハ英人ノ望ミニ適スヘキ哉又箇様ニ造ラサレハ佛人ノ眼ニ入ルマシ杯ト處々聞ツクロヒ兎ヤセマシ角ヤヒマシト惑フ間ニハ己カ見識ハ既ニ消滅シテ多年丹誠ノ甲斐モナク其詐リ出ス品ハ寄セ集メ物ノ如ク終ニハ人ノ笑トナリテ神妙ノ手術モ世ニ示ス事ヲ得ザルヘシ總テ精神ヲ凝シ十分ニ製造セシ品ハ人ノ感セヌト云コトナシ古來名人上手ト云ハル、諸職工ハ皆其技術ニ精神ヲ凝シテ造リ出スニ因リ今ニ至ル迄美名ヲ殘シ其器物ハ皆王公貴人ノ愛玩スル所トナルハ精神ヲ凝シテ造ルト等閑ニ製スルトノ間ニアルノミサレハ佛國ノ出品ニハ各職工多年熟練ノ功ヲ製シ藝術ヲ十分ニ盡シ刻苦勉勵精神ヲ一ニ凝シ美名ヲ海外ニ顯シ國譽ヲ輝ス様注意スヘシ併シ物ニハ自ラ品位相當ノ定價アルモノナレハ利益ハ至當ニ計算シテ一時非常ノ利益ヲ得ント望ムヘカラス

一日用諸品ノ如キハ最便利ニシテ抵價ヲ旨トシ自然品數多ク賣レ捌ケテ永遠ノ利益ヲ得ルコトニ注意スヘシ去迎其製造ハ眞實ヲ本トシテ假令工數ヲ省クモ保チ方ヲ第一トシ容易ニ破壊剝落セサル様製スヘシ又拙キ物ハ工夫ヲ加ヘテ巧ナルモノトシ不便

ナリシヲ便利ナル様改メ製シ高價ナリシハ下直ニ作り不足ノ物ハ之ヲ補ヒ昔ヨリナ
キモノヲ新タニ製シ出シテ便利ヲ起ス等ニテ進歩功勞ノ譽ヲ得ル事ヲ勉ムヘシ

一製造者ノ最注意スヘキ條件ノ大概ヲ左ニ示ス

一用前ノ適否ヲ熟慮スル事

一風韻ヲ高クシテ野卑ニ流レザル事

一損害ヲ防キ保チ方ヲ工夫スル事

一都テ摸權ハ新古雅俗等彼是混雜セザル様取合セ方ヲ考ヘ又摸樣ヲハ餘リ多ニ過ギサ
セヌ事

一高所ニ置クヘキ物遠見スヘキモノ卓上ニ置キ或ハ手ニ取ルヘキモノ等ハ其工夫各異
ナルヘシ壁ハ高ニ掲ケ遠クヨリ看ルモノ等ノ摸樣細工ハ鮮明ニシテ餘リ細工過キヌ
様ニシ卓上ニ置キ或ハ手ニ取り見ルモノ、摸樣細工ハ細密ニシテ物際ニ心ヲ用ウヘ
キ事

一流行ニ後レヌ様ニ注意シ又ハ流行ヲ始ル様心掛ヘシ

一陶器畫藥ニテ我國ニナキモノハ已ムヲ得サレドモ可成丈從來ノ畫藥ヲ用ウヘシ殊ニ
藍色料ハ燒畫青ヲ用テ洋青ヲ用ウヘカラス

但シ下廉ヲ要スルノ日用雜品ハ洋青ヲ用ユルモ妨ケナシ

一陶銅器ノ香臺ハ滑ニシテ盆又ハ臺等ニ傷ツケヌ様注意スル事

一漆器ハ木地ヲ撰ミ木地等ヲ堅固ニスル事

一銅器ハ色付ノ容易ニ變テヌ様工夫スル事

一七寶燒ハ針金ノ織合セテ能ク調ヘ七寶畫藥ハ潤澤アリテタゞレヌ様ニナスヘシ又蠟
等ニテ疵罅ヲ埋ルハ至テ惡キ事

一絹類等ハ織方摸樣等流行ニヨリテ變化スルモノナレハ流行不流行ノナキ品ヲ考ヘ出
品スル様注意スヘキ事

一織物ハ艶色等ノ變リ易カラヌ様且糸ニ節ナキ様ニシ又糊ツヨキ時ハ温氣ニ逢テ星斑
ヲ生シ易シ能ク注意スヘシ其幅長サ等彼國ノ用前ニ適スルト否トヲ取調ルハ緊要ノ
事

一寄木細工其他糊着ヲ要スル物等ハ木地ノ狂ハヌ様ニナシ且膠糊ヲ撰ミ至極堅固ニ仕
立ル事

一都テ錠前金具等工合ヲ宜クシテ保チ方ニ注意スル事

一多人數ニテ製造スル品ハ手際ニ甲乙ナキ様申合スル事

一輸出ヲ目的トスルモノハ彼地ノ相場ヲ取調ヘ價格ヲ斟酌スル事

一工人ノ心得ハ既ニ前ニ示シタツト雖トモ自身ハ商業ヲ主トシ職工ヘ注文シテ作ラシ
メシ物品或ハ從來本邦各地ノ名産ヲ買集メテ出品セント欲スル者ハ最モ大切ナル心
得方アリ第一ハ此出品ヨリシテ他邦人ノ高評ヲ得後々貿易ノ道ヲ擴メ永久ノ利徳ヲ
得ントスルコト肝要ナリ第二ハソノ出品ニ付テ得ル處ノ賞牌ハ必ス其製造人ヘ授ケ
ヘキ事當然ナレトモ之ヲ得ルニ盡力スヘキハ又出品人本分ノ務メト云ヘシ如何トナ

レ其品名譽ヲ得テ他邦人ノ好ム處トナリ賣捌ケ方ヨロシケレハ即チ是ヲ賣鬻スル者ノ所得職工ノ得ル處自ラ最大トナレハナリ第三其品々他邦人ノ競買スル物トシレハ會中ニテ直ニ製造ヲ注文スルモノ或ハ永久ノ取引ヲ約定セシ望ム者アルヘキ事ナレハ渡航前何程マテハ注文ヲ引受テ資本ニ差支ナキ哉ヲ取極メ置クヘキ事ニテ譬ハ其時ニ臨ミ資本融通ノ道出來スル様ノ手順ヲモ附ケ置クヘシ左モ無ク利得而已ニ眩惑シテ濫リニ注文ヲ受込資本ニ差支約定ノ期限ヲ誤リ或ハ製作ノ手ヲ抜キ注文主ニ迷惑ヲ懸ル時ハ自身而已ナラス御國商人ハ一般如此モノト大イニ信用ヲ欠キ大害ヲ招クニ至ル能ク注意スルニ第四ハ申迄モナキ事ナカラ博覽會ハ決シテ賣買ヲ專ラトスル市場ニハアラス手短ニ言ハハ新タハ賣出ス品物ハ向後賣捌方ノ道ヲ廣クル事肝要ナレ其見本ハ引札ヲ付ケテ廣メノ爲ニ得意先キハ配達スル如キ心得ナルヘシサレハ此會ニテハ決シテ利益ヲ得ントセス實ハ唯遣リテモ跡ノ賣レ捌ケヲ仰ク位ノ氣込ニテ出品シタキモノナリ去リ連團扇ヤ手拭ノ如キ安物而已ニテハ決シテヨロシカラズ各國ヘ其名譽ヲ顯ハス様ナル高金ノ物ヲモ出スヘキ事ナリ但シ同シ様ナル物數品ヲ出スニ及ハス吳々モ見本ヲ出ス心持ニテ可成丈種類ノ變リタル物ヲ出シ觀客ハ目ヲ游タニスヘシ又其物品ニ附ケヘキ解説ハ即チ引札ナレハ摸樣ノア者ハ其譯柄ヨリシテ保チ方用ヒ方或ハ何年間程ハ損セサルヘキ保證幾個以上ノ注文ナレハ何種ヲ引ク等ハ事何月間ニ出來上ル等能ク念ヲ入レ委敷ク書顯シ之ヲ翻譯シテ物品毎ニ附ル様必掛ヘシ

東(内)第百六十六號

區戸長 學區取締

先般相達置候學區取締心得中ニ掲載有之候第一號第三號月表之義ハ其區内ヘ回達シ及學務課ヘモ可差出等之處差出シ方兎角紛漫ニ流レ候付速ニ差出方可取計旨去ル三月更ニ學務課ヨリ相達置候處今以遷延ニ沙ルノミナラス總テ區内ヘ不致回達向モ有之哉ニ相聞甚不都合ニ候條爾來右等之義無之様精々可致注意此旨相達候事

明治十年七月十三日

東京府知事楠本正隆

(第五十三號)

十四年二月十七日第十四號公布(全報五十五號ニ出ツ)

明治九年(一月)第三號ヲ以地租徵收期限及布告置候處當明治十年ヨリ耕地ノ内實際ニ就テ田畑ヲ區分シ其他各種ノ地租徵收期限更ニ左ノ通改定候條此旨布告候事

俱市街地租ノ儀ハ該年七月習年一月滿期ニ其五分宛テ收納スヘシ
 右大臣岩倉具視

各種地租府縣廳ヘ納期

- 第一期 該年七月一日ヨリ同八月卅一日限 畑方及宅地山林原野牧場 二分
- 第二期 該年九月一日ヨリ同十月卅一日限 同 五分
- 第三期 該年十一月一日ヨリ同十二月十五日限 同 三分
- 第四期 該年十二月一日ヨリ翌年一月卅一日限 田方 五分
- 第五期 翌年二月一日ヨリ同三月卅一日限 同 三分
- 第六期 翌年四月一日ヨリ同月卅一日限 同 二分

陸 達甲第二十號

明治四年辛未秋廢藩更ニ四鎮臺被置候節元諸藩ヨリ召集之諸兵下士以下功勞ヲ被賞同
八年六月一日ヨリ向キニケ年間一人口賞典米下賜ノ者ニシテ先般臨時召集現今服役中
ノ者賞典米下賜期限既ニ相備候得共右服役中ハ是迄通一人口宛下賜候條此旨相達候事
陸軍卿山縣有朋代理
明治十年七月十三日
陸軍少將井田 讓

工 第八號

今般兵庫縣下攝津國神戸港ニ於テ左ノ位置形狀ノ通一個ノ竿燈ヲ設ケ來ル八月十五日
ノ夜ヨリ點燈候條此旨布達候事
工部卿伊藤博文代理
工部大輔山尾庸三

明治十年七月十四日

明治十年(西曆千八百七十七年)第四號

神戸波止場竿燈

- 一 神戸港外國人居留地東波止場ノ極端ニ於テ竿燈ヲ設ケ明治十年八月十五日(西曆千八百七十七年八月十五日)ノ夜ヲ始トシ爾後毎夜日没ヨリ日出迄點燈ス
- 一 燈竿並ニ家屋ハ白色ニ塗ル
- 一 燈明ハ不動綠色ニシテ全度ヲ照輝ス
- 一 燈竿ハ燈籠ノ中央マテ高サ三十四尺ナリ

一 燈火ハ海面ヨリ高サ四十二尺ニシテ其光線凡六里(海里)ニ達ス

宮内省 錄 專

皇太后宮 皇后宮 行啓之節御馬車へ旗章ヲ掲候旨明治六年第百三十四號ヲ以公布
相成居候處自今前驅騎兵ニテ右旗章相掲候條爲心得此旨布達候事
宮内卿德大寺實則代理

明治十年七月十二日

宮内大丞山岡鐵太郎

乙 第六十四號

本年內國勸業博覽會出品陳列便宜ノ爲上野凌雲院ヲ以テ當府博覽會掛假出張所トナシ
物品陳列方可取扱候條別紙概則並日割之通相心得同院へ出品持參可致様出品人へ可及
公示此旨相達候事 (別紙畧ス)
區 戶 長

明治十年七月十四日

東京府知事楠本正隆

丙 內國勸業博覽會事務局 錄 專

博覽會諸館ノ中東西本館ハ既ニ建築落成ニ付出品者ノ都合ニ因テハ速ニ物品陳列方ニ
着手センヲ要ス又農業館モ來ル二十日ヨリ同様に出品ニ從事センヲ期ス此旨廣告候事
內國勸業博覽會事務局

○物品并送狀到達ノ日順

静岡 石川 瀧木 本月七日送狀到着 静岡 愛媛 岐阜 和歌山 本月十四日送狀到着

宮城縣 出品十九箱五包壹個并賣品三箱七個 本月十三日到着 右廣告ス
內國勸業博覽會事務局
明治十年七月

勸農局 錄事

長野縣下信濃國佐久郡海口村住平民高藤ノ松所持ノ鳥獸職獵鑑札第六萬六千四百〇六號一枚遺失之趣届出候條以後右記號之鑑札拾取候歟又ハ所持之者見聞候ハ、速ニ管轄廳へ可届出候事
勸農局
明治十年七月十四日

大甲第十九號

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ愛知縣下第一區名古屋茶屋町三番地ニ設立シタル第十一國立銀行ニ於テ公債証書ヲ抵當トナシ更ニ引換準備金ヲ置本月十八日ヨリ貳拾圓拾圓五圓貳圓壹圓五種ノ紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債証書ノ利足ト海關稅ヲ除クハ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑念受授可致此旨布達候事但右紙幣ノ儀ハ明治六年八月第三百四號布告第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一ニシテ唯表面銀行ノ名稱地名及頭取支配人ノ名印并ニ裏面割印ノ異ナルノミニ付別段見本相添ヘサル事
大藏卿大隈重信
明治十年七月十六日
區 戶 長

庚乙第六十五號

新瀉縣下中道佐津丸儀其筋ノ許可ヲ得佐渡國雜太郡二見港字臺ノ鼻海岸へ燈臺建築本

年四月廿三日ヨリ點燈ニ付該費消即ノ爲メ入津ノ船舶ヨリ左ノ通取立ヘキノ旨同縣ヨリ通知有之候條爲心得船主共ニ可告示此旨相達候事
東京府知事楠本正隆
明治十年七月十六日

- 一 貳百石以上 (帆船壹反ニ付四厘兩巾貳反ヲ除ク)
- 一 一百石以上貳百石迄 (帆船壹反ニ付三厘兩巾貳反ヲ除ク)
- 一 五拾石以上 (壹艘ニ付 壹錢五厘 貳十石以上 壹艘ニ付 壹錢)

丙內務省圖書局 錄事 明治十年七月

圖書獻納略則

- 一 小冊抄本等ヲ獻納セント欲シ而シテ管轄廳ヲ經由スルノ成規ヲ厭フモノハ直ニ圖書局ニ申出ルモ妨ガシ
- 一 直ニ圖書局ニ相納ル分ハ該局長ヨリ受理証書ヲ本人ニ渡スヘシ
- 一 獻納スル處ハ圖書太郎或ハ珍貴ニシテ價金拾圓以上ニモ及ヘキ見込アル者ハ管轄廳ヲ經由スルノ成規ヲ履行スルシ

大乙第二十一號

各廳爲替方條約ヲ廢シ更ニ命令書下付ノ儀ニ付今般第五拾号ヲ以御達有之候ニ付テハ從來ノ府縣稅取扱方條約并支廳ニ於テ金錢爲取扱條約ノ儀モ相廢シ候條右御達命令書案ニ照準シ別段取調當督へ可伺出候尤給料手数料ノ儀ハ從前ノ通可相心得候此旨相達候事
府 縣
第十二号

明治十年七月十九日

大藏卿大隈重信

東京府勸業課報告第八號

當府商法講習所入學生徒增員之儀客月中報告及候處猶英語ニ通スルモノ生徒二十名ヲ限リ試験之上入學差許相成候條志願ノ者ハ來ル九月九日マテ同所(第一大區拾小區木挽町十丁目講習所)可申出此旨廣告候也

但教授法并入學手續等ハ同所へ出頭承リ合スヘシ

明治十年七月十七日

官院省使府縣

第四十六號

一等判事以下四級判事補迄并大檢事以下四級檢事補迄被廢更ニ判事判事補檢事長檢事補ヲ置キ年俸月俸左ノ通被定候條此旨相達候事

明治十年六月廿八日

右大臣岩倉具視

判事勅任 一等官相當年俸四千五百圓○二等官相當年俸四千二百圓○三等官相當年俸三千五百圓 奏任 四等官相當年俸二千四百圓○五等官相當年俸千八百圓○六等官相當年俸千二百圓○七等官相當年俸九百六十圓○八等官相當年俸七百二十圓○九等官相當年俸六百圓 判事補判任 十等官相當月俸四十五圓○十一等官相當同四十五圓○十二等官相當同三十五圓○十三等官相當同三十圓○十四等官相當同二十五圓○十五等官相當同二十圓 檢事長 三等官相當月俸三百五十圓 檢事 四等官相當月俸二百圓○五等官相當同百五十圓○六等官相當同百圓○七等官相當同八十圓○八等

官相當同六十圓○九等官相當同五十圓 檢事補 相當并月俸判事補ニ同シ

第四十七號

明治十年六月廿八日

官院省使府縣

大審院諸裁判所大中小少屬被廢更ニ左ノ通官等給被定候條此旨相達候事

一等屬八等月俸六拾圓○二等屬九等同五十五圓○三等屬十等同四十五圓○四等屬十一等同四十圓○五等屬十二等同卅五圓○六等屬十三等同三十圓○七等屬十四等同廿五圓○八等屬十五等同廿圓○九等屬十六等同十五圓○十等屬十七等同十二圓

第四十九號

內務省開拓使府縣(東京府ヲ除ク)

脫走ノ軍人軍屬及其他ノ罪囚是迄府縣護送取計候分以後沿道ノ警察署及分署ニ於テ遞傳護送可取計此旨相達候事

明治十年七月五日

右大臣岩倉具視

第五十一號

官院省使

明治六年七月第二百三十六號ヲ以テ各廳ニ於テ金錢爲替出納等爲取扱候者ト條約取結方之儀相達候所右ハ相廢シ更ニ別册府縣へ相達候案文ニ照準命令書取調大藏省へ照會ノ上可申付尤保險手数料ノ儀ハ常ニ預ケ置候金高百萬圓迄ニ百分ノ三右ヨリ超過スル時ハ其超過ノ金高ハ百分ノ二下定メ可下渡此旨相達候事

明治十年七月九日

右大臣岩倉具視

第五十二號

官院省使府縣

明治八年(四月)第五十四號達官役人夫死傷手當規則第三條中左ノ通改正候條此旨相達候事

明治十年七月十一日

右大臣岩倉具視

第三條

手當金ヲ分ツテ療養埋葬及ビ遺族扶助ノ三種トス
一等傷ニ罹リ死スル者ハ療養料埋葬料ヲ給ス遺族扶助料ハ戸主ニシテ家族ナキ者及ヒ戸主ニアラスシテ妻子ナキ者ハ給セス尤死者戸主ニアラス且妻子ナキ者ト雖モ其死者ニ依リ活計ヲ營ミ來リタル遺族(一戸籍内ニ在ルモノアレバ之ヲ給スヘシ)

府 縣

地 (乙第七號)

本年當局乙第四號ヲ以券狀紙價納期限相違候ニ付テハ右金員納付ノ節改正ニ屬スルモノハ何月中新規渡ニ付收入ノ分平常書換ニ屬スル分ハ何月ヨリ何月迄書換ニ付收入之分ト納証書へ可致記載且同時ニ兩種納付候節ハ各達ヲ以可差出此旨相達候事

明治十年六月八日

地租改正事務局總裁大久保利通代理

同局三等出仕松方正義

大藏卿大隈重信代理

大藏大輔松方正義

官院省使府縣

大 (第五十三號)

親王署名正(宣旨辭令奏狀等)ハ御稱號ヲ省キ官品親王名ト被定候條爲心得右相達候事

明治十年七月十三日

右大臣岩倉具視

地 (甲第一號)

明治六年七月大藏省達シ地租改正施行規則第四則ニ山間海岸其他ノ宅地他ノ比較無之地價難定分ハ一反ニ付十錢ヨリ少カラザル稅額ヲ定ヘシト有之處本年第一號ヲ以テ地租 明治十年ヨリ地價百分ノ二分五厘ト改定候旨公布相成候ニ付テハ改租ノ際定ムル所ノ宅地々價自分ノ三ノ稅額十年ヨリ稅率ノ改定ニ依テ一反十錢未滿トナルモノト雖モ該地價ニ應ズル稅額(即チ百分ノ二ノ半)ヲ收入シ改租ノ際一反十錢ヲ以テ稅額ヲ定メタルモノハ十年ヨリ六分ノ一ヲ減シ(即チ一反ニ付八錢三厘)收入候儀ト可相心得此旨布達候事

地租改正事務局總裁大久保利通代理

同局四等出仕安藤就高

大藏卿 大隈重信

地 (乙第六十六號)

今般明治七年一月一日調全國戸籍表編制候ニ付爲心得下渡候條此旨相達候事

(戸籍表略ス)

內務卿大久保利通代理

內務少輔前島 密

明治十年七月二十日

地 (乙第六十七號)

別紙丁第拾號ヲ以神宮并官國幣社神宮へ相達候條此旨爲心得相達候事

內務卿大久保利通代理

內務少輔前島 密

明治十年六月二十日

〔丁 第十號〕

神宮并官國幣社神宮

各社神官社用ヲ以管内旅行ノ儀ハ其地方廳ヨリノ呼出ヲ受タルカ又ハ緊要ナル事務ニ付同廳ノ許可ヲ得テ往返スル者ノ外旅費日當共官費支給不相成筋ニ候條此旨相達候事但非常ノ事故相生シ許可ヲ受クルノ時間無之場合ニ因リ出廳ノ節ハ別段ノ儀ト可心得事

明治十年七月廿日

内務卿大久保利通代理
内務少輔前島 密

〔第九號〕

本年(四月)當省第四號ヲ以及布達置候長崎縣下肥前國平戸港伏瀬礁標不慮ノ災難ニ罹リ破壊候條此旨布達候事

明治十年七月廿一日

工部卿伊藤博文代理
工部大輔山尾庸三

〔第五十四號〕

本年製造ノ蠶種免許印紙左ノ見本ノ通相定候條此旨布告候事(印紙見本略ス)

明治十年七月廿四日

右大臣岩倉具視

(畢)

内務省日誌

〔內務省日誌明治十年第十號〕

二月

石川縣伺

鳥獸獵規則改正ノ儀本年第十一號ヲ以テ公布相成候處已ニ昨九年中ハ第九條ニ依リ九月十五日ヨリ三月十五日迄ヲ一期トシ鑑札面ヘ記載下渡置候處今般改正規則第拾條銃獵期限ハ十月十五日ヨリ四月十五日迄ヲ一期云々ト有之候ニ付テハ是迄相渡置候鑑札ハ其儘所持爲致期限ノ儀ハ改正ノ拾條ヲ確守候儀ト相心得可然哉且現今出願ノ向ハ假令ヒ鑑札裏面ト相違致候ニ改正ノ期ヲ記入シ相渡置可然哉相伺候也

〔指令〕(二月二十日) 書面伺ノ通

明治九年十一月九日

福島縣伺

〔日誌第十號〕

管下岩城國岩瀬郡須賀川村八幡社ノ儀ハ先般教部省ヘ經伺ノ上該地郷社諏訪神社ヘ合併相成候處右八幡本社ハ寶永元年中拜殿及神樂殿ハ安永四年中有志民費ヲ以テ建造シ爾來修繕モ民費支出來候儀ニ付今般空社ト相成無用ニ屬シ候上ハ無代價ニテ御下渡有之度旨該村ヨリ願出候處如何處分可然哉相伺候也

〔指令〕(二月二十一日) 書面伺之趣無用ニ屬シ候上ハ願出ノ通下渡不苦候事

二月五日

滋賀縣伺

〔日誌第十號〕

縣社例祭官吏參向ノ儀祠官及氏子共ヨリ出願候向有之社格ノ名義ニ因レハ官吏候向祭典執行爲致可然哉ニ存候得共御定規モ無之儀ニ付如何相心得可然哉相伺候也

〔指令〕(二月二十一日) 書面之趣不及參向候事

〔日誌第十號〕

兵庫縣へ達

後見人ノ儀ニ付別紙舊師磨縣ヨリ伺出有之候處右ハ左ノ通可相心得此旨相達候事

第一條 丁年ニ至ラカルモノヲ幼年ト可心得事

第二條 伺ノ趣 但滿十五歲以上親戚ノ見込評議ニテ後見ヲ免シ條儀ハ適宜不苦事

第三條 伺ノ通 但管内一般論達ノ儀ハ詮議ノ次第有之當分可見合事

〔別紙〕舊師磨縣伺 明治九年四月

第一條 一滿十五年以下ヲ以テ幼少ノ者ト相定メ可然哉

第二條 一幼少ニシテ家督候者親戚或他人ニテモ相當ノ後見人ヲ定メ爲届出可然哉

第三條 一幼少ノ者諸願伺等總テ後見人連署ヲ以テ爲差出可然哉

右御指揮有之候ハ、管内へ及布達度相伺候也

〔日誌第十號〕

二月八日

滋賀縣伺

本縣警察署ノ儀ハ其相隔タル拾里乃至貳拾三里ニシテ本署ノ分署ニ於ケルモ遠キハ拾里近キモ貳三里ニ下ラス本署警部ノ之ヲ巡視スル一回毎ニ二日或三日ヲ費スニ至ル加フルニ各署未ク電線ノ設ナク且ツ道路狹隘ニシテ腕車ノ通シ難キ場所モ亦掛カラサルヲ以テ非常ノ際報急傳令等頗ル不便ニシテ或ハ時機ヲ失スルノ憂ナキヲ保シ難シ依テ適宜乘馬ヲ備ヘ巡視報急等ノ用ニ供シ其費用ハ警察費ノ内ヨリ任拂候様致度相伺候也

〔指令〕(二月二十三日) 書面伺ノ趣届候事

〔日誌第十號〕

二月十三日

兵庫縣伺

第一條 一 本年第七號布告賣藥規則第七條行商鑑札ハ地方廳ニ於テ製造下渡可然哉

第二條

一同第十七條ニ水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受クルルハ其鑑札料ノ半高ヲ納ムヘシト有之然ラハ遺失毀損等ニテ新鑑札ヲ願受クルルハ其金高ヲモ收納セシノ可然哉 右兩條相伺候也

〔指令〕(二月二十六日) 第一條伺ノ通 但雛形ノ儀ハ不日可相達事

第二條書替鑑札料ハ遺失毀失トモ總テ半高ヲ可爲納儀ト可相心得事

丙 〔日誌第十號〕

一月二十九日

愛知縣伺

第四課及警察出張所屯所等備付品ノ内破損シテ其用ニ堪ユヘカラサル分ハ之ヲ賣却シ其代金ハ昨九年八月御省乙第九十五號御達巡查被服器具還納物賣却代金同様取計可然哉相伺候也 〔指令〕(二月二十七日) 書面伺ノ通

丙 〔日誌明治十年第十一號〕

二月十五日

神奈川縣伺

金錄公債証書交付方ニ付客歲大藏省乙第九十三號達ノ趣モ有之候處右証書下付濟迄貫屬替或寄留地ニテ請取方開届候者ハ該府縣ニ証書送達方ノ儀滋賀縣ヨリ相伺候處本人情願書取總メ証書交付期限前豫メ驛遞寮ニ可申出旨御指令御省日誌第五十八號ニ登記有之候ニ付於當縣モ同様ノ者ハ夫々管轄廳ニ協議シ本人祿高姓名等大藏省ニ其時相届ケ期限前驛遞局ニ情願書取總差出候ハ、直ニ御遞附相成可申哉相伺候也

指令(二月廿七日)

書面伺ノ趣東京府ニ貫屬換及寄留致候者ニ限リ往復規程第三條ニ基キ驛遞局ヨリ直接該府ニ分付候儀ト可相心得他ノ府縣ニ同様遞付ノ儀ハ難聞届候事

丙 〔日誌第十一號〕

二月十九日

同縣伺

本年一月第六號公達ヲ以テ參事以下被廢候ニ付本縣ノ儀ハ同月十八日判任以下夫々再任其節書記官無之假記相渡置候處舊權參事儀同月廿日少書記官ニ任セラレ候ニ付假記ノ分ハ本記ト引替可申ノ處十八日ト廿日トノ差違ハ有之トモ判任官ノ儀ハ新任拜命迄從前ノ月俸支給可致旨本年第五號ヲ以テ公達有之上ハ八日付ナル假記ヲ廿日付ノ本記ニ致シ候トモ月俸等ノ差違ニハ不相成儀ニ付廿日付ニ致シ可然哉相伺候也

〔指令〕(三月廿七日)

書面官記日付ノ儀ハ書記官拜任後ノ日ヲ用ヒ月給ノ儀ハ假記相渡候日迄從前ノ月俸支給可致事

丙 〔日誌第十一號〕

二月十九日

千葉縣伺

門人子弟等其師父兄或ハ先人ノ碑文ヲ印刷シ同志ニ頒與スル如キ素ヨリ販賣不致モノニ付縣廳限開置可然哉條例中正條無之ニ付一應相伺候也

〔指令〕(二月廿七日)

書面伺ノ趣發賣ヲ要セサルモノニ限リ届出ニ不及儀ト可相心得事

丙 〔日誌第十一號〕

二月六日

長野縣伺

舊筑摩縣廳新築ニ付民費課出ノ廉ハ獻金下戻ノ儀ニ付昨九年十二月中庶第四百拾四號ヲ以テ處分方相伺候處學校其他民費課出ノ廉ハ遺拂ヒ更ニ下戻ニ不及旨御指令有之然ルニ右獻金ノ手續本人ヨリ出願ノ際舊縣ニ於テ一々聞届ノ旨指令ニ及置キ金圓ハ追テ相納候儀ニ付其内未タ納金ニ至ラサル者モ有之且ツ納金濟ノ内ニ於テモ既ニ縣廳新築無之上ハ獻金下戻ノ儀即今請願ノ者モ有之本人ニ於テ一意縣廳新築ノ廉ハ獻納ノ金圓ニ候得ハ其新築ヲ停止スルニヨリ之ヲ他途ヘ遺拂フトキハ出願人ノ素志ニ反クノミナラス不納金圓ヲ今日ニ督促スルカ如キハ條理當ラサル儀ニ付廢縣ノ節金圓未納ノ分ハ更ニ差出スニ及サル旨相達廢縣前既納ノ分ハ更ニ下戻遺度再應相伺候也

〔指令〕(二月廿七日) 書面伺ノ通

丙 日誌 第十一號

二月十五日

福島縣伺

第一條 一 口籍調査ノ儀ニ付今般第貳拾號公達但書ノ趣ニ據レハ製表進呈ノミヲ罷ララルノミナラス口籍法第五則中縣廳ニ於テ人員ノ異動本書ヘ加除スルノ件及ヒ幸未年十二月口籍法中心得方公布第五條但書トモ施行ニ不及儀ト相心得可然哉

第二條 一 果シテ然ラハ向後口籍上ノ取扱ハ單ニ區戶長ニ任セラレ候御趣向ニモ可有之哉然ル時ハ地方廳ニ有之簿冊自然不要ニ屬シ可申本縣ノ如キハ兼テ上申仕置候適當時元磐前若松ノ地方改正中ニ有之候處多少ノ民費ヲ耗シ詰リ不要ノ帳簿爲差出候モ無益ニ付區會所臺帳ヲ製シ候迄ニテ別段縣廳ヘ取置不申候テモ可然哉 右兩條相伺候也

〔指令〕(二月廿七日) 第一條伺ノ通 第二條口籍上ノ取扱單ニ區戶長ニ任セラルト

否トハ追テ何分ノ儀相達候得共帳簿爲差出方等ノ儀ハ伺ノ通適宜可取計事

丙 日誌 第十一號

二月二日

和歌山縣伺

今般當縣下第四大區五小區九度山村農家養ノ牡馬病徵有之牛醫診察候處彼ノリユンテルヘスニ感染ノ旨届出候ニ付不治ノ症ト診斷セシ上ハ不取敢撲殺埋沒其他豫防法客年御省乙第貳拾號御達ノ通り爲取計置候得共右ハ牛疫ノミニ限ル儀ニ可有之乍併其農馬ニ於ケルモ亦賠償撲法ニ依リ取扱可然哉相伺候也

〔指令〕(二月廿八日) 書面疫馬撲殺賠償金ノ儀ハ下附無之儀ト可相心得事

但先般元勸業寮ヨリ通知ニ及置候馬醫教師アノコト報告書ニ因リ豫防法精々注意可致事

丙 日誌 第十一號

二月廿三日

堺縣伺

出版條例第拾條ニ他人ノ著譯書版權ヲ有スルモノヲ校訂シ或ハ節略云々原主ノ承諾ヲ得サルヘカラスト有之ニ付原主承諾ノ連印ヲ肯セサル時ハ甲ノ書ヨリ一層明瞭ナル書ト雖モ出版スルヲ能ハサルニ似タリ然ルニ第拾七條ニ乙者一層明瞭ナラシムルノ確証アルモノ版權ヲ願出ツル時ハ云々ト有之右ハ原主ノ連印ニ不及哉果シテ然ラハ第拾條ト第拾七條トノ區分如何相心得可然哉相伺候也

〔指令〕(二月廿八日) 書面伺ノ趣ハ他人ノ著譯書ヲ校訂或ハ節略出版スルハ第拾條

ノ通りタルヘシト雖モ甲者ノ成譯ヲ乙者誤謬ヲ正シ又ハ闕漏ヲ補ヒ其文意ヲシテ一層明瞭ナラシムルノ確証アルモノハ草稿添其由ヲ記載シ願出ルルモ第拾七條ニ據リ

原主連印ニ不及儀ト可相心得事

島根縣伺

二月十日

〔日誌第十一號〕
明治八年太政官第六十六號御布告難破船及漂流物規則第三拾壹條第三拾貳條ノ場合ニ於テ見當主警察官吏タルトキハ改正遺失物規則同様ト看做シ歩金ヲ與フルコ不及哉相伺候也〔指令〕(三月廿八日) 書面伺ノ通

東京府伺

二月二日

〔日誌第十一號〕
明治九年七月太政官第九拾九號公布金穀借用証書書替方ノ儀ハ諸會社ニ於テ社長甲某ト認メタルモノ後來社長解任ニ依リ乙丙ト其職ヲ繼クノ類ハ素ト社長名義ヲ以テ金穀ヲ貸付シタルコニ付解任ノ都度書替ヲ要スヘキ部分ニハ無之ト存候得共明文モ無之ニ付相伺候也

〔指令〕(三月一日) 書面伺ノ趣ハ諸會社ニ於テ社長ノ職務ヲ以テ其會社ノ爲メ相用候証書ハ社長脫社解任候共會社存在ノ間ハ書替ニ不及儀ト可相心得事

山梨縣伺

二月十三日

〔日誌第十一號〕
第一條 一 本年第七號公布賣藥規則第六條ニ賣藥營業者及請賣者トモ必ス免許ノ看板ヲ掲クヘシト有之右ハ單ニ賣藥營業及請賣業ト云フ迄ノ看板ニ可有之哉又ハ何々藥發賣及請賣免許ノ看板コテ其賣藥名ヲ記シ賣藥一種毎ニ一枚ノ看板ヲ掲クヘキ儀ニ可有之哉

第二條 一 前條看板ノ儀其賣藥一種毎ニ掲クルモノトセハ其番號ハ御下付ノ免許鑑札ニ記スル所ノ同番號ヲ用ヒ可然哉若又單ニ賣藥營業及請賣藥ト云フ迄ノ看板ニ候ハ其番號ハ免許ノ順序ヲ以テ指示シ可然哉 右兩條相伺候也
〔指令〕(三月二日) 第一條看板ハ(免許)賣藥營業或ハ(免許)賣藥請賣藥ト可爲相認事
第二條 前條ノ旨ヲ以テ可相心得事

三重縣へ達

〔日誌第十一號〕
昨九年八月八日附テ以テ家督相續ノ儀伺出ノ内幼主ニテ相續人ヲ迎ヘ候儀ハ追テ可及指令旨相達候處右ハ情願ノ通聞届不苦儀ト可相心得事
但書稱呼ノ儀ハ互ノ便宜ニ任スヘキ事

滋賀縣伺

一月十二日

〔日誌第十一號〕
第一條 一 戸主死亡ノ跡相續人無之一時絶家ニ屬スル土地地券証ハ親族組合等ノ申立ニ依リ持主何某絶家預リ人何某ノ名義ヲ以テ地券ヲ下與シタルモノアリ如斯モノハ其親類協同シテ相續人相定ルマテ其土地ヲ保護シ預リ人ニテ其土地ノ義務ヲ盡スモ賣買若シハ書入質等ヲ爲スノ權利ハ無之モノニ候哉然ルコト亡某ヨリ親戚或他人ニ負債アルヲ以テ其償却方法ヲ立ンカ爲メ親類連署保証人ヲ相立賣買等ノ儀ヲ願出ツルモノアリ差許不苦哉

第二條 一 前條ニ反シ絶家ノ跡ヲ親戚保護シ其遺物ヲ以テ相續再興ノ爲メ絶家亡某ヘ土地ヲ買得シ預リ人何某ノ名義ヲ以テ地券ヲ要求センコトヲ願出ルモノアリ右ハ聞届

不苦哉元來再興ノ爲ナラハ其相續人ヲ定メ然後地券ヲ要求ス可キ順序ニモ可有之哉

第三條 一退轉跡地所ノ儀ニ付明治八年三月三十日筑摩縣伺ニ農家退轉後三拾六箇月ヲ過キ候上其持野山ノ儀其家名相續人ヲ求テ之ヲ附與可致積可伺出家名相續人無之候ハ、入札拂ノ積取調可伺出トノ御指令有之右退轉ト稱スルハ死亡後ノ絶家ト異ニシテ失踪後ノ退轉ナルヨリ即チ三拾六箇月ノ期限ニ相生スル儀ニ可有之哉且ツ此伺指令ノ趣旨タル退轉者ノ親戚無之モノニ候哉又ハ親戚ノ有無ニハ不拘儀ニ候哉

第四條 一然ラハ前條失踪後ノ退轉ニアラスシテ死亡者ノ絶家ナルトキハ其相續人相定ル迄ハ其親戚或其親戚無之トキハ戶長役場等ニテ其財産ヲ(地所ノミニ拘ハラス)保管可爲致モ彌以其相續人可相立目的無之トキハ其遺物財産如何處分可然哉

右件々相伺候也

〔指令〕(三月三日)第一條 死亡跡ハ直ニ相續人可相求儀ニ候得共不得已相續延期等

ノ次第ニテ本條ノ如キ者ハ親族協議ノ上地所賣却負債等相償儀不苦候事

第二條 該家ハ既ニ絶家シタルモノニテ其遺財ヲ以テ土地ヲ買求ムヘキ權利ヲ有シタルモノ無之ニ付相續人相立候上取計候儀ト可相心得事

第三條第四條 追テ可及指令事

〔丙〕一日誌第十一號

二月三日

長崎縣伺

爰ニ眞宗甲派ノ寺院住職アリ然ルニ異議ヲ主張シ衆人ヲ誑惑スル趣ヲ以テ本山ヨリ擯出セラレ後更ニ同宗乙派ノ徒弟トナリ教導職ニ撰舉セラルハ者有之抑一寺住職ニシテ

教導ノ職タルヤ擅下ヲ教化シ靈魂ヲ吊祭シ以テ政治ヲ補翼スル職掌ニ候得ハ其人タルヤ必ス品行篤實學識アル者ニアラサレハ敢テ當器ト言フヲ得ス然ルチ前陳異議ヲ主張シ衆人ヲ誑惑スルモノ朝ニ甲派ヲ脱シ夕ニ乙派ニ歸スル等ノ儀ハ自ラ擅下一般ノ風誼ニ關シ不都合ノ次第ニ付有其本山ヨリ擯出セラレシ者ハ總テ終身僧侶ノ徒弟トナリ候儀差止メ可然ヤ又ハ假令ヒ本山ヨリ擯出セラレ、トモ敢テ行政上ニ差支無之分ハ別派ノ宗ニ入り再ヒ教導職トナルモ其本山ト本人トノ意ニ任置キ可然哉相伺候也

〔指令〕(三月五日)書面異議ヲ主張スル等ノ儀畢竟其宗教分内ニ在テ意見ヲ合ハサルヨリ擯斥ヲ受ケタル迄ニテ本人所業ニ於テ別段行政上ニ關係無之候ハ、更ニ他宗派ニ入り再ヒ教導職タル等管轄廳ニ於テ差構無之儀ト可相心得事

〔丙〕內務省日誌明治十年第十二號

二月三日

山梨縣伺

當縣第貳拾貳區甲斐國八代郡豐富村曹洞宗法久寺檀家同村平民大沼宇右衛門外四人歸依ニヨリ日蓮宗ニ轉宗致度ニ付該寺住職大淺部悦文ニ承認書及懇請候得共不聞入趣ヲ以情願徹底候様處分ヲ請度旨別紙甲印ノ通願出候ニ付大淺部悦文呼出故障ノ筋一應及尋問候處古來ノ檀家無故離違シ地理不便ノ寺院ニ改轉スルヲ肯スル其ノ他ノ差響ニモ相成差支候ニ付承認難致旨乙印ノ通申出候右ノ事件何如處分可然哉相伺候也

〔指令〕(三月五日)書面伺ノ趣本人共情願取糺ノ上從前ノ宗旨不歸依之旨申立判然ニ候ハ、承認書ニ不拘其廳ニ於テ轉宗聞届不苦候事

〔丙〕日誌第十二號

明治九年十二月

埼玉縣伺

懲役人使役方ハ監獄則ヲ照準施行可致ハ勿論ニ候處當縣懲役場ノ儀ハ舊浦和縣ニ於テ役囚五拾名ノ目途ヲ以建築致候由然ニ本縣創立以來人員増加候ニ付檻舎建増或ハ摸樣換等イタシ一時ヲ補置候得共百五拾名以上ニ至テハ入場セシムルコト能ハス無餘儀別冊第一條ヨリ第七條マテノ通り適宜ノ方法ヲ設ケ實際施行致來候處今般監獄則ニ照準懲役場等造築ノ儀取調相伺候積ニ付御許可ノ上落成候ハ、御規則ノ通無論可取扱候得共目今實際差間候間前顯御開扉相成度且又第八條ヨリ第十五條ニ至ル件々併テ相伺候也

別冊

第一條 一當縣懲役場ノ儀工藝場至テ狹隘加フルニ各職器械全備不致殊藝者僅少ノミナラズ物品ヲ製造スルモ通運不便ノ地ニテ元品仕入諸費多クシテ自然高價ニ至リ之ヲ販賣スルニ益ナク且ツ役法實際ニ於テ役限ノ等級法ニ羈束セラレ工役ノ活用ヲ得サルヨリ利潤甚薄ク終ニハ費用償却モ不相立ニ付工力雜役ノ三等ニ區分シ使役致來候

第二條 一場中狹隘ニ付役囚百五拾名以上入檻セシムルコト不能然ルニ目今平均四百名ヨリ下ラス之ヲ役スルヤ管下便宜ノ村驛明家ヲ借受ケ一時驅役所トシ役囚配置專ラ外役ヲ爲致候得共檻獄則ニ依準スル時ハ囚徒ヲ備ント欲スル者アレハ幾連云々ト有之當縣ニ於テハ開墾土石運搬勞役等無之十中八九ハ耕耘備多ク故ニ本則ニ照準シ難ク候ニ付管内人民之囚ヲ備度旨願出ツル者ハ重輕ノ内請救ナル者ヲ撰ニ貸渡シ朝夕看守人ヲシテ迎送看護爲致或ハ村吏調印ノ預リ証書ヲ出サシメ備王

責付シテ驅役致來候

第三條 一女囚ノ儀工業場未タ設置無之ヨリ内役ハ僅ニ各囚衣類洗濯等ノミニシテ授業ノ方法不相立ヨリ不得已近傍村驛へ看守人ヲシテ往返迎送外役備ニ差出來候

第四條 一懲役囚戒具ノ儀五等役ヨリ四等三等二等役ヲ經過スル迄戒具ヲ付スルハ勿論ニ候處當縣ニ於テハ未ク戒具整備無之ニ付追テ全備候迄各囚身體ノ強弱ニ應シ難易ヲ量リ力役ニ付シ其所得傭工錢ノ多寡ヲ以テ役業等級ヲ豫定シ重輕ノ内篤ト撰分シテ適宜ニ戒具ヲ用來候

第五條 一役囚滿期放免付與金ノ儀監獄則ニ依ルルハ殊藝上級ノ者ハ日壹錢中級ハ五厘下級ハ貳厘五毛ヲ給ス其一等ニ進ムモノ日給錢ト食費トヲ引去リ剩ル金ハ悉ク還付ス云々ト有之當縣役囚ハ殊藝ノ者モ無之偶之アルモ實際ニ於テ其製造スル物品ヲ販賣シテ利アラザルヨリ多クハ外役ニ出シ所得ノ傭工錢ヲ以テ食費償却可相立者ヲ殊藝者ノ三級ニ看做シ日給錢支給致來候

第六條 一懲役百日以下獄則ヲ照準スルルハ五等ノ役ニ止リ無給ナリト雖モ當縣ニ於テハ前條ノ通り場内ニ於テ役スルコト能ハサルヨリ決行入場直ニ外役ニ差出シ其所得ノ傭工錢ヲ以テ食費償却可相立者ハ之ヲ殊藝者ニ看做シ日給錢等付與致來候

第七條 一監獄則官員ノ條ニ役囚ノ休日モ亦官員ニ同シトアルニ依リ休暇日御改正以來日曜日ニ勿論土曜日モ午後半日休役爲致候處各囚ノ内ナホ内外ノ役ニ就キ度旨願出ツル者有之右等ハ其請ヲ許シ該日所得ノ傭工錢ハ悉ク加給トシテ本人へ給

付致來候

第八條 一不良ノ子弟其父兄ノ情願ニ依リ懲治檻ニ入置ク者或ハ無籍ニシテ授産場ニ差置ク者等使役ノ方法ハ稍寛ナルト雖モ禁止物ヲ包藏シ若クハ脱檻ノ企テ爲ス等ニテ一般獄則ニ觸ル、キハ已決ノ囚ニ準シ處分可然哉

第九條 一御省本年乙第百三號御達處刑濟原籍掛合中留置ク者之ヲ授産場ニ置クヘシ(中略)賄費ノ儀ハ未決ノ平囚ニ準シ云々有之然ルキハ囚人給與規則ニ依リ白米四合ヲ給スルハ勿論ニ候處固ヨリ役囚ニアラサレハ敢テ役ヲ執ラシムル儀ニハ之ナクト雖モ身體壯健ノ輩ニ至テハ坐食ヲ欲スル者ナク依テ相當ノ傭工爲致候時ハ已決囚ニ倣ヒ傭工相當ノ食量ヲ與ヘ不苦哉若シ然ルキハ四合ノ外加食費ハ懲役費ヨリ仕出スヘキヤ將タ囚獄額外常費ヨリ仕拂可然哉

第十條 一前同斷ノ者入場照會中被服換ノ期節ニ至ル歟或ハ即今經緯薄衣等ニテ其儘難差置者別ニ被服ヲ貸與ヘ本管ヘ引渡後代償セシムト雖モ或ハ赤貧無力或ハ附籍ヲ願フモ固ヨリ親戚ニアラス只情義ヨリ出ル者等ニ至テハ其代價ヲ支辨セシメ難キ情勢有之此ノ如キハ官費支給何レノ費額ヨリ仕拂可然哉

第十一條 一懲役囚及懲治人又ハ無籍ニシテ授産場ヘ差置ク者等若シ逃亡シテ踪跡知レサル者ノ殘品有之キハ壹ケ年經過シテ捕ニ就カサレハ之ヲ賣却シ放免ノ際付與スヘキ傭工錢ヲ併セテ懲役費元ニ組込可然哉
但父兄ノ情願ニ依リ懲治檻ニアルモノ、殘品ハ其父兄ヘ還付勿論ノ儀ト存シ候

第十二條 一原籍掛合中授産場ニ留置ク者ノ内目今齡五年ノ女兒ヲ携フル者アリ右食量ノ儀ハ囚人給與規則中輕役十年以下男女共白米貳合七夕トアルニ依リ七年未滿ト雖モ同様ノ儀ト相心得可然哉

第十三條 一懲役囚并懲治人等ヘ工役ノ暇習字算術讀書ノ教授爲致度候處當縣ノ如キハ未タ教育ノ方法不相立候得共檻則中既ニ教師ノ設アルヲ見レハ右ニ屬スル諸費ハ總テ懲役費ニ相立可然哉

第十四條 一御省第百拾七號公布違式註違條例第三條改正中違式ノ罪ヲ犯シ無力ノ者ハ實決法ニ依リ懲役八日ヨリ少カラス十五日ヨリ多カラスト有之就テハ右服役中病ニ罹リ休業スレハ獄則償役法ヲ以テ論シ懲役十五日ニシテ三日ノ休業ハ之ナ限内ニ算入シ三日以上ハ償役セシメ又懲役八日ヨリ九日或ハ十一日ヨリ十四日等ノ五日ニ滿タサル端日數ニ至テハ折算上聊カ差ヲ生スルト雖モ五日未滿ハ之ヲ半日トナシ譬ヘハ懲役八日ニシテ二日休業スル如キ一日半ヲ限内ニ算入シ半日ヲ償ハシメ可然哉

第十五條 一當縣懲役囚外役ノ爲メ各所ニ授産所ヲ設置シ役囚差遣候處時々發病ノ囚モ有之依テ近傍醫師ヲ招キ治療爲致來リ候得共無給コテハ難澁ノ趣相聞乍去獄醫定額金ニテハ不足ヲ生シ支給難相成候間月給三圓以内ヲ以テ各所ヘ壹名ツ、相備置度懲役費ヨリ仕拂可然哉

(指令)(三月五日) 書面ノ趣左ノ通可相心得其他聞置候事

第二條 雇主村吏へ責付ノ儀ハ不相成候條改正ノ見込可相立候事

第五條 明治八年當省乙第三拾九號達ニヨリ雇工錢拂ニ屬シ候分償却致シ猶ホ贏餘有之者ハ聞置候事

第六條 百日以下ノ者へ日給錢付與ノ儀ハ難相成候事

第七條 難相成候事

第九條 伺ノ通四合ノ外加食費ハ雇工錢中ヨリ償却可致候事

第十條 伺ノ通囚獄額外常費ヨリ支出スヘシト雖モ雇 錢有之者ハ償却可爲致候事

第十一條 伺ノ通懲役場ニ積置ギ工業便利ノ器械川ニ可充候事

但一ノ字ヲニ改メ但書申出ノ通

第十三條 方法取調更ニ可申出候事

第十四條 太政官伺中ニ付追テ何分ノ達可及候事 但御省ハ太政官ノ誤寫ナルヘシ

第十五條 追テ可及指令候事

(畢)

民事指令錄小引

一 客冬以來指令錄ヲ刊行スルハ各裁判官ノ遍ク本省ノ指令ヲ了知センコトヲ欲テナリ然ルニ指令ハ各廳ノ申稟ニ從ヒ裁令スル者ニシテ其文務メテ簡單ヲ要スルヲ以テ或ハ恐ル讀者猶ホ指令ノ理由ヲ解シ難キニ苦マシコトヲ故ニ自今條件ニ從ヒ其指令ノ理由書ヲ掲ク若シ夫レ指令ノ理由ヲ掲ケスシテ明瞭ナル者ハ必スシモ一々之ヲ掲ケス

一 伺指令ハ必スシモ一々之ヲ載セス

一 客冬以來既ニ刊行ニ係ル者ハ每號ノ附録トシテ指令ノ理由書ヲ掲ク

一 凡ソ事ノ民法ニ關シテ裁判官ノ參考トモ爲ルヘキ諸案件ハ隨時之ヲ採擇シテ附録ニ刊行ス

一 指令ノ理由書ヲ掲クル者ハ圈中理ノ字ヲ記ス

司法部省指令錄 民事部第十八號

十年三月八日

○〔第百一〕 三重縣ヨリ裁判所關係事件ニ付指令ノ儀伺

本年二月一日附テ以民刑其他裁判所關係ノ事ニ付例規或ハ例規外取扱等ニ於テ云々相
伺候處本年二月附御指令ノ趣領承右趣意タル譬ハ壬申年太政官布告第百八十七號華士
族平民身代限規則又ハ昨年御省達第六十六號區裁判所假規則或ハ當縣元裁判所ヨリ相
達候事件等ニ付區戶長及ヒ人民ニ於テ取惑ヲ生シ伺出候節ハ於當縣及指令裁將々裁判
所ニ爲伺出可然哉相伺候儀ニ候得共文意不明瞭ノ廉モ有之候ニ付此段更ニ相伺候也

〔指令〕十年三月二十六日 伺之趣區戶長ヨリ伺ヒ其應ニ於テ辨明致シ難キ者ハ當
省ニ伺出一般人民ニ對シテノ辨明ハ一切不致候事
但元裁判所ヨリ相達候事件トハ何等ノ事ナルヤ不明瞭ニ付更ニ取調可伺出事

民事部第十八號

十年三月十七日

○〔第百二〕 東京裁判所ヨリ人民ヨリ區戶長ニ掛ル訴訟ノ儀ニ付伺

本年二月十九日第十九號御布告上等裁判所章程ニ各人民ヨリ諸官省等ニ對スル訴訟受
理ノ廉掲載無之ト雖モ右ハ明治八年五月二十九日日本省甲第五號ノ布達ヲ以テ打追單行
セラル、儀ニ可有之哉然レハ區戶長ニ對シ職務上ニ係リ被告トスル原告ハ必ス上等裁
判所ニ訴出ル等ト心得可然哉此段相伺候也

〔指令〕十年三月二十六日 伺之通

民事部第十八號

十年三月五日

○〔第百三〕 愛媛縣ヨリ訴訟引繼方ノ儀ニ付伺

當縣元爲換方大坂府平民井上市兵衛儀先般致閉店候處其以前同人ヨリ別紙寫甲印廉書
ノ通管下伊豫國第十三區三小區南方村菅忠四郎外四名ニ係ル貸金催促ノ訴訟當縣舊
裁判所ニ出訴ニ及ヒ取調中同所被廢候ニ付過般松山裁判所ニ及引繼候處乙印ノ通返戻
有之候ニ付再度丙印ノ通及掛合候得共復々丁印ノ通返答有之到底協議不相濟候處當應
ニ於テモ一旦受理セシモノ今更却下モ難成右ハ如何ノ處分致候テ可然哉至急詳細御示
指有之度此段相伺候也

〔指令〕十年三月二十八日 伺之趣松山裁判所ニ引渡スヘキ事

但松山裁判所ニ於テ引繼ヲ爲サ、ルノ理由ハ固ヨリ之レ無ク且該件ハ訴訟權ヲ失
フタル者ト見做スヘキ者ニアラス

理

愛媛縣伺訴訟引繼方ノ件ハ某甲乙某ニ對シ貸金催促ニ付該縣裁判所ニ出訴中該縣裁
判所被廢是ニ於テ郡ノ裁判事務之ヲ松山裁判所ニ引渡ス先是訴主某甲該件出訴ノ後
閉店ヲ爲ス此時ニ當テ該縣ヨリ預ケ官金アルヲ以テ其抵當物ニ不足アラソト恐レ
外財産ヲモ差出スヘキ旨ヲ申出タルニヨリ財産取調ヲ爲セシ然ルニ松山裁判所ハ是
事アルヲ以テ既ニ某甲ハ貸金訴訟ノ權理ヲ失シタル者ト認メ却下スヘキ者トシ其引
續ヲ受ケスト爲ス而シテ今本邦ノ制ヲ按スルニ他ノ外邦ノ如ク郡ノ負債者ニシテ閉

店スル二日或ハ三日ナルトキハ這ノ債主ハ之ヲ見テ身代分散ノ請求ヲ爲スヲ許ス
 ヘキ成規アルコトナク身代分散ヲ公告スルニ非サレハ設ヒ閉店スルトモ之ヲ身代分散
 スヘキ者ト推測シテ之ヲ訴フルコトヲ得ス唯閉店ト財産調ヘトテ見テ忽チ彼レハ貸金
 ノ訴訟ヲ爲スヘキ權理ヲ失シタル者ト認ムルコトヲ得可ラサルコトハ勿論ナリ且其訴訟
 權ナキモノトシ其詞訟ヲ却下シハ其本人ノ損害ハ勿論他ノ債主等ノ損害ト爲ルヘシ
 既ニ然ラハ該訴訟ハ固ヨリ却下スヘキモノニアラス加之設ヒ却下スヘキ條件ナルニ
 シヨ愛媛縣裁判所既ニ廢セラレ松山裁判所其相續人タラハ裁判一切ノ事務ヲ引續キ
 審判スヘキハ之ヲ審判シ却下スヘキハ之ヲ却下スルコト當然ノ儀ナリ

別紙

甲

記

- 一大坂府下平民當縣元爲換方井上市兵衛ヨリ當縣第十三大區三小區南方村菅忠四郎
ニ係ル貸金催促ノ訴狀袋入ノ儘
- 一右同斷當縣第十三大區四十四小區管町壹丁目六十八番地土族新海政敏ヘ貸金催促
ノ訴狀右同斷
- 一右同斷當縣第十三大區十九小區土居村七十六番地平民越智八藏ヘ係ル貸金催促ノ
訴狀右同斷
- 一右同斷當縣第一大區二十二小區新町八十六番地平民岡田絃吾ヘ係ル賣掛代金引渡
訴狀右同斷

違約三件訴狀右同斷

- 一右同斷當縣第十三大區四十五小區魚町二丁目十二番地土族井上一散ヘ係ル貸金催
促ノ訴狀右同斷
- 以上五袋

乙

大坂府下平民井上市兵衛閉店前出訴ノ分ト有之合テ五件此節御引繼ノ趣ニテ御指廻
 ニ相成候處市兵衛儀閉店ノ未既ニ財産調等ニ及由然ル上ハ他人ヲ相手取訴訟ヲ爲ス
 ノ權利無之者ニ付御引繼ヲ可受迄モ無之御縣ニ於テ御却下可相成筋ト存候依テ右件
 ヲ御指廻ノ目錄ニ添返戻ニ及候也

松山裁判所長

十年二月五日

愛媛縣權令岩村高俣殿

六等判事 伴 正臣 印

丙

當縣元爲換方大坂府下平民井上市兵衛當縣元裁判所へ出訴中ノ訴狀五件過日及御引
 繼候處市兵衛儀閉店ノ未既ニ財産調等ニ及候由然ル上ハ他人ヲ相手取訴訟ヲ爲スノ
 權利無之者ニ付引繼ヲ受ク可キ迄モ無之當縣ニ於テ却下可相成筋依テ右件々目錄ニ
 添御返戻ノ趣了承然ルニ市兵衛義及閉店ニ候ニ付テハ當縣ニ於テ預ケ官金ニ對シ兼
 テ取置有之抵當物ニテ若シ不足ヲ生シ候節爲辨償外所有ノ財産ヲ差出度旨申出候ニ

付本人協議ノ上所有物ヲ取調候迄ニ有之殊ニ右五件ハ閉店不致前既ニ出訴致候儀ニ付訴訟ヲ爲ス權利ハ有之者ト思量シ過般御引繼ニ及ヒ候次第ニ有之候條今一應御評議有之度此段御答兼及御掛合候也

十年二月八日

松山裁判所長

六等判事伴 正臣殿

愛媛縣權令岩村高俊 印

丁

御縣元爲換方大坂府平民井上市兵衛儀御縣舊裁判所へ出訴中ノ五件過日御引繼ノ所云々市兵衛閉店ニ及ニ付テハ御縣ニ於テ同人へ預金ニ對シ兼テ被取置候抵當物ニテ若不足ヲ生候節ハ爲辨償外所有ノ財産ヲ指出度旨申出ニ付本人協議ノ上所有物取調迄ニ有之殊ニ右五件ハ閉店不致前己ニ出訴致居儀ニ付云々再度御掛合ノ趣致承知候然ニ井上市兵衛ノ閉店タルヤ負債ニ根據シタル儀ト存候就テハ爾後同家ノ存亡ハ債主ノ所爲ニ關スル者ニテ既ニ該縣ニ於テモ預ケ置處ノ官金ハ逐一御引上ケ可相成若シ返納不相調時ハ市兵衛ノ身代限ニ處スモ到底夫々御取立ニ不相成テハ不相濟等ト存候其身代限處分ノ場合ニ至リテハ過日一旦御指廻有之候(所謂五件市兵衛ヨリ他へ貸金ノ證書等ハ右處分ニ加ハルヘキ謂ニ候得ハ即今閉店中ニ立ナカラ自己ニ訴テ起シ其證書ヲ以貸金ヲ請取ラントスルノ權利無之有ハ御縣ノミニ於ル猶然リ况ヤ他ニ債主有ニオイテチヤ然ハ假令閉店前ノ訴訟タリト閉店ノ今日ニ至リテハ却下ノ外

無之儀ニ付則前議ノ通ヲ以返戻致候譯ニ有之候間左様御承知有之度此段重テ及御回答候也

明治十年二月五日

愛媛縣權令岩村高俊殿

松山裁判所長 六等判事伴 正臣 印

民事部第十八號 十年三月七日

○(第四百四) 静岡裁判所ヨリ民事審判中吟味願ヲ爲スモノ、儀ニ付再伺

民事審理中ノ主件ヲ被告人翻然警察官ニ向ヒ吟味願ヲ爲スモノ、儀ニ付去二月九日付ヲ以テ相伺候處裁判ヲ中止スヘシ審判權ヲ冒瀆スル理ハ無之云々ト御指令(第十四號第八十四)アリ猶退テ熟考スルニ抑被告人ニシテ吟味願ヲ爲スモノ大率自己ノ申分道理ニ適セス終ニハ裁判官ニ採用セラレス負詞訟ニ歸スルナラント豫想スルモノ、所爲ニシテ畢竟平素國家ノ法章ニ忽諸ニ付シ自カラ權利ヲ拋棄シ又ハ生來痴鈍ニシテ條理ニ暗ク粗漏ニ事ヲ輕行シテ意外ノ損失ヲ釀生スルノ類多キニ居ル凡世間中人以上ニアラサルヨリハ自己ノ失誤ヲ咎メスシテ却テ他ヲ怨惡シ吾生ノ粗漏ヲ思ハスシテ徒ニ不幸ヲ歎スルハ往々免レ難キ通情ナルヲ以テ法術ノ裁判己レノ爲メ不利不滿ナラント豫想スルモノハ乃チ試ニ吟味願ヲ爲シテ其懣忿ヲ消セント欲シ或ハ一時其責ヲ免ルノ策ヲ爲スモノ掛カラス是等ノ者ハ素ヨリ警察官ノ何者タルヲ辨知セズ其意蓋シ法術ニ於テ採用ナキヲ哀訴歎願スヘキハ即チ警察官ナラント思惟セルモノニシテ同官モ亦一度

哀訴歎願ヲ聞クキハ多クハ之ヲ受理スルヨリ（本省日誌上嘗テ某縣ノ伺指令ニ依ルナ
 ラン平）前陳ノ如ク法衙ヲ舍テ他ニ趨ルモノ擲ナカラサル所以ニ有之茲ニ於テ法衙ハ
 其都度裁判ヲ中止シ空シク警察官ノ處分ヲ俟ツモノトスルキハ原告人ノ權利ヲ伸暢セ
 シムルコト遅々ニ及ヒ其不幸僅少ニアラス又裁判官モ其職務ヲ行フコト警察官ノ爲メニ
 遮斷ヒラル、カ如キ筋ニ該リ即審判權ヲ冒瀆スル者ニハ無之哉且彼審理中吟味願ヲ爲
 スヤ其意蓋シ原告人ノ訴趣貫徹スルキハ自己ノ爲メ不利ナリト思惟スルヨリ起ルモノ
 ニシテ縱令原告ニ於テ少ク疑フヘキ廉アルモノト雖モ未ダ裁判結局ニ至ラサル内ハ雙
 方曲直勝負何レニ歸スヘキヤ豫定スヘキモノニ非ラス未ダ斷シテ原告ノ爲メ害ヲ蒙リ
 タリト申立ツルヲ得サル道理ニ有之然ルチ警察官ニ於テ其未タ害ヲ蒙ラサルモノ、爲
 メ吟味ヲ爲スナ許サル、ハ果シテ何ノ理義ニ基ツクヤ其既ニ被告ノ甚タ悞悶ノ堪ヘカ
 タキ者ニ致テハ何ソ原告人法衙ニ出訴スルチ俟テ始テ吟味願ヲ爲スノ理アラシヤ若シ
 萬一有之モ裁判官豈一片ノ條理ヲ墨守シ其情實ヲ不問ニ指クヘケンヤ必ラス事由ヲ審
 覈シ其犯罪アリト思料スルカ如キハ檢事（檢事ナキ地方ハ警察官）ニ通報シ其意見ヲ聞
 キ其裁判ヲ中止スヘキハ之ヲ中止シ力メテ人民ノ欺訴等ニ罹ラサランコト注意スヘキ
 ハ論ヲ俟サルコトニ有之故ニ人民ニ於テ法衙審判ノ結局ヲ仰カスシテ去テ他ノ吟味願
 フヘキ理ハ有之間敷又警察官モ其未タ愬ル道ナキニ非サルモノヲ受理スルニハ及ハサ
 ル平何分ニモ過般ノ御指令理義了解致シ難ク再應相伺候詳悉御指令ヲ仰キ候也
 〔指令〕（十年三月二十八日）再伺ノ趣民事ノ訴ヲ警察官ニ於テ受理スヘキ理ハ無之等

ニ付過般指令ノ刑事ノ吟味願ヲ爲ス場合云々ノ文字熟讀可致事

（理）

静岡縣裁判所再伺ノ件元來純粹ノ民事ヲ警察官ニ於テ受理スヘキ理由ナク若シ之ヲ
 受理スルニ於テハ必ズ民事ニ附帶シタル刑事ナルヘシ果シ然レハ過般指令ノ通審判
 權ヲ冒瀆スル理ハ決シテコレナキナリ

（司）民事部第十八號 十年三月八日

○〔第五百五〕 名古屋裁判所ヨリ訟獄審理表調製ノ儀ニ付伺

本年丁第十九號ヲ以訟獄審理表雛形相副御達有之候處其記載方了解致シ兼候間別紙甲
 乙（畧之）兩様ニ掲載一應相伺候若シ甲印ノ方御旨同ナレハ三ヶ月以上及ヒ數月以上ニ
 渉ル者許多アル時ハ記載方容易ノ事ニアラス或ハ一紙ニテハ迎モ纏リ難キコトモ之レ在
 ルヘキカ
 右表中譬へハ甲官ヨリ乙官へ引續ノ件乙官ノミ表面ニ續審ノ條アリテ甲官ノ表面ニハ
 其引續ノ件ヲ掲載スル條ナキハ各自表面不纏リカト被存候此等如何相心得候哉右至
 急御指揮有之度候也

〔指令〕（十年三月二十八日）前段乙印雛形ノ通調製可致最前月以前ニ受ル件々ハ都
 テ舊受ノ欄内ニ記載シ三ヶ月以上乃至二ケ年以上未裁トハ舊受ノ中延帶ノ件ト心得
 へシ

但シ表ノ外則ニ朱書スル續審ノ件ハ三ヶ月以上延帶ノ中何ノ件ハ何誰ヨリ續審六

ケ月以上延帶ノ中何件ハ云々ト各別ニ記載スヘシ
後段 本年丁第二十三號ノ通相心得ヘキ事

理

名古屋裁判所前段ハ乙印ノ雜形其宜ヲ得ルト雖モ唯(舊受)欄中其ノ記載ノ方法ヲ失スル者ノ如シ蓋シ(三ヶ月以上未裁)乃至(一ケ年以上未裁)ト云フ者ハ延帶ノ事件ニシテ即チ(舊受)中ノ者ナレハナリ而シテ後段ニ所謂ル甲官ヨリ乙官ヘ引續乙官ノ表中ニ續審ヲ記載シ甲官ノ表ニ引渡ヲ記セサルハ不纏云々ノ事ハ本年丁第二十三號達ノ通り記載セシメハ可ナリ

司 民事部第十八號

十年三月七日

○(第百六) 長崎裁判所ヨリ民事身代限之節差押フ可カラサル物品處分之儀ニ付伺
壬申第百八十七號身代限規則中抵償トシテ差押フヘカラザル條職業ニ必要ナル書類及ヒ諸器械品物等其金額五拾圓ニ至ル迄云々ト有之候處譬ヘハ身代限ニ違フ者其職業ニ必要ナル品物金額五拾圓ヲ超過スル一品アルノミ右ハ素ヨリ金額五拾圓ニ至ル迄ノ成文ニ觸ル、モノナレハ糶賣可致ハ勿論ナレモ均シシ必用物品ニシテ五拾圓未滿ナル時ハ現品ヲ以テ引殘スヲ得五拾圓ヲ超過スル時ハ全ク糶賣相成候テハ實際處分上甚平均ナラサルヲ覺フ右等ノ儀相當ノ取扱振ハ有之間敷哉相伺候也
〔指令〕(十年三月三十日) 伺ノ趣價額五拾圓ニ超過スルモノハ糶賣部中ニ加入スヘシ但シ職業必要ニシテ之レヲ糶賣セハ債主ノ損害ヲ來ス可キ物ハ勿論其他ノ物件ト雖

各債主ノ其糶賣ヲ止メ該負債者ヘ付與スルモノハ固ヨリ各債主等ノ望ニ任セ處分可
致事

理

長崎裁判所伺ノ趣ハ元來身代限處分ニ違フ者職業必要品等金額五拾圓迄差押ヘシメサル成規ハ思ニ之レヲ差押ヘナハ本人再蘇ノ道ヲ絶テ却テ債主將來ノ利得ヲ損害スヘキノ恐レアルニヨリテナラン然ルニ現行ノ法成ニ五拾圓迄ト其規畫ヲ定メタルハ實際不適當ノ定規ナラン譬ヘハ貳拾圓ノ家財ナル者(必用品ヲ加ヘ)拾五圓ノ負債ニヨリ身代限ノ處分ヲ請ル節其身代ハ悉ク差押ユ可カラサル職業必要品ノミナレハ更ニ債主ノ得ル處ナキニ至ルヘク如何ニモ不都合ナリ退テ改良ノ見込取調フヘシ

司 民事部第十八號

十年三月十日

○(第百七) 三重縣ヨリ諸證書等本版或ハ活字版ヲ用フル儀ニ付伺
金穀貸借證書并諸請取書等本版或ハ活字版ヲ用ヒ候共不苦哉ノ旨伺出候者有之候處諸受取書ハ勿論貸借證書ト雖モ實印ヲ以テ證據ト致候上ハ敢テ差支無之様相考候ニ付其旨指令ニ可及ト存候得共裁判上御差支ノ有無如何可有之哉取惑候ニ付此段相伺候至急何分ノ御指令有之度候也
〔指令〕(十年三月二十日) 伺ノ趣私人ノ之レヲ爲ハ差支無之事
但シ實印ヲ押捺之レナクモ金員姓名等ヲ自署セシ者ハ固ヨリ證據ノ一端ニ相成ルモノタルハ勿論ノ事

〔理〕

三重縣何諸證書等木版或ハ活字版ヲ用ユル件ハ九年十二月二十七日岡山縣何ト略ホ
其旨趣ヲ同シ一私人ニシテ之ヲ爲スハ其幣害無之者ノ如シ唯該何書中實印ヲ證據ト
致ス上ハ敢テ差支無之様被相考ト云々スルモノ頗ル語弊アリ何トナレハ今反シテ之
ヲ云フトキハ書面ハ證據ノ端緒ニモ成ラヌト云フ解ナ下スヲ得ヘケレハナリ果シテ
然ラハ之カ病幣ヲ舉テ之ヲ指示セサルヲ得ス

司民事部第十八號

十年三月十二日

○〔第百八〕 松本裁判所ヨリ審理表調製方ノ儀伺

審理表調製方今般御達相成候ニ付テハ民事訴訟身代限之分揭示中ハ未タ結局ニ至ラサ
ル勿論ニ候得共右ハ執行ノ爲メ日數ヲ累加候迄ニテ其曲直ハ已定セシモノニ付揭示中
三ヶ月越ル分(公判身代限ハ已裁ノ部示談身代限ハ未裁ノ部)ニ記入シ經過日數欄内へ
ハ掲載不致心得ニ候得共爲念此段相伺候也

〔指令〕(十年三月三十日) 伺ノ趣公判身代限ハ無論已裁ノ部へ記入可致示談身代限ト
雖既ニ該詞訟ヲ和解シタルモノナレハ其身代限執行ノ未濟ニ屬スト雖既已裁ノ部
ニ記入可致候事
但經過日數欄内へ記入不及候事

〔理〕

松本裁判所伺ハ文字頗晦澁スト雖既之ヲ要スルニ民事訴訟身代限ノ分揭示中ニテ日

數ヲ經過シ三ヶ月ヲ越ルト雖既ニ裁判言渡已上ハ公判身代限示談身代限共ニ表ノ

未裁ノ部ニ記入セズ公判身代限ハ表
中
已裁ノ部ニ記入シ示談身代限ハ表
中
未裁ノ部ニ記入シ揭示中經過ノ日數表
中
已裁ノ部欄内ニ記入致サストノ義ト思考セ

リ然レハ公判身代限ト示談身代限ト少シク其趣旨ヲ異ニスト雖既一ハ裁判言渡シス
ミ一ハ原被雙方和解シタル者ナレハ共ニ已裁ノ部ニ記入シ且ツ其經過日數モ該表欄
内へ記入不致モ可然

司民事部第十八號

十年三月十三日

○〔第百九〕 箱館裁判所ヨリ請人ニ係ル出訴期限并各人民ヨリ官府へ對シ勸解願出候
節ノ儀及ヒ初審裁判ノ執行ヲ拒ム者處分ノ儀ニ付伺

第一條 甲債主乙へ金若干ヲ貸與へ期限ニ至リ償却淹滞甲ヨリ乙へ係リ出訴シ乙示談
ノ上身代限ヲ以テ濟方セリ其証書ニ受人数名アリト雖既住所數十里隔絶殊ニ乙トハ裁
判廳ノ管轄モ亦異ナルヲ以テ甲ニ於テハ乙ノ身代分散金配當ヲ受ケタル上受人へハ其
住所ニ於テ追訴スル旨ヲ乞請其乞ヲ允許セリ然ルニ直ニ受人へハ追訴セズ數ヶ年ヲ經
出訴期限(乙身代配當ノ日ヨリ受人へ對スル出訴期ヲ算ス)過去タル後受人へ係リ出訴
セリ如斯ハ其証文上本人(乙ナ云フ)へ對シ身代持直シ次第出訴スルノ權ヲ有スト雖モ
受人へ對スル權ハ自ラ拋棄シタル者ニシテ受人ニ於テハ自然義務ノ放釋ヲ得タル者ナ
レハ取上ケ裁判不及候哉

第二條 各人民ヨリ院省使府縣等へ對スル訴訟受理ノ儀ハ八年御省第五號同第十四號

ナ以テ御布達有之然ルニ院省使府縣へ對シ勸解願出候ハ、右御布達ニ準シ上等裁判所へ願出ツヘキ旨ヲ説得シ願狀却下可致哉又ハ勸解ハ定規ニ拘ラサル者ニ付採上ケ勸解致スヘシ哉

第三條 初審裁判ヲ申渡シタルニ一方ノ者不服ヲ唱ヘ裁許狀等ヲ受取ラス且御規則ニコリ控訴ノ方法ヲ明示スレモ不肯荏苒光陰ヲ移シ終ニ控訴ノ期限ヲ過去リ猶其執行ヲ拒ム者アリ固ヨリ自ラ控訴ノ權ヲ放棄シタル者ニシテ即チ初審裁判ハ終審裁判ノ力ヲ得テ確定ナル者ナレモ直ニ裁判執行ヲ達シ其命ニ隨ハサルモハ刑事事ニ付シ相當ノ處分ニ及ヒ村町役人或ハ家族親戚ノ者ヲ呼出シ裁判狀寫ヲ下附シ裁判通り執行爲致可然哉右之條々差向キ候儀モ有之ニ付至急仰御指令候也

〔指令〕(十年三月三十日) 第一條 伺ノ通

第二條 上等裁判所へ訴出ツヘキ旨ヲ以テ却下可致事

第三條 伺ノ通

但控訴期限内ト雖モ控訴ノ届チナサス徒ラニ不服ヲ唱フル者ハ本條ノ通タルヘシ

理

函館裁判所伺第一條ハ伺ノ通ニテ可然第二條各人ヨリ官廳ニ對スル訟訴ハ勸解所ニ於テ採上シヘキ者ニ非ス何トナレハ勸解ハ各個ノ爭訟ヲ説諭和解スルノ主旨ニシテ裁判ト大ニ其性質ヲ異ニス且ツ官廳ハ即無形ノ人ニシテ各個爭訟ノ如ク説諭和解スヘキ者ニ非サレハナリ第三條伺ノ通ニテ可然但チ初審裁判言渡ノ後控訴期限内ト雖

モ控訴ノ届チナサ、ルモハ裁判執行スヘキハ固ヨリ言ヲ俟タサルナリ

〔民事部第十八號〕 十年二月十五日

○〔第一百〕 金澤裁判所ヨリ訟獄審理表調査ノ儀ニ付伺

本月三日丁第十九號司法省御達訟獄審理表(中略)主理ノ判事或ハ判事補各自當該ノ件數表云々トアリ然ルニ當廳ニ於テハ掛判事一名主副判事補二名ヲ以テ一件ヲ擔當ス依テ掛判事各自ノ表ノミヲ作り可然カ將テ主タル判事并掛リ判事補各自ノ表ヲ作り可然カ疑義相伺候條至急御指令奉仰候也

〔指令〕(十年三月三十日) 伺ノ趣判事主理スル事件ハ判事之レヲ製表ス可ク判事補主理スル事件ニ於テハ判事補ヲシテ製表可爲致事

理

金澤裁判所伺訟獄審理表調製方ノ儀ハ判事主理スルニ於テハ素ヨリ判事之レヲ製表ス可ク又判事補ノ主理スルモノハ判事補ヲシテ該表ヲ製セシムルヲ當然トス

〔民事部第十八號〕 十年三月十九日

○〔第一百〕 大坂裁判所ヨリ同上伺

本年丁第十九號ヲ以テ民刑審理表差出方御達相成候處當廳ノ儀各件判事主理致シ判事補以下ヘ分任爲取調候儀ニ付判事并判事補共各表差出候テハ重複記載相成候間判事而巳差出可申哉又ハ判事補以下各自ニ差出可申哉右決兼候間相伺候條至急何分ノ御指揮有之度候也

〔指令〕十年三月三十日 伺ノ趣判事ト理スル事件ノ判事之レヲ製表ス可ク判事補主
理スル事件ニ於テハ判事補ヲシテ製表可爲致事

司 民事部第十八號

十年三月十九日

○〔第百十二〕 名古屋裁判所ヨリ訴訟入費規則ノ儀ニ付伺

明治九年甲第五號布達訴訟入費規則第四條ニ證人并引合人差添人旅費滿八里ニ付金十
錢云々但シ八里ヲ越レハ每滿一里ニ付金十錢ト有之ハ譬へハ裁判廳ヲ距ルコト八里ニ滿
タサレハ旅費無之滿八里ハ金十錢滿九里ハ金九十錢滿百里ハ金拾圓ト計算スル儀ニ之
レアルヘキ歟果シテ然レハ滿七里マテハ旅費無之其權衡太ク穩カナラサルカ如シ何ソ
トナレハ實際ニ徵スレハ滿七里ノ地ヨリ提喚スルニ其當日定刻ニ出頭スル能ハサルハ
固リ論チ俟タス必ス前日ヨリ出發セサルヲ得ス右ハ如何心得可然哉

前條之通其權衡比準稍安當ナラサル者アリ故ニ相伺候間至急御示論相成度候也

〔指令〕十年三月三十日 伺ノ趣該規則ニ付テハ全體改正ノ目度ニ付従前ノ通可相心
得事

司 民事部第十八號

十年三月二十二日

○〔第百十三〕 千葉縣ヨリ証書檢査之儀ニ付伺

金穀返濟之儀ニ付債主ヨリ負債主ヲ相手取裁判ヲ請求スルニ付裁判官負債主ヲ喚徴シ
該証書ヲ示シ返濟方ヲ申付ルニ負債主於テハ証書面ノ印形己ノ印形ニ相違セシ旨ヲ申
立ル因テ彼是比較スルニ敢テ相違ノ廉ヲ見スト雖モ徒ニ負債主ノ相違アリト主張スル

ヲ以テ地方警察官ヘ吟味願出ヘキ旨ニテ訴狀却下セラレシ趣ヲ以テ吟味願出ルニ付負
債主ノ喚徴証書ヲ示スニ最初ノ通印形相違ノ旨申立因テ其提携スル所ノ印形又ハ他ニ
差出セル書面中ニ有之印形等ニ比照スルニ毫モ相違ノ廉ヲ見ス尙ホ鑑定者兩人ヲシテ
檢査セシムルニ果シテ相違ナシ然ルニ尙ホ負債主於テハ印形ハ相違ナシト雖モ金穀借
受タル覺ハ之ナキ旨申張ル如キハ警官於テ証書ノ相違ナキヲ保証シ更ニ裁判ヲ請求ス
ル儀ニ候哉將々素ヨリ民事ノ詞訟殊ニ証書ヲ檢スルハ裁判官ノ手掌ニ係ルヲ以テ最初
負債主ノ相違ヲ申立ル節裁判官ニ於テ直ニ鑑定ヲ遂ケ相違ナキニ於テハ証書ノ通裁判
可致勿論之儀ニ候哉現件數多有之處分方差支候條至急御指令被下度此段相伺候也
〔指令〕十年三月三十日 伺ノ趣後段伺ノ通假令被告ノ相違ヲ申立ルアルモ素ヨリ裁
判官タルモノ之レヲ衆證ニ徵シ篤ト鑑定ヲ遂ケ相當ノ裁判可致ハ勿論ノ儀ト可心得
事

司 民事部第十八號

十年二月十四日

○〔第百十四〕 横濱裁判所ヨリ出訴期限規則中期限ノ儀ニ付伺

第一 本則中ニ於テ條約期限云々或ハ期限ヲ定メタル貸付米或ハ期限ヲ定メタル預ケ
金等ノ期限ナル者ハ預ケ主貸主等權利者ノ爲メニ立タル期限ヲ指シ候ヤ又ハ預リ人借
リ人等義務者ノ爲メニ立タル期限ヲ指シ候平義義務者ノ爲メニ立タル期限ノ一例ハ左
ノ如シ

證

一金何圓

但無利息

右ハ儘ニ預リ受取申候處實正也何年何月何日屹度返納可致爲後日仍テ如件

何年月日

預リ人 何 誰印

某殿

又權利者ノ爲メニ立タル一例ハ左ノ如シ

證

一金何圓

但無利息

右ハ儘カニ預リ受取申候處實正也何年何月何日マテノ中貴殿御入用次第屹度返納可致

候爲後日仍テ如件

何年月日

預リ人 何 誰印

某殿

第二 若シ一紙契約書中ニ義務者ノ爲メニ定メタル期限ト權利者ノ爲メニ定メタル期

限ト二事アル時ハ此規則上如何取計ヒ可申ヤ

義務者ノ爲メニ定メタル期限ト權利者ノ爲メニ定メタル期限ト二事アルモノ、一例ハ

左ノ如シ

質地證文

何反

一字何上々烟

右ノ烟ハ當卯年ヨリ來ル子年迄向フ十ケ年ノ間貨地トシテ相渡シ金若干受取申處實正

也然ル上ハ御年貢諸役共貴殿方ニテ御勤メ可被成候又何ケ年ニテモ此証文ヲ以テ御支配可被成候尤モ來ル子年ニ至リ金子有合ハセ不申節ハ猶又其年ヨリ更ニ十ケ年來ル酉ノ年迄ノ間ハ何時コテモ我等書面ノ金數辨納次第此地受戻シ出來候御約束ニ有之候仍テ爲後日質地證文如件

慶應三丁卯年三月二日

某殿

質地主 何 誰印
村役人 何 誰印

前書第一第二ハ先般相伺候處伺ノ儀明瞭ナラザルニ付尙明白ニ取調ヘ伺出ツヘキ旨御指令ニ依リ更ニ卑意ヲ垂鑒セラル、ニ容易ナラシムル爲メ一々證書類案相狹ミ候也
〔指令〕十年三月三十一日 第一條 第一項中預証書即チ尋常貸借ヲ以處分スヘキ約定面ニテ其ノ所謂ル期限ハ(何年何月何日屹度返納可致)義務者ノ爲メニ立ル者ト心得ヘク候事

但シ出訴期限ハ雙方契約ノ期限ヲ過キタル後チヨリ記算スヘキ者ト心得ヘク候事
第二項中預証書即チ尋常貸借ヲ以テ處分スヘキ約定面ニテ其所謂ル期限ハ(何年何月何日迄ノ中貴殿御入用次第屹度返納可致)權利者ノ爲メ立ル者ト可心得候事
但シ出訴期限ヲ記算スルハ證書中指點スル年月日迄ノ中未タ其要求ノ出訴ヲ爲サ、レハ其指點ノ日ノ翌日ヨリシ若シ其中其要求ノ出訴ヲ爲セシコトアレハ其裁判言渡ノ翌日ヨリスヘキ事

第二條 掲ル所ノ凡例不明瞭ナルヲ以テ何分ノ指令ニ及ヒ難ク尙ホ詳細取調再ヒ可
伺出候事

〔理〕

横濱裁判所伺引證ノ證書第一條中第二項ノ文意ヲ觀ルニ其名預證書ナレモ其實通常
貸借ヲ以處分スヘキ者ナリ(封ノ儘預置等ノ文字ナシ)而シテ其期限(何年何月何日
屹度返納可致)ハ即チ義務者ノ爲ナリ第二項中預證書モ亦是通常貸借ヲ以處分スヘ
キ者ニシテ其期限ハ(何年何月何日)マテノ中貴殿御入用次第屹度返納可致(即權利者
ノ爲メ立タル者)トス第二條ハ引證ノ文面アレモ到底明瞭チ欠キ其要領ヲ得カクシ

司民事部第十九號

九年十二月

○〔第百十五〕 宮城上等裁判所ヨリ訴答文例第二十條末項曲庇壓制控訴ノ儀ニ付伺
上等裁判所章程第一條ニ云ク府縣裁判所ノ裁判ニ服セスシテ控訴スル者ヲ覆審ストア
リ又訴答文例第二十條末項ニ豫審又ハ終審ノ裁判以前ノ場合ニ於テ其裁判役ノ曲庇壓
制等アルヲ以テ原被告人ノ上等ノ裁判所ニ申告ストアリ果シテ上等裁判所第一條章
程ノ如クナレハ初告裁判所ノ裁 査覆審スル而已ニシテ文例第二十條ノ末項ハ八年本省
甲九號ノ布達ニヨリ抵觸セシモノニ似タリト雖モ客歲八月東京裁判所伺(日誌八年第
八十六號五丁)御指令ヲ參考スルニ正シク消滅セス依テ左ノ條々ヲ相伺申候
一曲庇壓制ハ裁判官ノ爲ス所ナレハコノ目安キ以本訴ノ被告人ニ對シ控訴スルハ其當
チ得サルニ似タリ果シテ然ラハ被告ハ即チ裁判官ニシテ裁判ハ唯曲庇壓制ノ有無チ

判スルニ止ルカ

一又被告ハ本訴ノ被告ニシテ曲庇壓制ノ訴アレハ曲壓ノ所爲ヲ審問セサルヲ得ス之ヲ
審問スルモ原告ノ片言ナレハ輒ク信用イタシ難シ之ヲ初告裁判官ニ問ヘハ又裁判官
ノ陳述アリテ遂ニ裁判官ヲ召喚セサルヲ得ス左スレハ曲壓アル裁判官ト本案ノ被告
人ト共ニ訟庭ニ出テシテ審判及フ儀ニ候哉
一原告ノ片言ニモ曲壓ノ所爲アリト思量シハ直ニ訴答文例第二十條末項ニヨリ本訴ノ
被告人ヲ呼出シ本訴ノ裁判ヲナシ可然哉

右等ノ取扱ハ自ラ各上等裁判所同一ニ可出筋ニ前條ノ疑議相生候間御指揮ヲ仰候也
(指令)二十年四月二日(明治八年第九十一號公布)因リ文例廿條末項裁判以前ノ場合
ニ於テ控訴上告スルヲ聽サスト雖モ若シ裁判官曲庇壓制等之レアル時大審院章程第
五條ニ依リ告訴ヲ爲スハ此限ニ在ラサル儀ト可心得事
但シ東京裁判所指令ハ改正候事

東京裁判所へ改達按 十年四月二日

八年六月三日附ノ伺へ取消ニハ無之旨指令致シ置候處以來準據スヘカラサル儀ト可相
心得事

但同類例ノ事件有之節ハ猶可伺出事
〔理〕

宮城上等裁判所伺曲庇壓制云々ノ儀訴答文例第二十條末項豫審又ハ終審ノ裁判以前

ノ場合ニ於テ其ノ裁判後ノ曲庇壓制等アルヲ以テ原被告之ヲ上等ノ裁判所ニ申告スル云々ハ明治八年九十一號公布ニ依リ既ニ消滅シタル者ノ如シ如何トナレハ上等裁判所章程第一條上等裁判所ヲ各所ニ置キ府縣裁判所ノ裁判ニ服セスシテ控訴スル者ヲ覆審ストノ之アリ是ヲ以テ之ヲ考レハ上等裁判所ニ於テハ初告ノ裁判ヲ覆審スルノミニテ其ノ裁判以前ノ場合ニ於テ假令控訴スル者アルモ受理審判ス可ラサルヤ明瞭ナリ果シテ然ラハ其末項尙ホ存在セシ者ト見做ス時ハ該ノ上等裁判所章程ニ抵觸セサルヲ得サレハナリ亦タ枉テ之ヲ存在セシ者ト見做サンカ單ニ弊害ノミニテ利益ナキハ喋々チ俟タス蓋裁判後ノ曲庇ニ付申告或ハ故障中立ノ法律等ハ頗ル秘密ヲ極メサレハ多少ノ弊害ヲ免レサルナリ然ルニ項々タル一項ヲ以テ其ノ弊害ナキヲ保セサルヤ著明ニシテ一點ノ疑義ヲ容レス且裁判後故障ニ係ル法律違テ調査具申ノ目度ナリ

○〔民事部第十九號〕

十年三月六日

○〔第百十六〕 福島裁判所ヨリ同上伺

第一條 訴答文例第二十條ノ末項御取消ニ不相成儀ハ各所ヨリ本省ニ伺ノ御指令ニ依リ了知罷在候然ル處同條ハ專ラ初審裁判ニ就テノ謂ニシテ文中上等ノ裁判所トアルハ往時ニアリテハ司法省裁判所即今ニ於テハ上等裁判所ト相心得可然哉

第二條 同條中ニ所謂其裁判後曲庇壓制等アルヲ以テ原被告人之レテ上等ノ裁判所ニ申告ストハ其曲庇ノ廉ヲ申告スヘキモノ平又ハ曲庇ノ故ヲ以テ初審ノ裁判ヲ受ケス直

チニ終審ノ裁判ヲ申求スヘキキ意ノモノナル平若シ然ラハ原裁判所ニ於テ該件ノ局ヲ結ハスシテ一件取消サル、ヲ得ス然リ而シテ該件ヲ取消スノ期ハ上等裁判所ニ申告セシ事ヲ知り得クル日ヲ以テスヘキ哉又ハ上等裁判所ニ於テ受理相成リシ報ヲ得タル日以テスヘキ哉又ハ上等ノ裁判所ニ於テ裁判相成リシ旨通知ヲ得タル日ヲ以テスヘキ哉

第三條 曲庇壓制ノ事タルヤ成規ニ悖戻スル處置ヨリ生ス故ニ當該官吏負擔ノ責免ルヘカラス然リトイエヒ前條第二項ノ如ク曲庇ノ故ヲ以テ初審ノ裁判ヲ受ケス直チニ終

審ノ裁判ヲ申求スルニ止マルノ主意ナラハ假令上等裁判所ニ於テ曲庇ト看認メ終審裁判ヲ直行スルトモ初審裁判官曲庇ノ行ヒナシト自信スルニ於テハ別段罪ヲ待進退ヲ伺フニ及ハサル儀ト相心得可然哉

第四條 第二條ニ於テ取消シタル事件民事裁判表中何レノ部ニ掲上シ可然哉

第五條 控訴上告手續第二章第十條第二項ハ專ラ上等裁判所ノ處分ニ就テノ成規ニ候哉如何ントナラハ茲ニ初告裁判官審理中成規ニ違ヒ詞訟人ノ舉動ヲ傲慢ト歎無禮ト歎名ツケ拘留スルアリ被留者其壓制ニ堪ス之ヲ上等裁判所ニ告テ曰ク初告裁判所ニ於テ我カ意ニ適セサル口供ニ強テ調印ヲ命セラレタリ然リトイエヒ不滿意ノ口書ニ調印スヘキ謂レナシト存シ之ヲ拒ミタル處拘引拘留ノ苦楚ニ過ヘリ如斯不法ナル裁判所ノ裁判ハ受ケ難キニ付控訴シタリト云々依テ上等裁判所ニ於テハ右初審裁判所ノ處分成規ニ乖違シ曲庇壓制ノ實ヲ得ハ之ヲ受理シ終審ノ裁判ヲ行ハルヘシ是ニ因テ之ヲ見レハ

初審裁判所ニ於テ裁判ノ成規ニ乖キタルトキハ訴答文例第二十條末項ニ照ラシ又上等

裁判所ニ於テ裁判ノ成規ニ違ヒタルハ控訴上告手續第二章第十條第二項ニ據ルヘキモノ歟ト抱疑決シ兼候
右者福島縣舊裁判所ヨリ現在件ヲ以テ引受タル内ニ類似ノ者有之候處結局處分疑義ニ涉リ此段相伺候條至急御指令被下度候也

〔指令〕(十年四月二日)第一條第二條第三條第四條明治八年第九十一號公布ニ因リ文例廿條末項裁判以前ノ場合ニ於テ控訴上告スルコトヲ聽サスト雖モ若シ裁判官曲庇壓制等之レアルハ大審院章程第五條ニ依リ刑事告訴ヲ爲スハ此限ニ在ラサル事
第五條 控訴上告手續第二章第十條第二項ハ單ニ上等裁判所ノ處分ニ就テノ成規ヲリト雖モ裁判以前ノ場合ニ於テハ上告ス可ラサルハ勿論ノ事

〔民事部第十九號〕

九年十一月廿二日

○〔第百十七〕水戸裁判所ヨリ裁判手續ノ儀ニ付伺
明治八年四月十日常陸國信太郡佐倉村戸長ヨリ同郡古渡村戸長ニ對シ溜池堤敷地券受ノ故障ヲ舊新治裁判所ニ訴フ該所應セシレ舊茨城裁判所ニ引續キ明治八年九月三十日別紙甲號ノ通り裁決ス其後原告佐倉村ニ於テ舊地頭青山伯耆守ヨリ書下ケアル古書ヲ見出シタルニ由リ之ヲ証據トナシ明治八年十月廿八日更ニ該地々券受ノ故障ヲ舊茨城裁判所ニ訴ヘタリ因テ明治九年四月八日別紙乙號ノ通り裁決セリ然ルニ被告古渡村之ヲ控訴シ明治九年十一月十三日東京上等裁判所ニ於テ別紙丙號ノ判文ヲ下セリ夫レ此判文ニ依レハ舊茨城裁判所ノ次回ノ審理ヲ覆審ト爲シ權ナキ裁判ナラハ其効シナキ者

トナセリ而シテ初回ノ裁判ヨリ控訴期限過去タルヲ以テ後ノ証據ニ付テハ一言ノ判斷ヲ下サ、ルハ何ノ據アリ然ル乎信道ノ解セサル所ナリ何トナレハ則佐倉村ヨリ次回ノ訴ハ村内舊家ヨリ必用ノ古証書ヲ見出タルヲ以テ其証據ニ基キ出訴シタル者ナリ於此先裁判ニ關係ナク之ヲ受理シタル者ナレハ初回ハ初回ノ証據ニ照シ次回ハ次回ノ証據ニ基キ審理上目的トスル所ノ憑證其端ヲ改メ先後各差異アリ然レハ先後同一ノ証據ニ因リ覆審ヲ爲シタルモノトハ自ラ逕庭アレハ當裁判所ニ於テハ決シテ之ヲ覆審ト認メサリシナリ然ルニ上等裁判所ニ於テ之ヲ効ナキ覆審トナシ人民ヲシテ終ニ其權利ヲ伸ハシメサル裁判ヲ下シタル旨趣ハ更ニ了解シ得サル所ナリ既ニ明治八年本省日誌第六十二號敦賀縣伺ノ御指令ニ裁判役ニ於テ先裁判ハ証書ヲ誤認シタルニ依リ不當ノ裁判ナリト見認ル上ハ再審ノ上至當ノ裁判ニ改ム可シ又同年日誌第七十二號千葉裁判所伺ノ御指令ノ要旨ニ於テモ始審裁判ノキ相手一方ノ者ヨリ必用ノ証書ヲ押隠サレ之ヲ發摘スルニ由ナクシテ裁判ヲ受ケタルモノ其後押隠サレタル証書ヲ見認メタルヲ以テ改メテ訴出ル時ハ裁判不服ノ訴トハ誤柄同シカラサルヲ以テ更ニ始審ノ裁判致スヘシト相見ユタリ固ヨリ諸官省隨時事ニ就テノ指令ヲ定規ト爲ス可カラスト雖モ此指令ノ如キ條理誠ニ然ラザルヲ得サルモノナレハ之ヲ擴充照考スルニ該件次回ノ判決ハ覆審ニアラザルヲ証スルニ足レリ然ルニ上等裁判所ノ判決ノ如ク其審理 源因ヲ問ハス一度始審ヲ經タルモノハ再ヒ始審裁判所ニ於テ受理スルヲ得ストセハ例ハ金銀貸借ノ詞訟原告ヨリ提供スル証文金銀ノ内被告ニ於テ若干既ニ償還シタル旨ヲ爭フモ其領収証ヲ

紛失シテ之レ無キ時ハ原告ハ有証被告ハ無証ナルヲ以テ別ニ其証跡ヲ摘發シ得ルニ非
 ラサレハ裁判所原告請求ノ全額被告ヨリ償却セシメサルヲ得ス然ルニ被告不服ヲ以テ
 控訴スルニ終審裁判所ニ於テモ亦始審裁判通リ裁判ヲ爲シタル後被告ニ於テ其紛失証
 書ヲ見出シ更ニ最前重價ノ金穀取戻シテ訴出ルニ始審裁判所ハ勿論終審裁判所ニ於テ
 モ復タ之ヲ受理スルヲ得サルカ如シ果シテ然ラハ人民ハ何ノ處ニ向テ其枉屈ヲ伸暢セ
 シヤ若シ如此ナルキハ良民無限ノ枉屈ニ陥リ猶子姦指ヲ逞スルニ至ラント必セリ抑モ
 始審終審ノ權限決シテ斯ノ如キ窮屈不便ノモノニ非サルモノト信憑スヘキハ前顯敦賀
 縣及ヒ千葉裁判所ニ御指令アリシ旨趣ニ於テモ亦明カナリト雖モ今般ノ如キ行違ヒヨ
 リ有權利ノ人民ヲ枉屈セシムルハ實ニ容易ナラサルニ付將來前隙ノ如キ場合其罣置振
 如何和心得可然哉明瞭御指示有之度別紙判決狀寫(略)相添此段至急相伺候也
 (指令)十年四月五日)一旦裁判言渡ヲ爲シタル上ハ後日該訴ニ至要ナル証書ヲ見出
 シタルトテ同一ノ裁判所ニ於テ同一ノ事件ヲ再ヒ審判スルヲ得サル事
 但相手方ノ詐偽姦謀ニヨツテ至要ノ證據書類ヲ藏匿サレ之レカ爲メ一時負訴訟ト
 ナルモノ控訴期限之レヲ見出シ願出ルヲ得ルハ格別ノ事トス
 八年本省日誌第六十二號敦賀縣伺ヘノ指令ハ該伺トハ其旨趣ノ異ナルヲ以テ援引不相
 成事

〔理〕

水戸裁判所伺ノ趣一旦裁判言渡シタル後ハ容易ニ變改ス可ラサルハ裁判ノ通理ニシテ

今更蝶々ヲ要セサルモノナリ然ルニ該伺云フ所ノ如ク後日至重ノ証書ヲ見出シタルト
 テ再ヒ同一ノ裁判所ニ於テ同一ノ事件ヲ審理シ其曲直ヲ改判スルヲ得ルトセハ裁判終
 決ノ期ナク其ノ社會安堵ノ點ニ關係スル頗ル少々ナラサルナリ今又之ヲ佛ノ訴訟法
 (第四百八十條以下)ニ徵スニ相手方ノ詐偽姦謀ニヨツテ至重ノ証書ヲ藏匿セラレ一時
 之ヲ見出ス能ハスシテ負訴訟トナルモノ後日之ヲ發見シタル時ハ控訴スヘシ又控訴期
 限ノ過キタルキハ前裁判言渡ノ取消ヲ願フヲ得ルトアリ由是觀之ハ相手方ノ詐偽姦
 謀ニ係ルヲナク單ニ自己ノ無念疎漏ヨリ當切如是ノ証書ヲ見出サ、ルハ其疎漏ニ出テ
 其權利ヲ失フタル者ト爲シ裁判ノ終決ヲ爲シ社會ノ安堵ヲ求メサルヲ得サルナリ

○(民事部第十九號)

十年三月五日

○(第一百十八) 東京裁判所ヨリ原裁判所執行ノ儀ニ付伺

爰ニ甲某ナル者アリ乙某ニ掛リ當裁判所へ貸金催促ノ訴ヲ起スニ請求不相立旨ノ裁判
 ニ服セスシテ更ニ控訴シタリ上等裁判所於テハ乙某ヨリ甲某ニ對シ借金償却可致ト判
 決セリ乙某亦之ニ不服竟ニ大審院ニ上告ス此時ニ當テ當裁判所ハ控訴上告手續第十八
 條ニ從ヒ原裁判ノ執行ヲ停メヌ即時乙某辨償ノ資力ナケレハ法ニ依リ必ス其身代限ノ
 財産糶賣代金ヲ以テ相當ノ償却ヲ遂ケシメサルヲ得ス然ル後若シ同院ニ於テ原裁判ヲ
 破毀シ更ニ後ノ裁判ヲ執行セント欲ストモ甲某既ニ費用シ償ヒ戻スヲ能ハサル時ハ後
 ノ裁判執行ノ名アリテ其實行ハレス獨リ乙某ノ損害ニ歸スルノミ抑院ノ要トスル所ハ
 唯原裁判ノ不法ヲ破毀スルニアリテ後ノ裁判執行ノ調不調ハ其自然ニ任セ殊サテ注

意スルニ不及トモハ可ナリ果シテ然ラハ何ゾ内外交渉ノ上告ノミ原裁判ノ執行ヲ停メラル、ヤ臆測スルニコレ後ノ裁判執行上ニ厚ク注意ヲ加フ故ナル可シ此意ヲ推シテ尙内國人互ノ上告ノ上ニ及サ、レハ獨リ該上告ノミ甚ク不幸ニ居ル夫レ人民ノ入費ヲ厭ハス敢テ上告スル所以ノモノハ其破毀ノ後更ニ裁判ノ執行ヲ渴望スルニ非サル者ナシ故ニ後ノ裁判執行ノタメ聊注意ヲ加ヘサレハ同シク乙某ノ如キ損害ヲ受クル者殆ト居多ナル可シ此ノ如キ處分ニ屬シテハ恐クハ其穩當ヲ盡セリト云フヲ得サルニ似タリ依テ自今原裁判ヲ直ニ執行スル時ハ若シ院ノ判毀ヲ得ルニ至テハ迎モ後ノ裁判ヲ執行スルヲ必ス難出來者ト該裁判官見認ムル上ハ當分假ノ執行ヲ(例ヘハ糶賣代金ヲ長役場ニ預ケ置クノ類)テ兎角後ノ裁判執行ヲ爲スニ妨ナキ様取扱致ス(云) 致候テハ如何可有之哉於然ハ名實共ニ其宜キヲ得ル歟ト存候條此段奉伺候也

〔指令〕(十年四月五日) 伺ノ趣難開屆本年第九號布告控訴上告手續ノ通可相心得事

〔理〕

東京裁判所伺原裁判假執行ノ儀一應允當ナルカ如シト雖モ元來上等裁判所ノ裁判ハ即チ覆審ノ裁判ニテ之ヲ確的ノ裁判ト看認セサルヲ得ス是レ假令ヒ上告スルモ裁判執行ヲ止メサル所以ナリ若シ其執行ヲ止ルニ於テハ權利者タル者ハ數十月ノ久ヲ待ニアラサレハ其權利ヲ行フ能ハス義務者ハ漫ニ上告ヲ名トシ持久ノ奸計ヲナスニ至ルヘシ抑大審院破毀裁判ノ趣旨ハ法律ヲ統一スルニアリ覆審ト其性質ヲ異ニセリ

〔民事部第十九號〕

十年三月二十三日

○〔第一百十九〕 静岡裁判所ヨリ本年丁第二十三號達訟獄審理表追加ノ儀ニ付伺本年本省丁第二十三號ヲ以テ訟獄審理表雛形中云々刑事表モ(既裁)ノ下ニ(願下)ノ一欄ヲ加ヘ云々ト有之刑事ハ既ニ檢事(檢事無之地方ハ警察官)求刑ノ後裁判官於テ取扱フ者ニ付實際上願下ノ件ハ無之ト存候

但シ引渡ノ一欄ハ民刑互用イタス可ク筋ニハ無之哉

右差向候儀ニ付至急御指揮仰候也

〔指令〕(十年四月五日) 伺ノ趣刑事ノ願下トハ讒謗律ニ據テ被讒者ヨリ出訴シ既ニシテ榮譽ニ損害ナシト認メテ願下ヲ爲シ又有夫姦ニ依テ本夫ヨリ出訴シ既ニシテ却テ一家ノ安寧ヲ害シ自己ノ榮譽ヲ損害スルト認メ亦願下ヲ爲ス等ノ事ト心得ヘキ事但シ引渡シノ一欄ハ民刑兩表共ニ用ユルハ勿論ノ事

〔理〕

静岡裁判所伺本年丁第二十三號達刑事表ニ願下ノ一欄ヲ加ヘ云々ノ件或ハ該裁判所ノ實際ニ於テ未ク刑事ノ願下アルヲ見サルヨリ思考ノ此ニ至ラサルモノ平又但書ニ問フ所ノ如キモ夫ノ達文ニ就テ少シク考フレハ明カニ之ヲ解スヘシ故ニ何出テ須ヒンヤ

〔民事部第十九號〕

十年三月廿九日

○〔第一百二十〕 大審院ヨリ外國人ヨリ上告預金ノ儀ニ付伺

明治十年三月十三日第三十一號御布告ニ明治八年第百號御布告ハ今般控訴上告手續收

正ニ付自ラ消滅スト有之就テハ上告者ヨリ金拾圓ヲ預リ候儀ハ外國人モ同様預リ可申
哉此段至急御指揮有之度依テ相伺候也
〔指令〕(十年四月五日) 伺ノ通

司(民事部第十九號)

九年十二月十二日

○(第百二十一) 青森縣ヨリ裁判所ヨリ人民呼出御用狀賃錢仕拂方ノ儀伺
訴訟原被告人呼出或ハ督責狀ノ類遞送費ノ儀ハ一般ノ民費ニ關係スルノ理無之依テ曲
者ヨリ辨納爲致可然哉ノ旨本年一月十九日附テ以相伺候處民費ニ賦シ或ハ曲者ヨリ辨
納セシムル規則無之趣二月廿日御指令ニ候處於然ハ原被告人曲直ヲ不論呼出并督責狀
ヲ受ル本人ヨリ賃錢仕拂候儀ニ可有之哉或ハ官費裁判所ノ費用ニモ可有之哉難決此段
相伺候也
太政官工上稟

〔理〕

青森縣伺呼出狀賃錢仕拂方ノ儀ヲ審思スルニ本邦從來ノ慣習ニ據レハ裁判所等ノ費
用ニ出テ、原被告人ニ於テハ關係ナキモノ、如シト雖モ抑該費ノ起由ヲ尋ヌレハ詞
訟者ノ爲メニ生スル所ノモノニシテ裁判所ノ爲メニ生セサルハ論ヲ待タサルナリ然
ラハ該件ノ如キモ訴訟入費消却規則第十一條第十二條ニ照準シテ審判後曲者ヨリ取
立テシム可キハ至當ノ事ナリ然リト雖モ不參ノ故ヲ以テ督促狀ヲ受ル者ハ自己ノ
不良ニ依テ之レヲ來タズ者ナレハ宜シク其ノ本人ヲシテ其ノ費用ヲ拂ハシム可キナ
リ蓋シ若シ其ノ費用ヲモ本訴曲者ノ擔當スヘキ者ト爲セハ直者自己ノ不良ニ依テ生

シタル費用ヲ拂ハシムル者ニシテ所謂ル無原因ノ義務ヲ盡サシムル者ニ當レハナリ
因テ該縣へ左ノ通(略之)指令可及ト存候得共未タ確定ノ例規モ無之義ニ付爲念一應
相伺候也
右裁下ノ上左ノ通指令ス十年四月十日

伺ノ趣ハ訴訟入費消却規則第十一條第十二條ニ照準シ曲者ヨリ取立ツ可シ尤モ不參
ノ故ヲ以呼出狀又ハ督促狀ヲ出ス時ハ直者ト雖モ其ノ本人ヨリ該費ヲ取立ツ可キ事
但本文ノ理由ニ依ツテ前指令ノ義ハ取消候事

司(民事部第十九號)

十年二月廿日

○(第百廿二) 和歌山縣ヨリ律法上說辨ノ儀ニ付伺

夫レ書ハ言ヲ盡サ、ルニ苦ムト誠ニ然リ況ヤ拙文ニ於テヤ尙其文飾且冗長ナルハ固
リ人ノ賤惡スル所豈其レ然ランヤ然リト雖之ヲ吐發セサレハ既ニ官民ノ間接上壅塞ノ
恐レアルヲ奈何セン抑國家ヲ擔任スル至重ノ義務ヲ固有セシ人民ナレハ朝旨ノ所在須
ラク執守シ以テ其疑惑ノ念ヲ去リ其奉體ノ情ヲ固シ各其分ニ應シ各其奉体スヘキ責ヲ
塞クハ則是通義ナリ然ルヲ悲哉頑僻固陋ノ域ヲ脫却セス尙未タ智識昏迷ノ嘆ヲ免レ難
キ者甚少シトモ而シテ成法ノ内ニ就キ其法ハ伺ノ典タルヲ解得セサルアリ爰ニ於テ
管廳之ヲ遠ク認シテ覽ラシムルアリ近ク譏リテ諫ムルアリ諭言以テ之ヲ教ヘ賞言以テ
之ヲ勸ムト雖モ半解信疑ノ間ニ躊躇シテ中心服セズ動モスレハ其事理不明暢ヨリシテ
紛紜ヲ生出スルナシトモ是民情上ニ塞リ朝意下ニ達セサルニ胚胎スル證ナランヤ依

テ其分トシ務トスル所ニ付テ管廳是ヲ論解スル等ハ固リ贅ス迄モ無之候旨テ當縣守代
 言人共ヨリ法律及ヒ御布告等疑惑ノ廉有之本人共ヨリ伺方順序ノ儀伺出ノ次第モ有之
 客年七月十四日相伺候處同年八月一日ヲ以テ「伺ノ趣人民ニ對シ地方官ヨリ教示候儀
 ハ不苦カ指令スル筋ニ無之儀ト可相心得事」ト御指令有之尙ホ亦預リ金等ノ件ニ付有
 同斷代官人共ヨリ伺出ノ趣モ有之最前ノ御指令ニ基キ直チニ教示可及等ナレヒ聊疑義
 ニ涉リ本年二月廿日相伺候處即チ本年五日ヲ以「各人民ニ對シテハ法律ノ辨明一切不
 致候事」ト御指令(第九十九號第九十)有之然ルニ右兩度ノ御指揮ヲ對照スルニ一ハ教示
 不苦一ハ法律ノ辨明一切不致ト其事端兩端ニ分離シ其御旨趣敬察致シ難ク何レノ一端
 ナ主ト相心得可然哉將テ法律ノ一切ハ各人民ニ舉テ說辦致置ヘキ者ニ有之マシク歟ナ
 リト雖亦其保護上ヨリ之ヲ思考スルニ特ニ代官人ニ限ラス其此ヲ伺出ル以上ハ成ヘク
 周悉教示ヲ加ヘ以テ法規ノ所在ヲ服膺セシメ其奉體ノ情ヲ固クスルノ緊要ニシテ則チ
 交際上ノ欠クヘカヲサル所ナラン平蓋シ天理ノ人心ニ備具スルカラハ法律辨明ノ御下
 論無之斷然寬假ヲ與ヘラレサル平抑モ亦深キ御旨意可有之蓋シ又人民賢ニシテ且明ナ
 ラハ斯ノ如キ伺出モナカルヘシト雖實際前陳ノ如ク其蘊奧ノ精細ヲ窺知スル由ナキヨ
 リ恰モ望洋ノ歎ヲ抱キシ場合前顯拒斥シテ之ヲ教示ヒサレハ其疑惑何レノ時ニカ其法
 ノ意義ヲ領會セシヤト惑然ノ次第ニモ有之候ニ付尙詳悉御明示相仰度因テ別紙相副此
 段相伺候也
 (指令)(十年四月十日)各人民ニ對シ法律ノ辨明不致儀ハ本年三月五日相達候通ニ候事

但前指令ノ所謂教示トハ地方官一己ノ所見ヲ以テ示諭スルノ謂ニシテ指令辨明ス
 ルノ謂ニ非ス故ニ教示ハ準據スヘキノ命令ニ非ス又遵守スヘキノ効力アルニ非ス
 斯理由ナルニ因リ前後ノ指令抵觸ハ無之事

司(民事部第十九號) 十年三月廿日

○(第百二十三) 金澤裁判所ヨリ出訴期限之儀ニ付伺

第一條 明治六年三月三十一日司法省第五十號御達第二項壬申七月以前ノ貸借ニテ返
 濟期限同七月後ニ係リタルハ期限後滿五年ニ至ル迄一度モ訴出サル者云々ト又明治六
 年第三百六十二號御布告第五條從前取結ヒタル條約ニテ明治六年十二月三十一日以前
 ニ條約期限ノ切レタル事件ハ右明治六年十二月三十一日ヲ條約ノ期限ト看做シ云々ト
 アリ然ルニ壬申七月朔日以後ノ金銀貸借証書ニシテ六年十二月三十一日以前返濟期限
 ノ切レタルモノト雖モ亦右第五十號御達ニ依照シ其滿期ノ翌日ヨリ出訴期限ヲ算シ可
 然カ將々右第三百六十二號御布告ニ依準シ六年十二月二十一日ヲ條約滿期ト看做シ其翌
 日ヨリ出訴期限ヲ計ヘ可然乎

第二條 明治六年三月三十一日司法省第五十號御達第一項壬申七月以前金銀貸借ニテ
 既ニ七月以前返濟期限過去タルハ同七月ヨリ五ヶ年ノ内云々トアリ然ラハ壬申六月大
 陰曆小ノ月廿九日以前金銀貸借ニテ同日以前期限ノ切レタルモノハ壬申七月朔日ヨリ
 當明治十年八月二日ニ至リ日數千八百二十五日トナルニ依リ右二日ニ至ル迄ヲ滿五年
 ノ出訴期限内ト爲シ可然ヤ將々明治九年二月ノ閏日ヲ加ヘ本年八月三日ニ至ル迄ヲ五

年ノ出訴期限内ト爲シ可然ヤ

第三條 明治六年十一月五日第三百六十一號御布告出訴期限第一條ニ有ハ六ヶ月限トアルハ一月ヲ三十日ト爲シ日數百八十日ヲ六ヶ月ト計算致シ可然ヤ
右疑義相伺候條至急御指揮奉仰候也

〔指令〕(十年四月十日) 第一條壬申七月以後ノ金敷貸借ニシテ六年十二月三十一日以前返濟期限ノ切レタルモノト雖モ其滿期ノ翌日ヨリ出訴期限ヲ起算スヘシ

第二條 斯月斯日ヨリ翌月斯日ノ前日迄ヲ一箇月トス故ニ一箇年トハ十二箇月即チ斯年斯月斯日ヨリ翌年斯月斯日ノ前日迄ヲ云フ是ヲ以其計算ヲ立ヘシ
但改曆前後ニ跨ル者ハ六年司法省第四十四號布達第二款ノ通廿八日ヲ加フヘシ

第三條 第二條ノ通

〔民事部第十九號〕

十年二月廿九日

○〔第百廿四〕 東京府ヨリ代理委任ノ儀ニ付伺

某甲詞訟ノ事件アリ乙某ニ部理代人ヲ委任シ有之處乙某疾病事故アリ甲ノ承諾ヲ得委任狀ヲ添ヘ丙ニ委任スルハ不苦儀ニ候ヘ共適々甲ノ旅行ニ際シ事急遽ニ出テ承諾ヲ受ルニ違アラサル場合甲ノ委任狀ヲ添ヘ乙ヨリ丙ニ丙ヨリ丁ヘ輾轉委任スル類一々甲ノ承諾ヲ不受以上ハ尺長ヨリ證ヲ難與儀ト相心得可然哉此段相伺候也

〔指令〕(十年四月十二日) 伺ノ越乙某疾病等ニ因テ某甲某ノ承諾ヲ得ルニ暇アラサル己ムヲ得サル場合ニ於テ乙某ヨリ直ニ丙某ニ一時代理ヲ依托スルハ不苦ト雖モ丙某ヨ

リ丁某ヘ輾轉委託スルハ不相成候事

但丙某ノ過失ニ因リ某甲某ノ損害ヲ生セシ時ハ乙某其責ニ任ス可シ

〔理〕

東京府伺代理委任ノ儀ハ甲本人ノ承諾ヲ經スシテ他ニ輾轉委任セシムルハ自然弊害ヲ醸スノ嫌アリト雖モ該伺ノ如ク已ムヲ得サル場合ニ於テハ一時乙ヨリ丙ニ限リテハ代理ヲ許シ乙ヲシテ甲本人ニ對シ其責ヲ負擔セシムルヲ允當ナリ

○〔民事部第十九號〕

十年四月二日

○〔第百廿五〕 静岡裁判所ヨリ民事訴訟審理中ノ主件ヲ警察官ニ向ヒ吟味願ヲ爲ス儀ニ付三次伺

第一條 民事審判中ノ主件ヲ警察官ヘ吟味願ナスモノ、儀ニ付去三月七日付ヲ以テ再應相伺候處民事ノ訴ヲ警察官ニ於テ受理スヘキ理ハ無之云々ト御指令(第十八號第百四)有之益疑團ヲ生セリ抑過般來伺出候儀ハ素ヨリ民事ノ吟味願ヲナスモノ、謂ニアラス其民事審理中ノ事件ヲ警察官ニ向ヒ刑事吟味願ノ名義ヲ借用シテ訴出スルモノヲ指シタル義ニ有之是即去三月七日付再伺而續述セシ事柄ノ如キ類ニテ裁判官ニ於テハ決テ刑事ト認メサルヲ以テ專ラ民事ノ審理ヲ爲シ居ル最中突然警察官該件ノ願旨ヲ受理スルヨリ自然審理權冒瀆ノ姿ニ方ル哉ニ相考ヘ再應相伺タル次第ニ御座候然ル處再伺面御指令ニ依リ熟考スルニ右伺而續述モシ事柄ノ如キモノハ民事ノ吟味願ト御看做シ相成タル義ト存候果ノ然レハ右ノ如キ事柄ノ吟味願ヲ警察官ニ於

テ受理スル筋ハ無之義ト相心得可然哉

第二條 右ノ御主意ニ候ハ、最前ノ御指令(三月二日)ニ刑事ノ味吟願ヲ爲スモノハ裁判ヲ中止スヘシ云々トアルヲ實際上ニ徴シテ視ルキハ民事審理中現ニ刑事ノ發覺セルモ裁判官忽諸ニ付シ檢事ニ通報セサル乎又ハ刑事ノ發覺スヘキ端緒アルモ裁判官之ヲ知ラサル時被害者人直ニ警察官ニ告訴スルモノヲ指サレタル義ニ可有之哉

(指令)(十年四月十二日)第一條 其裁判所 三月七日付再伺面ニ假令原告人ニ於テ疑フヘキ廉アルモ民事ノ審判結局ニ至ラサル内ハ被告人タルモノ之レヲ警察官ニ申告シ警察官亦タ之レヲ受理スルノ條理之レナキ旨縷述スト雖モ甚タ妥當ナラサルモノナリ原告人若シ詐偽贗造等ノ犯罪アリテ其ノ爲メ損害ヲ蒙ラントスルノ恐レアル時ハ假令民事ノ審理結局ニ至ラサル以然ト雖モ被告人タルモノ之レヲ警察官ニ申告シ警察官タルモノ亦タ之ヲ受理糾問スルハ無論當前ノ理ニシテ敢テ職務冒瀆ノ筋ニアラサレハナリ是レ過般ノ指令ニ刑事ノ吟味願ヲナス云々ノ文字熟讀可致旨指令セル所以ナリ能ク前指令ヲ了解可致事

第二條 現ニ犯罪ノ發覺シ或ハ發覺スヘキ端緒アリ場合ノミナラス亦タ前條ニ云ヘル如ク其犯罪ノ爲メ損害ヲ蒙ラントスルノ恐レアル時被告人タルモノ之ヲ警察官ニ申告シ警察官タルモノ之ヲ受理糾問スルノ場合ヲモ指シタル儀ト可心得事

司民事部第十九號

十年四月二日

○(第百廿六) 福島裁判所ヨリ建物書入質ノ儀ニ付伺

第一條 本年內務省甲第六號ヲ以テ自今建物書入質ノ証書面ニ造作ノ有無記載可致旨布達相成候上ハ人民之レヲ遵守スヘキハ勿論ノ儀ニ候得共如シ此布達ニ戻リ造作ノ有無記載セサルモノハ其造作ノミ特取ノ權ヲ失フ迄ニテ明治八年第四百十八號公布建物書入質ノ效ニ於テ妨ナキハ勿論ノ儀ト相心得可然哉

第二條 従前建物ヲ目スルニ庇椽板敷居鴨居等構造シ有之分ハ附着連合ノ不動産ナルヲ以テ殊更ニ之レヲ分離セス其有形ノ儘ニテ處分致シ來リ候處示後前條內務省布達ニ戻ルモノハ従前ノ契約トイエヒ分離ノ處分スヘキ哉又ハ従前ノ契約ハ前記慣行ニ依テ處分シ可然哉右兩條疑義相伺候條至急御指令被下度候也

(指令)(十年四月十二日)第一條 伺ノ通

但シ該布達周知以前ノ分ハ固ヨリ限外ナリト可相心得候事

第二條 前條ノ理由ナルニ付従前慣行ノ法ニ據リ處分ス可キ事

(理)

福島裁判所伺本年內務省甲第六號布達ハ思ニ八年太政官第四百十八號布告建物書入質規則ヲ緻密ナラシメタルモノニシテ其ノ之レヲ遵守セシムルヤ蓋シ人民周知ノ日ヨリ算ス可キハ宜シシ法理ノ原旨ニ叶ヘルモノナレハナリ

司民事部第十九號

十年四月六日

○(第百廿七) 長野縣ヨリ老幼ノ者代人差出方ノ儀伺

昨九年御省甲第壹號ヲ以て代理人規則御發行且右但書ヲ以本人疾病事故ニテ不得已場合

ニ於テハ其至親ノ内之ニ代ルヲ得可ク若至親無之者ハ區区長ハ証書ヲ以相當ノ代人ヲ出ス亦不苦旨御布達有之然ル處唯タ本人老衰又ハ其至親アリト雖モ幼弱ナルヲ以辭ト爲シ他ニ相當ノ代人相選差出スノ類有之有ハ他ニ疾病事故無之ト雖モ年齡上ニ於代人差出シ不苦ノ概規モ有之儀ニ候哉差掛候儀有之爲心得相伺候條至急御裁下有之度候也
 (指令) (十年四月十四日) 伺ノ趣本人老衰ニシテ至親ノ之ニ代ルヘキ者ナキ場合ニ於テハ相當ノ代人差出不苦儀ト可相心得事

〔理〕

長野縣伺老幼ノ者代人差出方ノ件ハ要スルニ訴訟本人疾病事故等ニ非スト雖モ老衰ニ由テ代人ヲ出スノ例規無キカ如クナルヲ以テ疑議ヲ生シタルモノ也惟フニ他人ヲ要スルハ己ムヲ得サルノ場合ヨリ出ルニ非サルモノナキハ固ヨリ不俟論既ニ然ハ老衰ニシテ自己訟庭ニ出ルヲ能ハサル者ヲシテ代人ヲ出サシムルモ又妨ケナカルヘシ

○(民事部第十九號)

十年四月九日

○(第百廿八) 熊谷裁判所ヨリ出訴ノ起頭被告ノ答辨ヲ俟テ受理不受理ヲ裁決スル儀ニ付伺
 一 証券印稅規則中第五則附錄第十一十二三條ニ違ヒ金高相當印紙貼用致サ、ル共貸借上相違無之旨申立ル時ハ濟方及裁判犯則ノ廉ハ債主負債主共刑事ノ處分ニ付スル儀ト心得可然哉又ハ規則ニ違觸スルヲ以テ貸借ハ相違無之トモ一應規則ニ照準シ却下可致儀ニ有之ヘク哉

一 訴訟用紙規則第九條中第一項第二項第三項第四項ニ照準シ訴答書其他書類可差出ノ處假令ハ黑色ノ紙ヲ用ユ可キヲ黃色ノ紙ヲ用ユル時ハ規則第五條ニ依リ貸借上相違無之トモ不受理可然哉 右奉伺候也

(指令) (十年四月十六日) 第一條 印稅規則附錄第十一條ニ照シ却下ス可シ但シ印紙貼用ノ上再ヒ出訴スル時ハ無論受理致ス可キ事 第二條 伺ノ通

○(司法省指令錄民事部第二十號)

十年三月九日

○(第百廿九) 山梨縣ヨリ控訴ノ儀ニ付伺

茲ニ甲乙二人へ連及スルノ事件アルニ甲一人ノミ地方裁判所ノ初審ヲ受ケ乙ハ全ク其訴訟ニ與ラス然ルニ此初審ヲ不服ナリトシ最前初審ヲ受ケル甲ハ讎テ之ニ與ラスシテ乙一人ヨリ之ヲ控訴シ覆審ヲ求ムルノ權利アルモノニ可有之哉爲心得相伺候也
 (指令) (十年四月十九日) 伺ノ趣初審ノ裁判ヲ不受ル者ヨリ控訴スヘキ儀ハ無之答ト可心得事

〔理〕

但シ二人連及シテ一人ノミ裁判ヲ受ヘキ儀實際於有之ハ指的シテ可伺出事
 山梨縣伺ノ趣ハ立言明確チ欠キ殆ント主旨ノ所在ニ惑フ甲乙二人連及トハ何等ノ事ヲ指スヤ之ヲ連帶ノ義務者トセンカ該訴ニ與知セサルノ理ナシ若レ果シテ與知スルヲ要セサル者トセハ今之レヲ控訴スルノ理ナシ將タ連帶ノ義務者ニシテ甲乙二人ノ内何レカ失踪等ニテ該訴ニ與知セス一人ニテ其義務ヲ負擔シ失踪者ノ歸リ來ルコ及

テ之レカ償却(負擔シタル半額)ヲ求ムルノ訴訟ナラハ是レ甲乙二人間ノ關係ニシテ
該訴ノ原告ニ係ルヘキ者ニ非ス然ル時ニ是亦決シテ控訴スヘキノ理ナキヤ明瞭ナリ

官令全報第十二終

東京神田五軒町十八番地弘令社

社主 小笠原美治

編輯 同人

印刷 吉野朝計

明治十五年四月第四刊

第二千一百九十一號

共七冊